クボタトラクタ

取扱説明書

Bb260

F-13339A

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	火気厳禁
	燃料（残量）
	ディーゼル軽油
	グロー
	バッテリ充電異常
	エンジンオイル
	水温計
	エンジン回転数
	ホーン
	方向指示器表示

	ヘッドライト
	アクセル高
	アクセル低
	倍速ターン
	電子アップ
	水平制御
	耕深制御
E	E 耕深制御
	オイルゲージ
	ワイパ前

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

6A671-6251-2(カラー)

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は Bb260 を基本とし，Bb260 と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

１．小径タイヤ付き ..... N 仕様
２．標準 3 点リンク、けん引ヒッチ付き ..... P 仕様

目　次

⚠ 安全に作業するために ..... ⚠-1
1．安全キャブについて ..... ⚠-1
2．運転前に ..... ⚠-2
3．始動時に ..... ⚠-2
4．運転時に ..... ⚠-3
5．作業機使用時に ..... ⚠-5
6．走行時に ..... ⚠-6
7．駐車，格納時に ..... ⚠-7
8．点検・給油・整備時に ..... ⚠-7
9．⚠表示ラベルと貼付け位置 ..... ⚠-10
10．⚠表示ラベルの手入れ ..... ⚠-13

サービスと保証について 1
ご相談窓口 1
補修用部品の供給年限について 1

本機について 2

運転に必要な各部の名称 3

運転前の点検 5

エンジンの始動と停止 6
始動のしかた 6
停止のしかた 9
寒冷時の暖機運転 10
バッテリあがりの処置 10

トラクタの運転 11
ならし運転（最初の約 50 時間） 11
運転席回りの調節 12
シートの前後調節 12
シートの高さ調節 12
安全キャブとシートベルトについて ... 13
チルトステアリングハンドル 13
バックミラー 14
灯火類の操作 14
コンビネーションスイッチ 14
発進・走行 15
ブレーキペダル 15
クラッチペダル 16
前輪駆動レバー 16
倍速ターンノブ 17
副変速レバー 17
アクセルレバーとアクセルペダル 18
駐車ブレーキ 18
主変速（グライドシフト）レバー 19
停車・駐車 19
運転中の作動確認 20
次の場合には，直ちにエンジンを
止めてください。 20
イージーチェッカ 20
燃料計 21
水温計 21
トラクタメータ 22
デフロックの使い方 22
デフロックペダル 22
旋回のしかた 23
坂道での運転 23
ほ場への出入り時の注意 24
走行時の注意 24
トラックへの積み・降ろし 25
パワーステアリングの取扱い 25
外部電源取出端子 26
ローダ電源用カプラ 26
予備電源用カプラ 26

油圧・三点リンク・PTO 27
油圧 27
油圧（ポジションコントロール）レバー 27
レバーストッパ（下降側）の使い方 27
レバーストッパ（上昇側）の使い方 27
電子アップレバー 28
３点リンクの安全ロック機能 29
作業機落下速度の調整 29
三点リンク 30
ロアーリンク取付け穴の選択 31
トップリンク 31
リフトシリンダの調整 31
チェックチェーン 32
作業機を取付けないときの注意 32
けん引ヒッチ 33
PTO 33
PTO 変速レバー 33
PTO 軸キャップ，PTO 軸カバー 34

モンローマチックオートの取扱い 35
スイッチの名称 35

目　次

モンローマチックの使い方 36
水平切換スイッチ 36
角度調節スイッチ 37
耕深制御の使い方 37
耕深調節ダイヤル 38
耕深感度の設定 39
故障・異常の表示 39
緊急時の対応方法 39

タイヤ・ウエイト 40
タイヤの空気圧 40
輪距 40
前輪・後輪 40
ウエイト 41
ウエイト（オプション） 41

キャブ装備品の取扱い 42
ドア・窓の開閉とロック 42
ドア 42
リヤウインド 42
ルームランプ 43
ワイパ 43
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ . 43
リヤワイパ 43
寒冷時のワイパの使用 44
作業灯 44
作業灯 44
エアコン 45
空気の流れ 45
風向調整 45
コントロールパネル 46
取扱い操作方法 46
ヒータ使用上の注意 47
インプルメント用操作ボックスの取付位置 47

トラクタの簡単な手入れと処置 48
廃油処理について 48
定期点検箇所一覧表 49
給油（水）一覧表 51
トラクタの給油（水） 51
推奨オイル・グリース一覧表 52
エンジンオイル・ミッションオイル ... 52
グリース 52
ボンネットの開閉 53
フロントグリルの開閉 53
ボンネットの開閉及び
サイドカバーの外し方 53
サイドカバーの開閉 54
日常点検 54
エンジンオイルの量及び汚れ 55
ミッションオイルの量及び汚れ 55
冷却水の量 56
バキュエータバルブの清掃 56
燃料フィルタの水，沈殿物の点検 56
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 57
防虫網の清掃 57
ブレーキペダルの遊び・点検 58
駐車ブレーキの作動点検 58
クラッチペダルの遊び・点検 58
メータ・ランプ類の作動 59
50 時間ごとの点検・整備 60
グリースの注入 60
エンジン始動システムの点検 60
倍速ターン高速けん制装置の点検 61
タイヤ取付けボルトの点検 61
ワイヤハーネス，バッテリ
（＋）コードの点検・交換 61
クラッチハウジングの水抜き 62
燃料パイプの点検 62
100 時間ごとの点検・整備 63
エンジンオイルの交換 63
バッテリ電解液の点検 63
エアクリーナエレメントの清掃 65
ファンベルトの点検・調整 66
クラッチペダルの点検・調整 66
ブレーキペダルの点検・調整 67
200 時間ごとの点検・整備 68
エンジンオイルフィルタ
カートリッジの交換 68
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 68
油圧ミッションオイルフィルタ
カートリッジの交換 68
トーイン調整・タイロッドの点検 69
ラジエータホースの点検 70
室内エアフィルタの清掃 70
外気フィルタ 70
エアコンコンデンサの詰まり 71
エアコンベルトの張り 71
300 時間ごとの点検・整備 72
ミッションオイルの交換 72
前車軸ケースオイルの交換 72
400 時間ごとの点検・整備 73
燃料フィルタエレメントの清掃交換 73
600 時間ごとの点検・整備 73
前部デフケース前後遊びの点検と調整 .. 73
800 時間ごとの点検・整備 74

エンジンバルブクリアランスの点検 ... 74
1年ごとの点検・整備 ... 74
エアクリーナエレメントの交換 ... 74
ヒータ配管，ウォータホースの点検 ... 74
エアコン配管，ホースの点検 ... 74
2年ごとの点検・整備 ... 75
冷却水の交換 ... 75
ラジエータの洗浄 ... 76
ラジエータホースの交換 ... 76
燃料パイプの交換 ... 76
モンローシリンダホースの交換 ... 76
ヒータ配管、ウォータホースの交換 ... 76
必要に応じた点検・整備 ... 77
ヒューズの交換 ... 77
スローブローヒューズの交換 ... 77
ランプ類の交換 ... 77
オイルの注油 ... 77
ウォッシャ液の補充 ... 77
冷媒（ガス）の補充 ... 78

格　納 ... 79
長期格納時の手入れ ... 79

不調と処置 ... 81
エンジンの不調と処置 ... 81

付　表 ... 82
主要諸元 ... 82
トラクタの主要諸元 ... 82
走行速度表 ... 83
PTO 回転速度表 ... 83
標準付属品 ... 83
アタッチメント一覧表
（純正アタッチメントを使いましょう）. 84
インプルメント一覧表 ... 85
主な消耗部品一覧表
（純正部品を使いましょう） ... 86

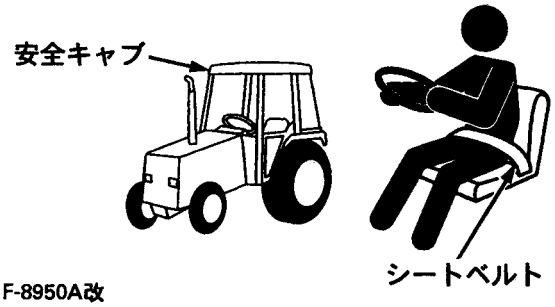
作業ごとの一般的な調整要領 ... 88

⚠安全に作業するために　　必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

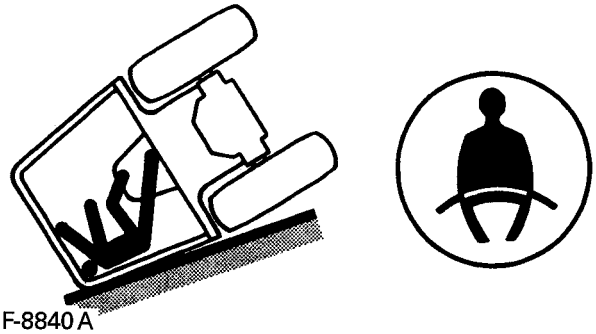
1．安全キャブについて

安全キャブは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

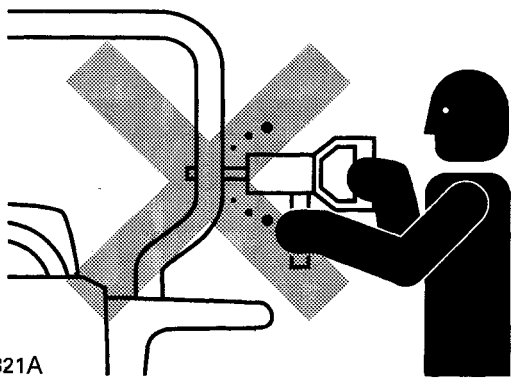


F-8950A改

1. 運転時は安全キャブとシートベルトを常に使用するようにしてください。

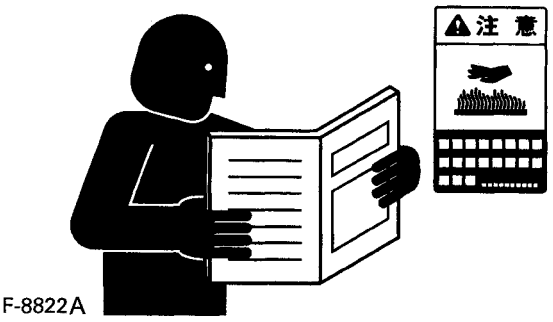

F-8840A

2. 安全キャブを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。


F-8821A

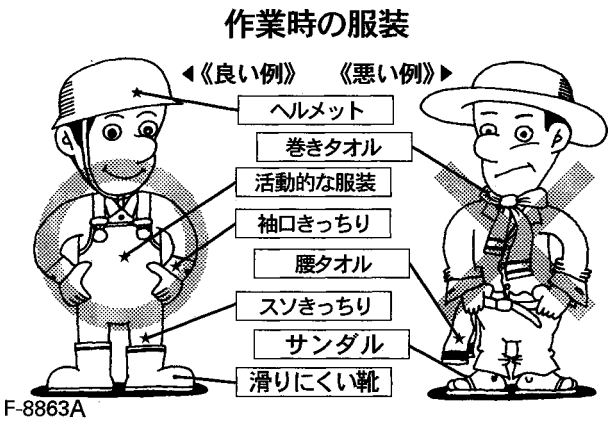
2．運転前に

1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
4. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。



F-8822A

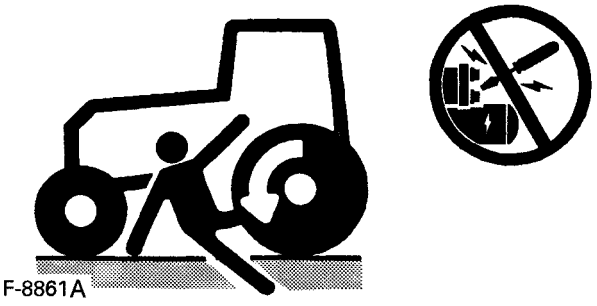
5. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。
6. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
7. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。紛失したり損傷した部品は交換してください。ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は**「トラクタの簡単な手入れと処置」**の章参照）
8. トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。



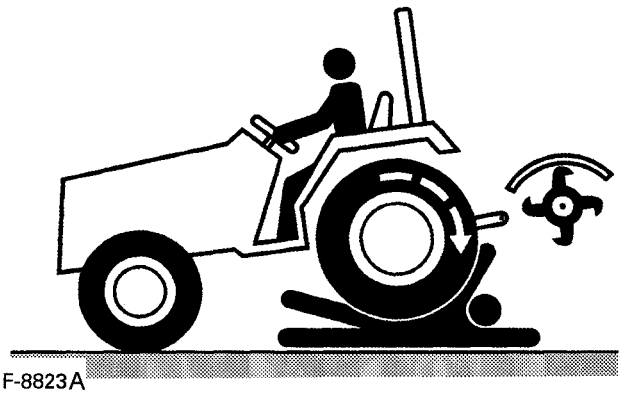
F-8863A

3．始動時に

1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やＰＴＯ変速レバーが［**中立**］かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。トラクタが突然動き出すおそれがあります。


F-8861A

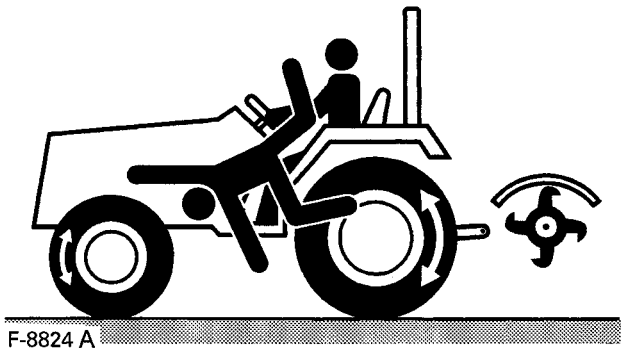
3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。又，安全キャブに当たる障害物がないかも確認してください。



F-8823A

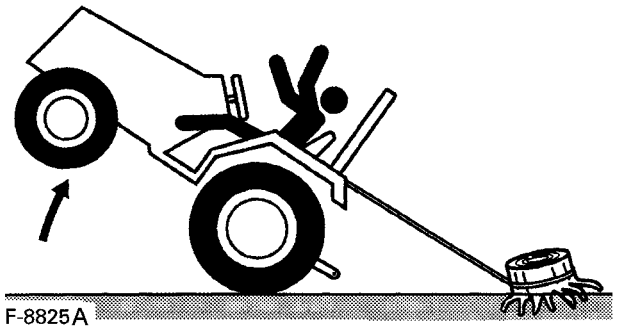
4．運転時に

1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。又，必ずシートに座って運転してください。



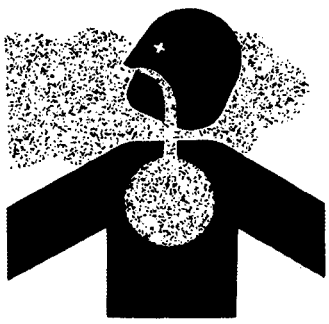
F-8824 A

2. けん引作業には，けん引ヒッチ（別売）を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。トラクタの破損や転覆の原因となります。



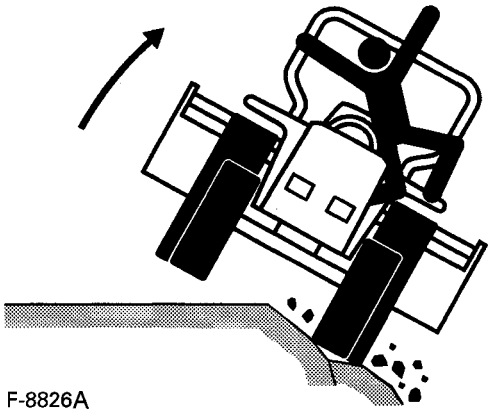
F-8825A

3. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。



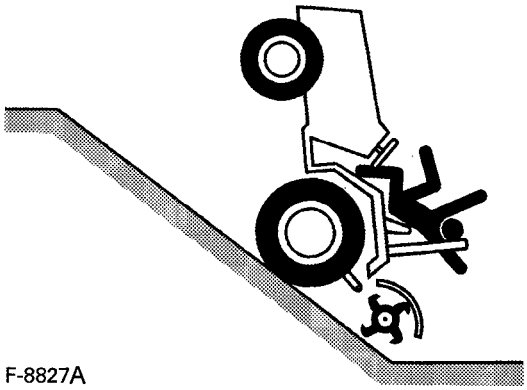
F-8842A

4. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。



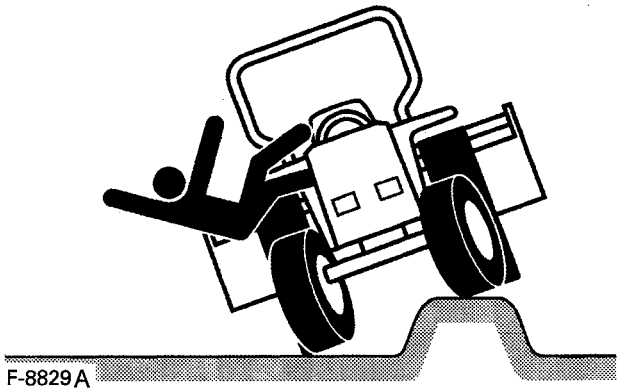
F-8826A

5. 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。
6. 共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。



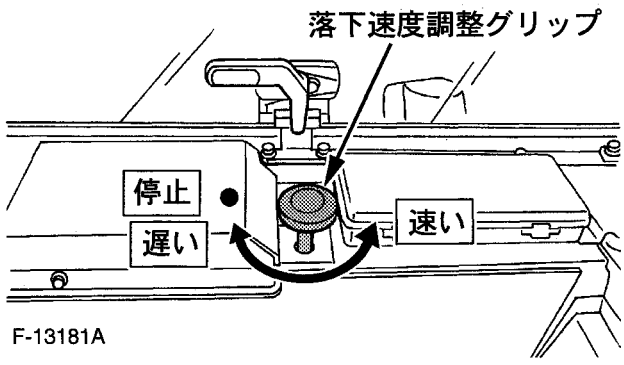
F-8827A

7. ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。



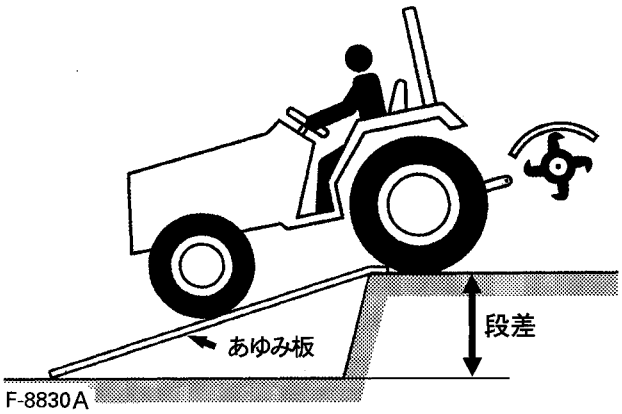
F-8829A

8. ほ場外では，落下速度調整グリップで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。
   遅い方向に締めきるとロック（停止）します。



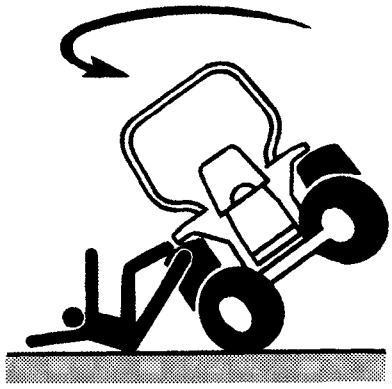
F-13181A

9. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。
   あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。
10. 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。



F-8830A

11. 倍速ターンはほ場以外では［**切り**］にし，使用しないでください。又，高速では倍速ターンを使用しないでください。


F-8862A

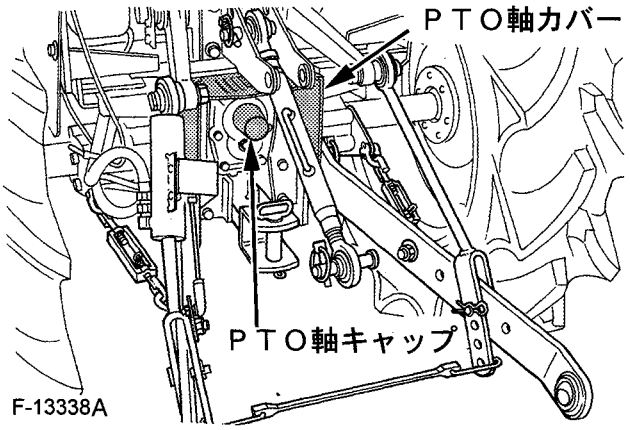
5．作業機使用時に

1. 作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。
2. トラクタから降りるときや，ロータリなどPTO作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。

F-8844A

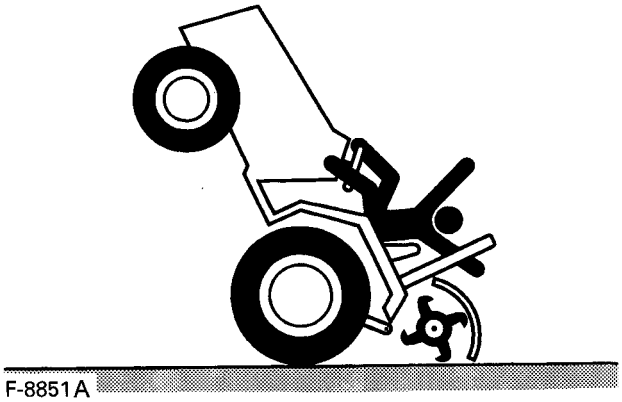
F-8845

3. PTOを使用しないときは，PTO軸キャップを装着しておいてください。
4. PTO軸カバーは常に取付けておいてください。
5. PTO作業機は，その作業機で定められたPTO回転以上で使用しないでください。機械の破損や人身事故のおそれがあります。



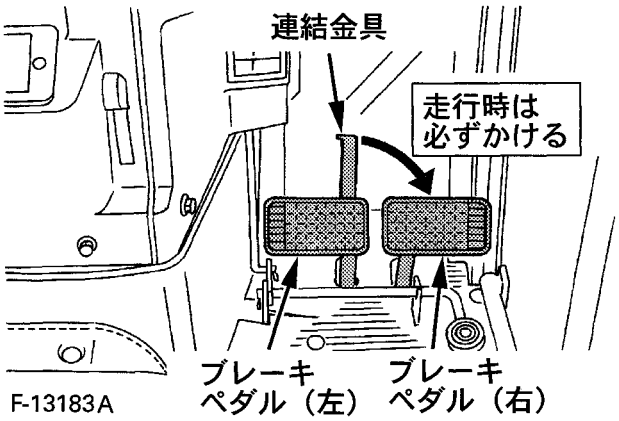
F-13338A

6. トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重がトラクタ質量の20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
7. 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。詳細は購入先にご相談ください。


F-8851A

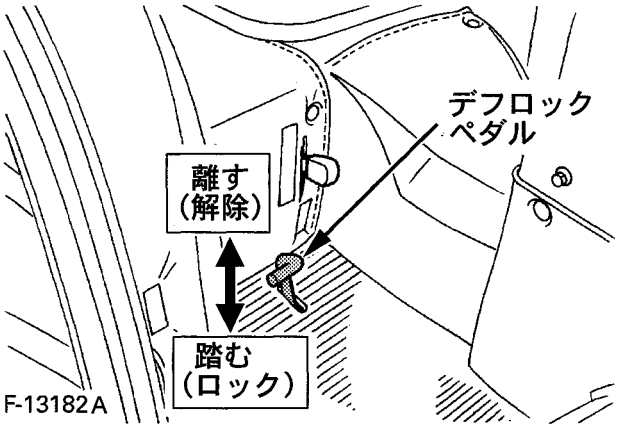
6．走行時に

1. 走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や事故のおそれがあります。
2. 本機は道路運送車両法の小型特殊自動車に該当しません。本機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときはトラックに積んで運搬してください。
3. トラックで運搬するときは必ず本機の駐車ブレーキを掛け、ロープなどで荷台に固定してください。

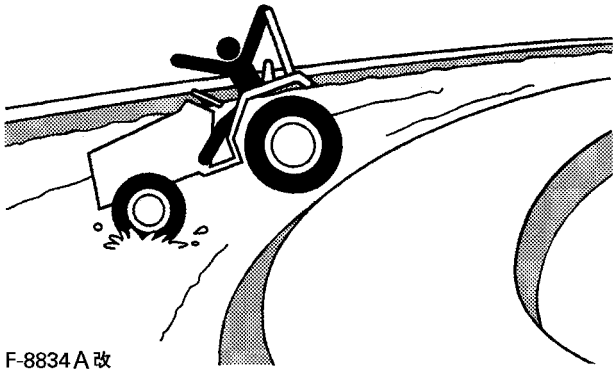


F-13183A

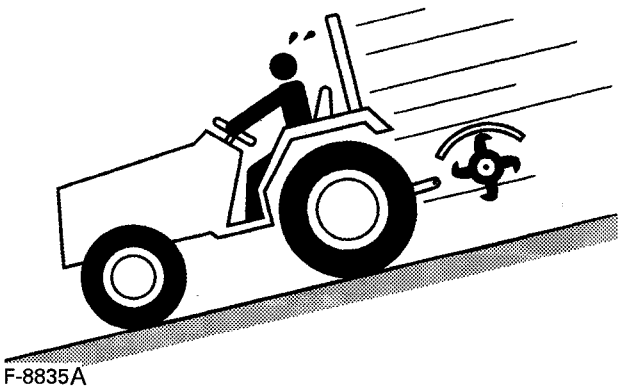
4. 走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作が出来なくなります。
5. 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。



F-13182A


F-8834A改

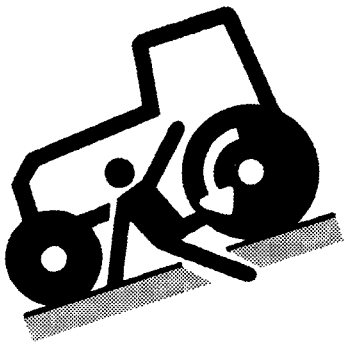
6. 坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなるおそれがあります。



F-8835A

7．駐車，格納時に

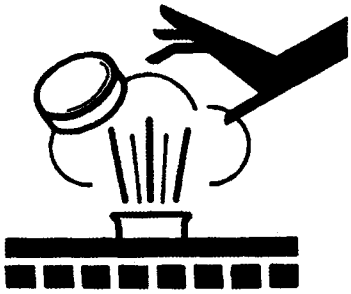
1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，ＰＴＯを［**切**］，作業機を［**下げ**］，変速レバーを［**中立**］，駐車ブレーキを［**掛け**］，エンジンを［**停止**］してキーを抜いてください。やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。



F-8843A

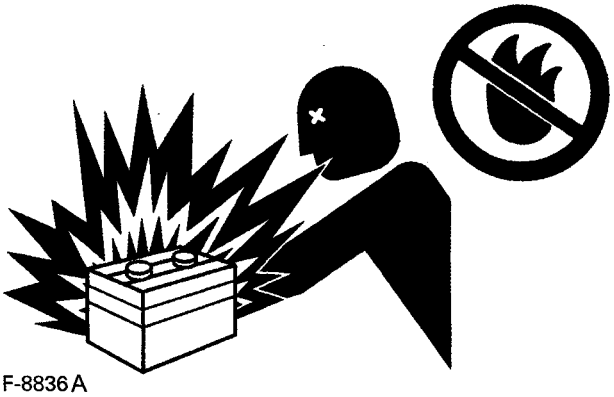
8．点検・給油・整備時に

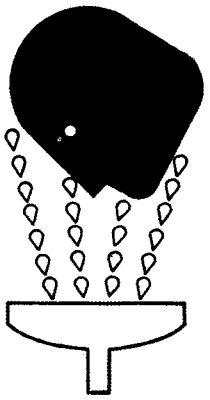
1. 平たんな場所に駐車し，作業機を［**下げ**］，駐車ブレーキを［**掛け**］，変速レバーを［**中立**］にし，そしてエンジンを停止してください。
2. エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。



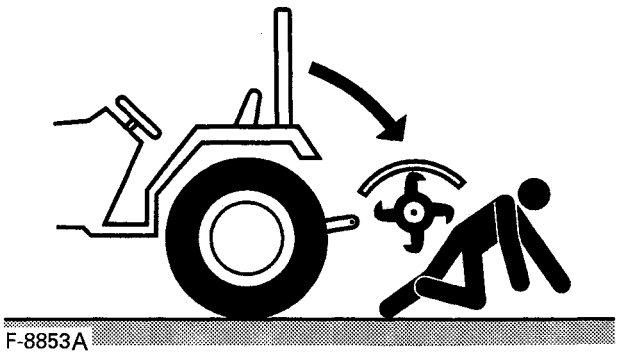
F-8846A

3. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。
4. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。(上手な運転のしかたの章 **[バッテリあがりの処置]** を参照)
5. バッテリは液面が LOWER (最低液面線) 以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐに UPPER LEVEL (上限) と LOWER LEVEL (下限) の間に補水してください。(補水可能なバッテリ)
6. バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
7. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

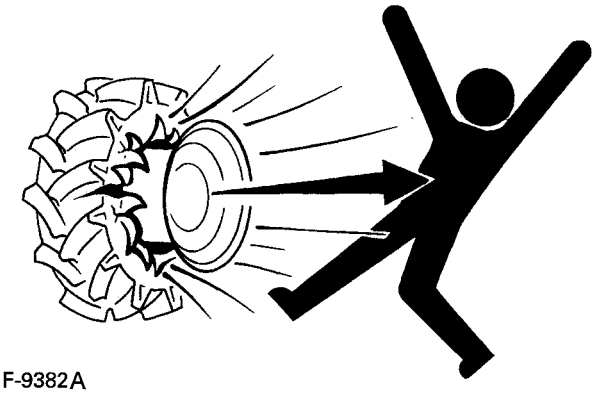

F-8836A


F-8837A

8. ３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行なう場合，必ず落下速度調整グリップで作業機が落下しないようにロック (停止) してください。ロック (停止) するとともに適切なジャッキ又はブロックで落下防止の歯止めをしてください。


F-8853A

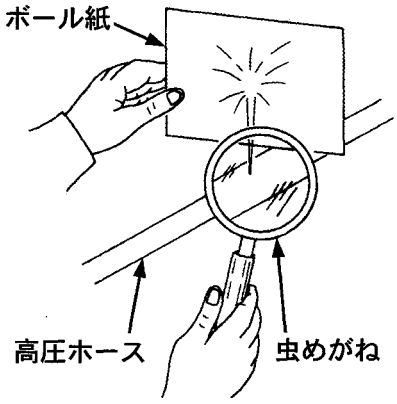
9. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
10. タイヤに傷があり，その傷がコード (糸) に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
11. タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。(特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。)


F-9382A

12. 圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

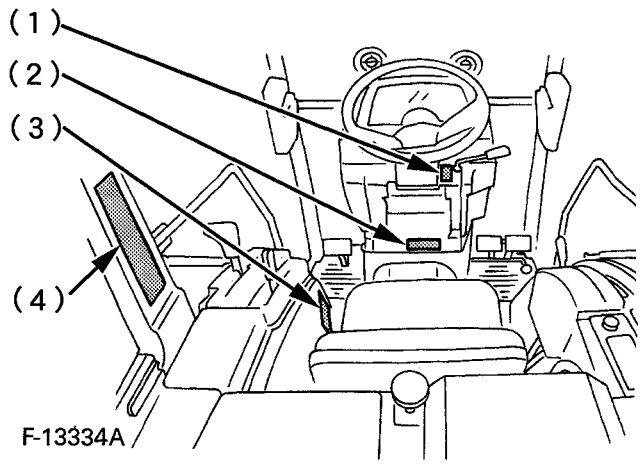
F-8847A

13. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。

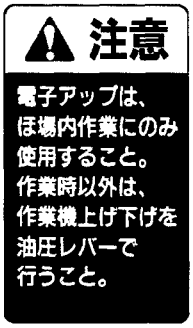


F-2359A

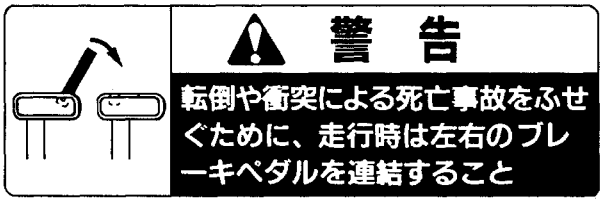
9. ⚠ 表示ラベルと貼付け位置



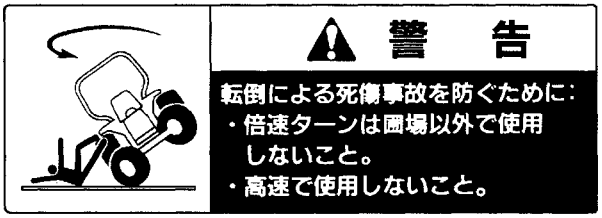
(1) 品番 6A100-4757-1



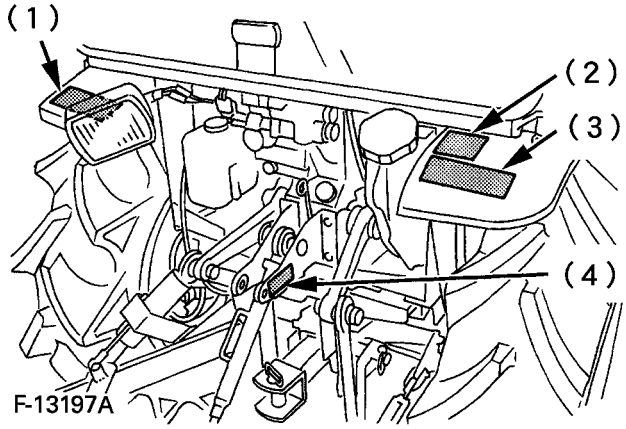
(2) 品番 6A671-4746-1



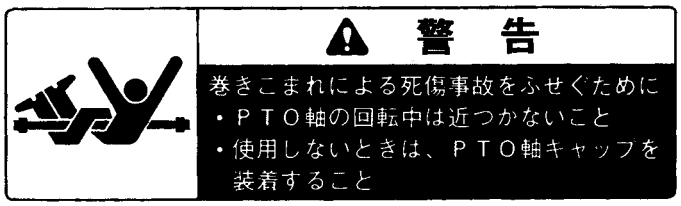
(3) 品番 6A100-4763-1



(4) 品番 6A671-4772-1

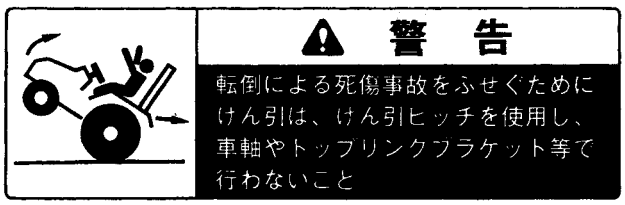


(1) 品番 T0180-4959-1

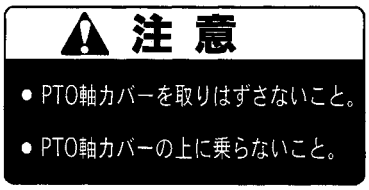


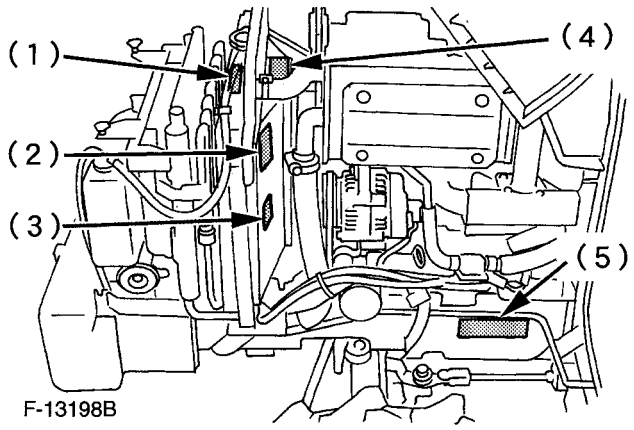
(2) 品番 3F740-9828-2

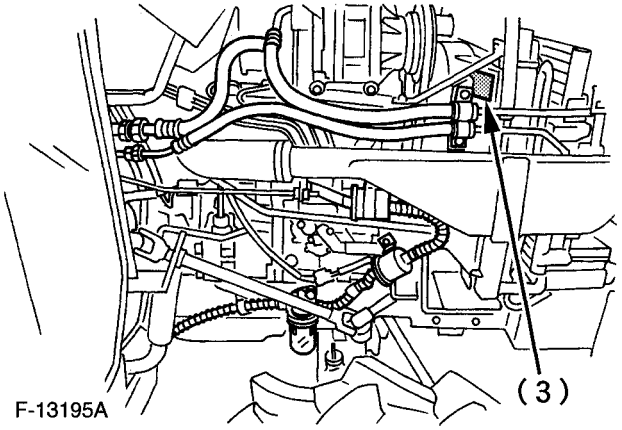
(3) 品番 T0180-4904-1



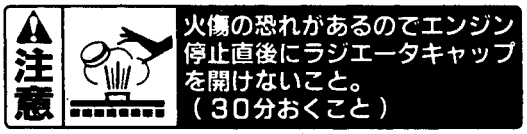
(4) 品番 6A100-4772-1





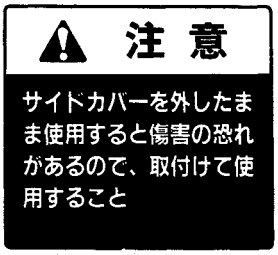


(1) 品番 T1060-4954-1



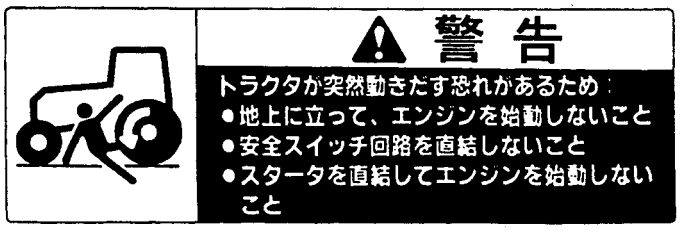
(2) 品番 T0180-4958-1

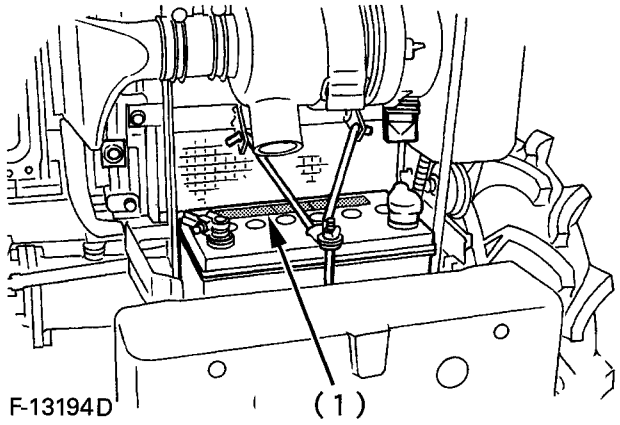
(3) 品番 T0180-4955-1



(4) 品番 T0180-4957-1

(5) 品番 T0180-4965-2





(1) 品番 6A320-5559-1

10. ⚠表示ラベルの手入れ

1. ラベルはいつもきれいにして傷付けないようにしてください。もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

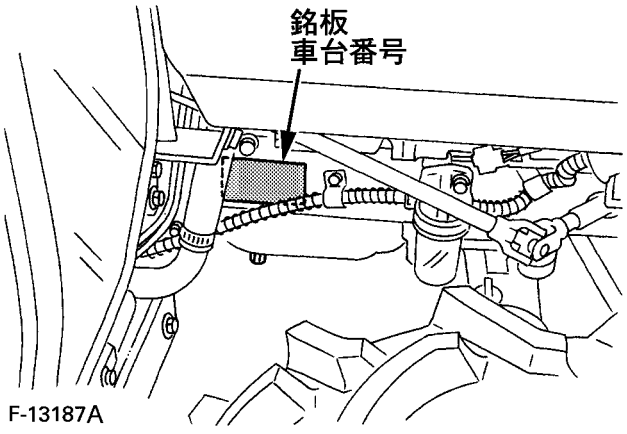
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**ご相談窓口**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している

1. 農機型式名と車台番号
2. 機関型式とエンジン番号

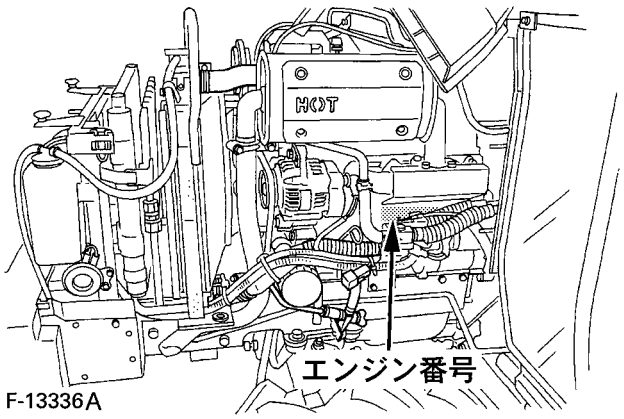
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使い方と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



F-13187A



F-13336A

農機型式名	安全鑑定番号
クボタ Bb260	26148

型式名 （安全キャブ）	型式検査（国検） 合格番号
Q-Bb260	201014

＊検査成績表は巻末をご覧ください。

■補修用部品の供給年限について

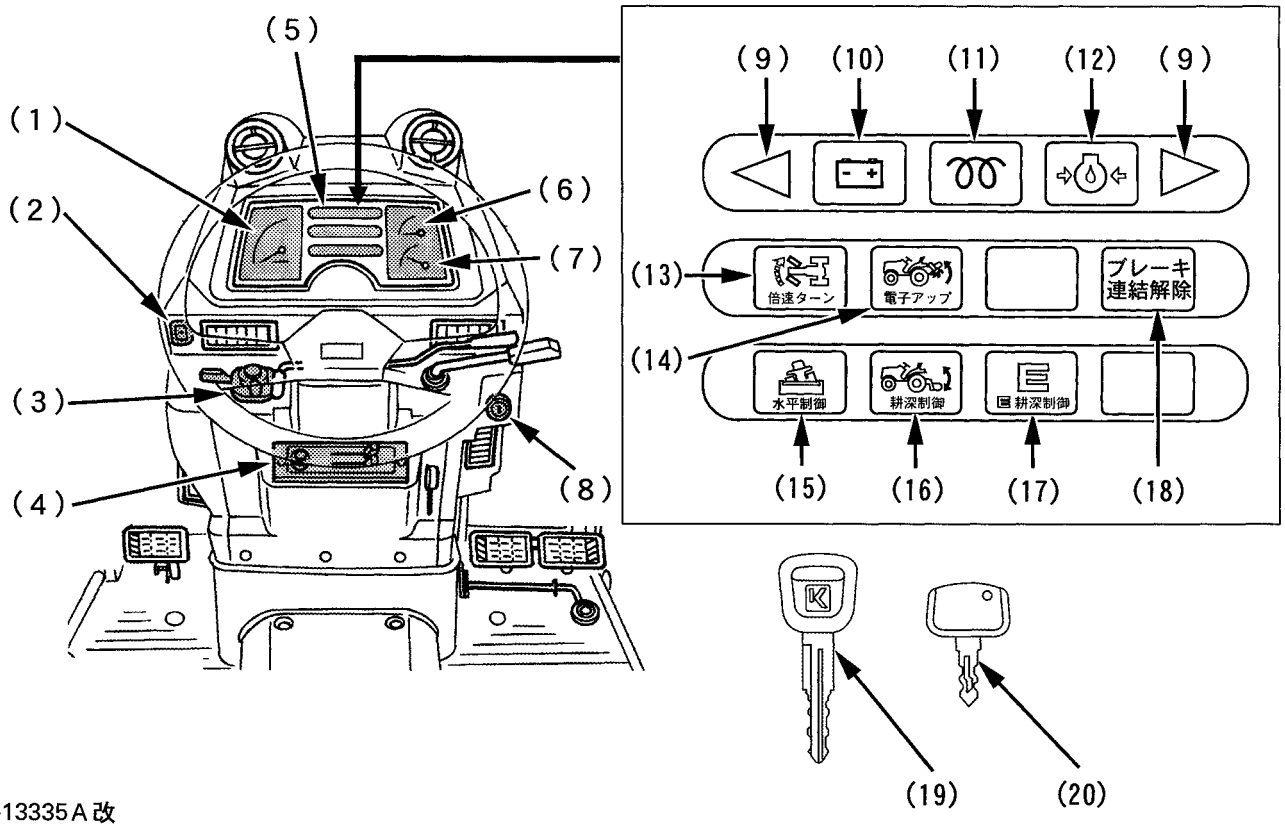
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

本機について

本機は道路運送車両法の小型特殊自動車に該当しません。本機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときはトラックに積んで運搬してください。

運転に必要な各部の名称

各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

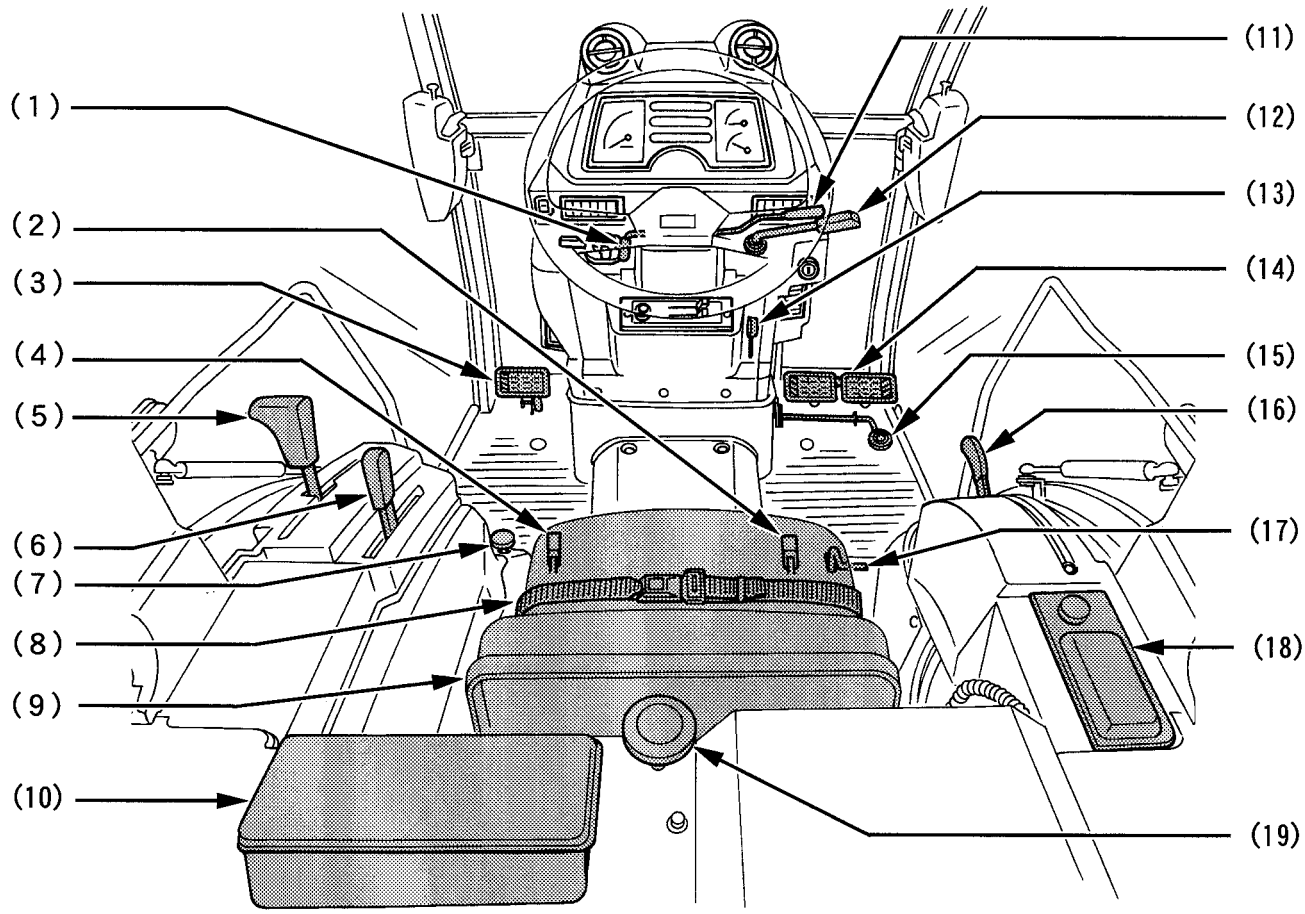


F-13335A改

	参照ページ
(1) トラクタメータ	22
(2) フロントワイパスイッチ	43
(3) コンビネーションスイッチ	14
ライティングスイッチ	14
ウインカスイッチ	14
ホーンボタン	14
(4) エアコンコントロールパネル	46
(5) イージーチェッカ	20
(6) 水温計	21
(7) 燃料計	21
(8) キースイッチ	7

	参照ページ
(9) ウインカパイロットランプ	14
(10) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）	20
(11) グローランプ	8
(12) エンジンオイルランプ（エンジン油圧警告灯）	20
(13) 倍速ターンランプ	17
(14) 電子アップランプ	28
(15) 水平制御ランプ	36
(16) 耕深制御ランプ	38
(17) E 耕深制御ランプ	38
(18) ブレーキ連結解除ランプ	15
(19) キャブドア用キー	42
(20) 始動用キー	7

運転に必要な各部の名称



F-13335B

	参照ページ
(1) チルトレバー	13
(2) 前輪駆動レバー	16
(3) クラッチペダル	16
(4) PTO 変速レバー	33
(5) 主変速レバー	18
(6) 副変速レバー	17
(7) 倍速ターンノブ	17
(8) シートベルト	13
(9) シート	13
(10) 工具箱	-

	参照ページ
(11) 電子アップレバー	28
(12) アクセルレバー	18
(13) 駐車ブレーキレバー	20
(14) ブレーキペダル	20
(15) アクセルペダル	18
(16) 油圧（ポジションコントロール）レバー	27
(17) デフロックペダル	22
(18) MA スイッチ	35
(19) 落下速度調整グリップ	29

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
〔点検方法の詳細は，［**トラクタの簡単な手入れと処置**］の項を参照。〕

注　意

＊ 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをするおそれがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
1. エンジン停止後 30 分経過してから開ける。
2. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊ 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず指定［**クボタ純オイル**］を使用してください。

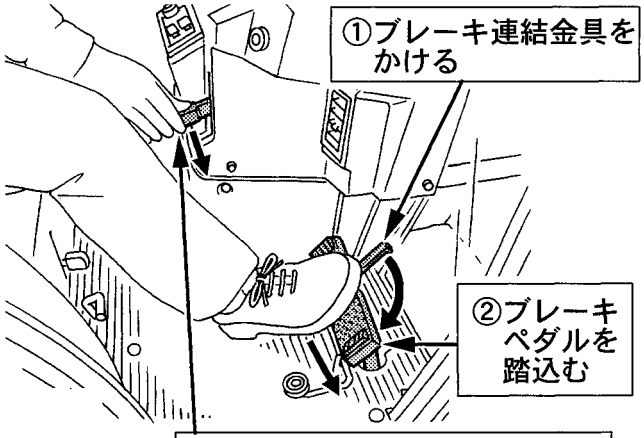
エンジンの始動と停止

警　告

* この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。
* トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
* エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速，副変速やＰＴＯ変速レバーが［中立］（N）かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
* トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
* 室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

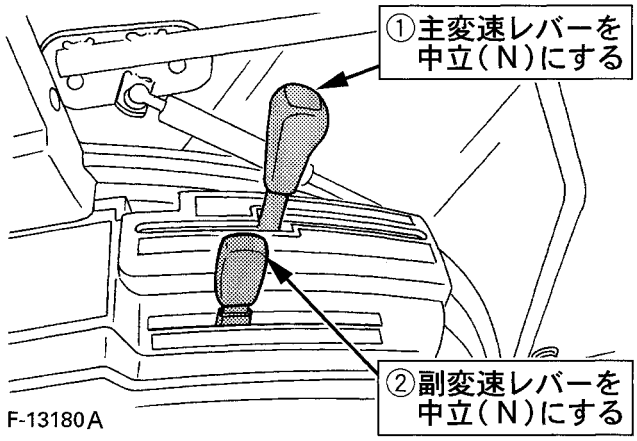
始動のしかた

1. 駐車ブレーキをかけます。

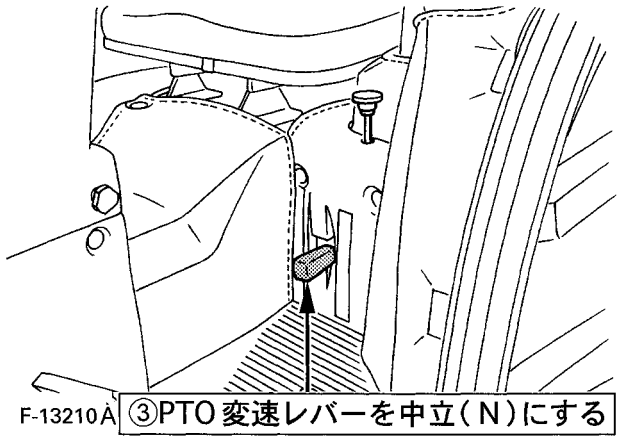


F-13341A

2. 各変速レバーを［中立］(N) にします。



F-13180A



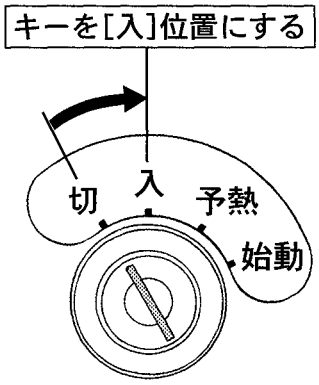
F-13210A

補　足

* 主変速レバー及びPTO変速レバーを［**中立**］**(N)** にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

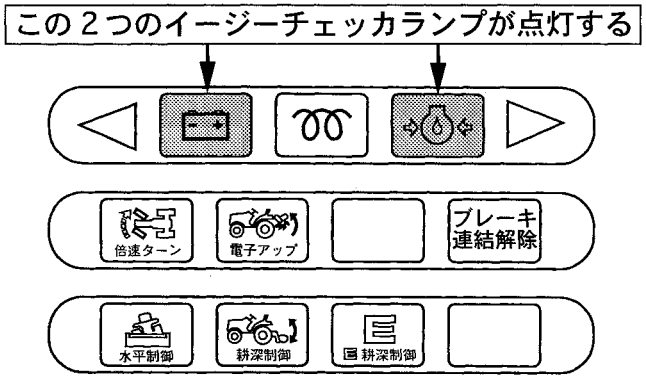
始動のしかた

3. キースイッチにキーを差込み［入］位置にします。



F-9374A

キースイッチを［**入**］位置にすると，イージーチェッカランプが点灯します。

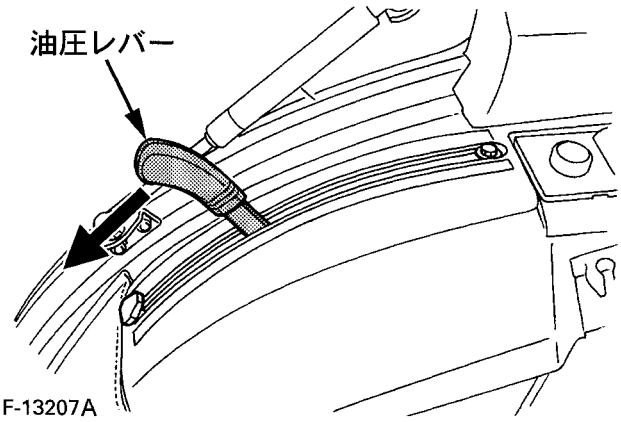


F-9372A改

補　足

＊ 各レバーやスイッチの位置により，上記以外のランプも点灯又は点滅する場合があります。

4. 油圧レバーを［前方に倒し］作業機を下げます。

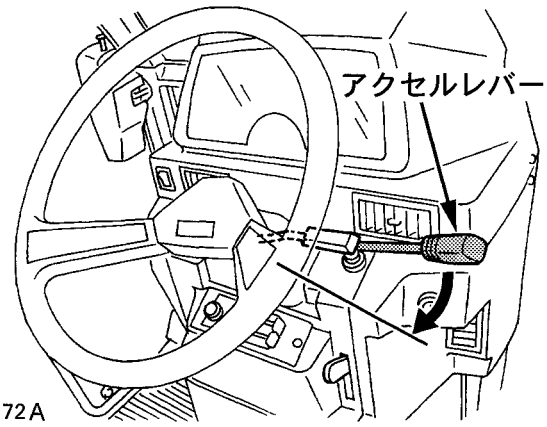


F-13207A

補　足

＊ 油圧ロックされている場合，作業機は下がりません。
（詳細は［**油圧**］の項を参照）

5. アクセルレバーを［中程］まで引きます。



F-13172A

6. クラッチペダルを［踏込み］ます。

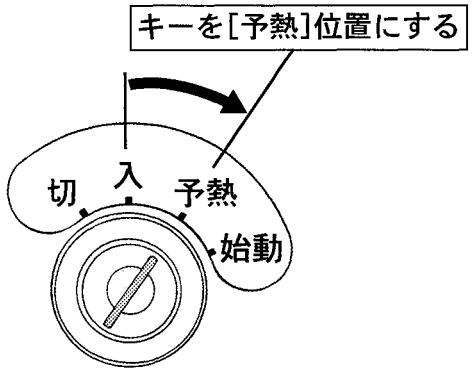
エンジンの始動と停止

始動のしかた

7. キーを［予熱］位置に回します。

予熱時間は，下表を参考に行なってください。
エンジンが暖まっている場合，予熱は不要です。

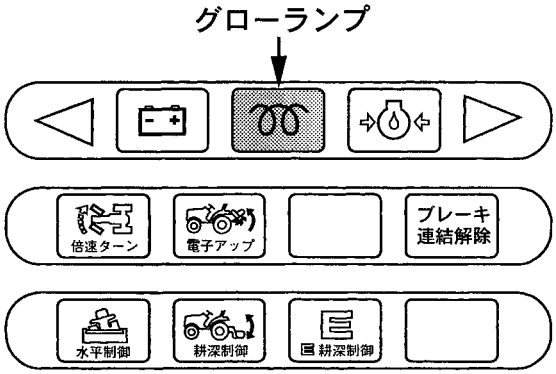
気　温	予熱時間
0℃以上	2～3秒
0～－5℃	5秒
－5～－15℃	10秒



F-9374B

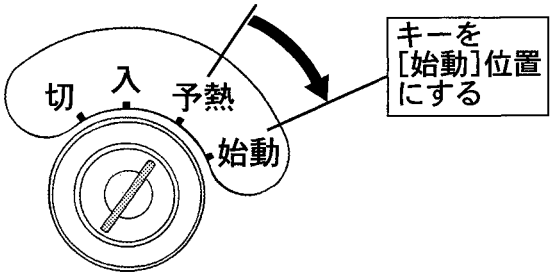
補　足

＊ 予熱中のみ，グローランプが点灯します。



F-9372B改

8. キーを［始動］位置に回します。



F-9374C

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
＊ 10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

補　足

＊ 主変速レバー及びPTO変速レバーを［**中立**］**(N)** にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

9. エンジンが始動したら，キーから手をはなします。

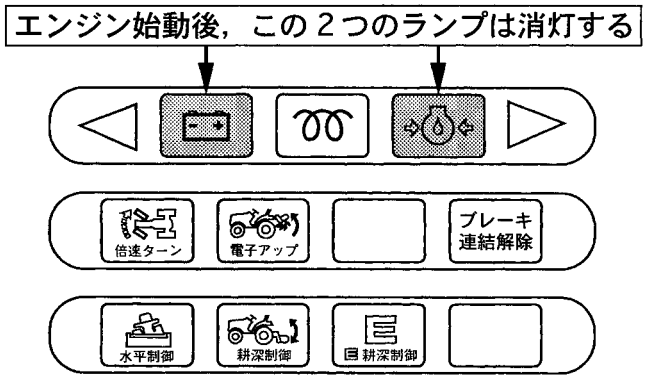
キーは自動的に［**入**］にもどります。

重　要

＊ エンジン回転中は，キーを［**始動**］位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

10. イージーチェッカランプの［消灯］を確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。

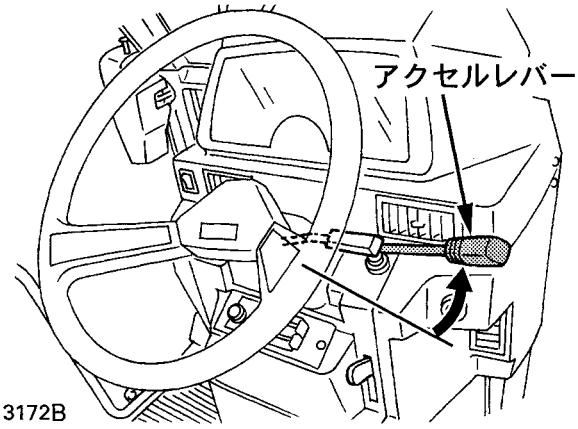


F-9372C改

11. エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま５分程度暖機運転します。

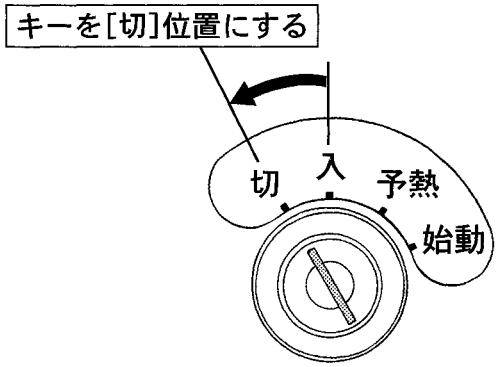
停止のしかた

1. アクセルレバーをいっぱい前へ［押し］てアイドリング状態にします。



F-13172B

2. キースイッチのキーを［切］の位置にしてエンジンを停止します。



F-9374D

3. キーを［抜き］ます。

寒冷時の暖機運転

注　意

＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけてください。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

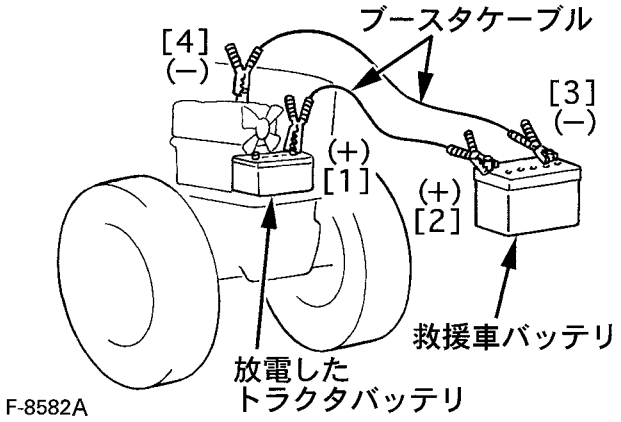
本機はミッションやステアリングを油圧で作動させており，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な機能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　温	暖機運転時間
0℃以上	約５分間
0℃以下	10 分間以上

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

1. ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
   ＊バッテリの (+) 端子同士を接続します
   ＊マイナスケーブルの他端［ ４ ］の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
   (マイナスケーブルの他端［ ４ ］を直接バッテリの (-) 端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。)



F-8582A

2. 救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
   (始動手順は［ **エンジンの始動と停止** ］の項を参照)
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず 12V バッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，(+) と (-) 端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。

トラクタの運転

警　告

＊ トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。また，キャブに当たる障害物がないかも確認してください。
＊ 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊ 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故のおそれがあります。
＊ 急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊ 下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊ 負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊ 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

ならし運転（最初の約 50 時間）

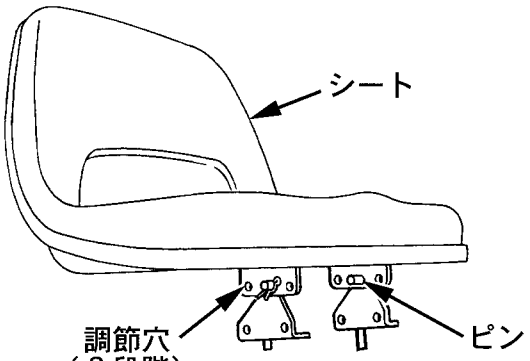
この期間中は，特に次のことを厳守してください。

1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50 時間使用後，**［定期点検箇所一覧表］**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席回りの調節

■シートの前後調節

シート取付け穴位置の変更により、前後３段階に調節できます。

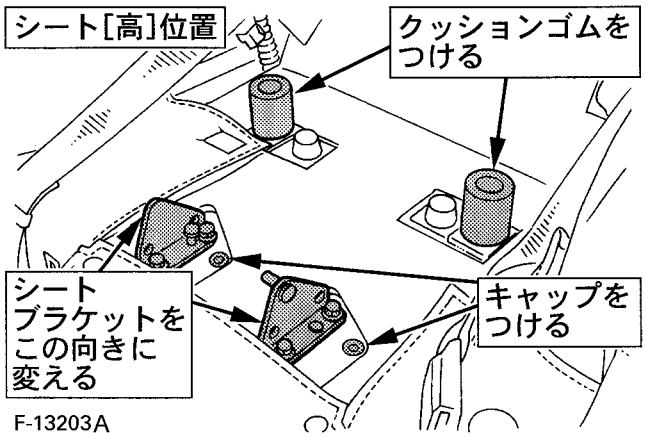


F-13174A

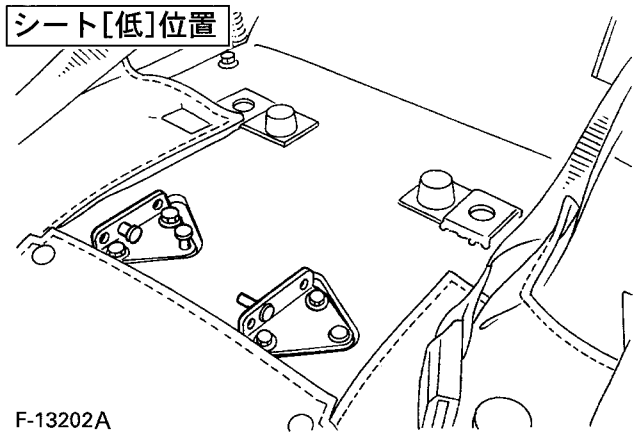
■シートの高さ調節

シート高さは、高・低の２段階に調節できます。

◆シート位置を上げるには



F-13203A



F-13202A

補　足

＊ シートブラケットには、L/R の記号が打刻してあります。
＊ シートブラケットを高位置にして組付けるときは、キャップとクッションゴムを取付けてください。
＊ クッションゴムとキャップは、標準付属品にこん包されています。

運転席回りの調節

■安全キャブとシートベルトについて

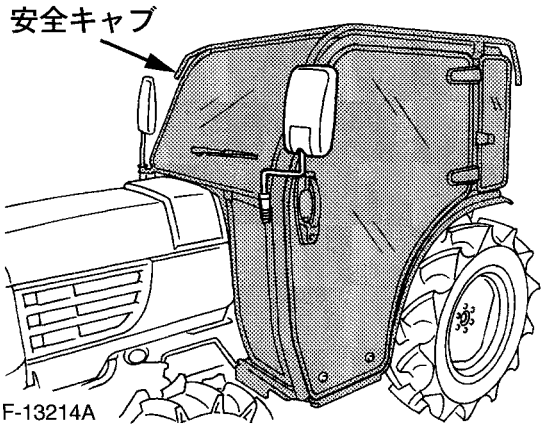
警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

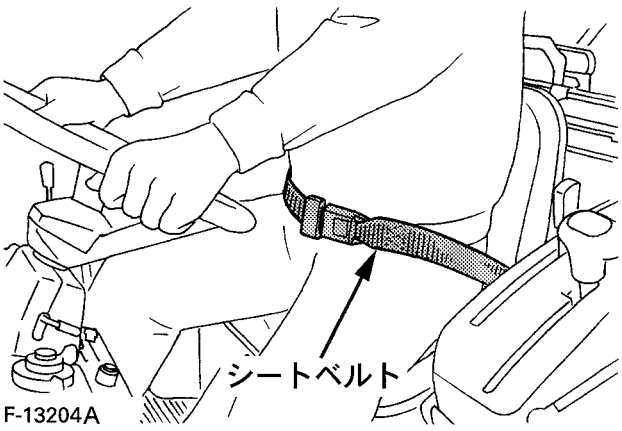
＊ トラクタを使用するときは，必ずシートベルトを着用してください。
＊ 安全キャブの改造を絶対にしないでください。また、強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。
＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

補　足

＊ 安全キャブは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。



F-13214A



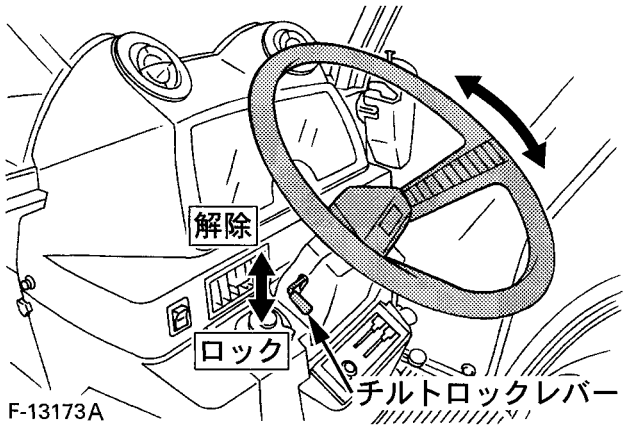
F-13204A

■チルトステアリングハンドル

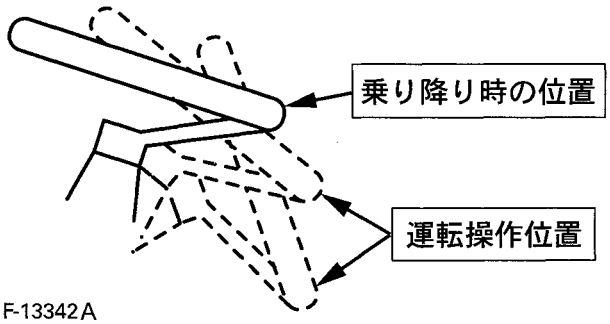
注　意

＊ 走行中調節はしないでください。
＊ 調節後、ハンドルがロックされていることを確認してください。

チルトロックレバーを［**解除**］すれば、ステアリングハンドルが調節できます。



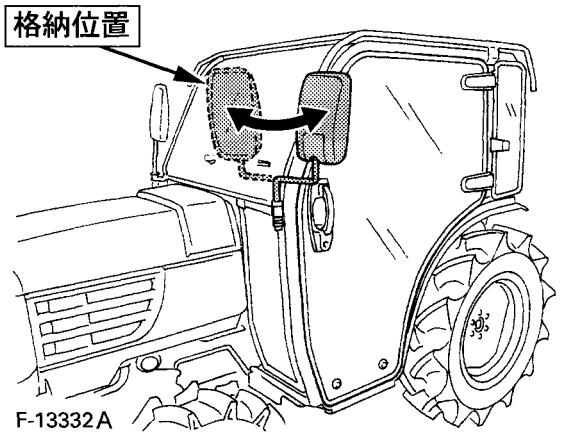
F-13173A



F-13342A

■バックミラー

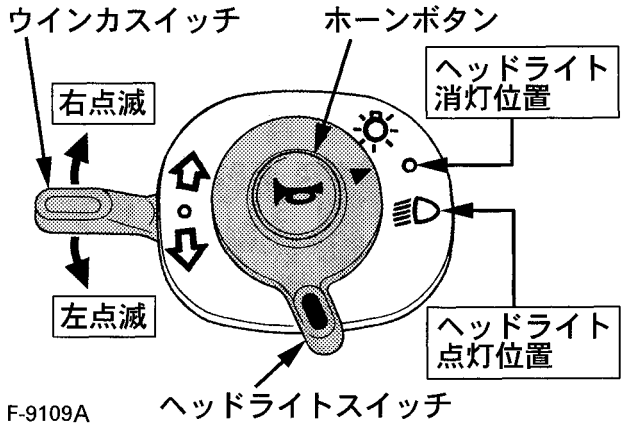
1. バックミラーは、上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
2. 狭い場所へ格納時折りたたんでください。



F-13332A

灯火類の操作

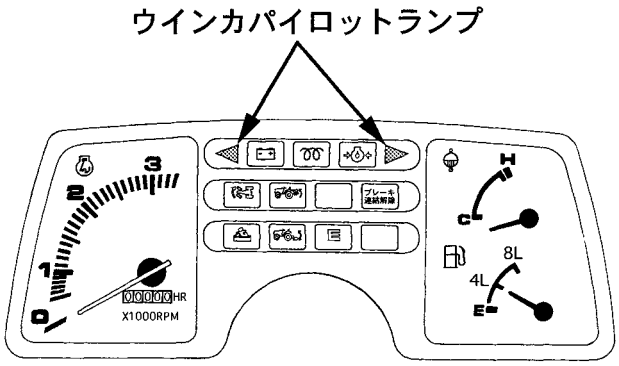
■コンビネーションスイッチ



F-9109A

◆ウインカスイッチ

1. スイッチを操作すると，ウインカランプ及びウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



F-9371A改

◆ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

発進・走行

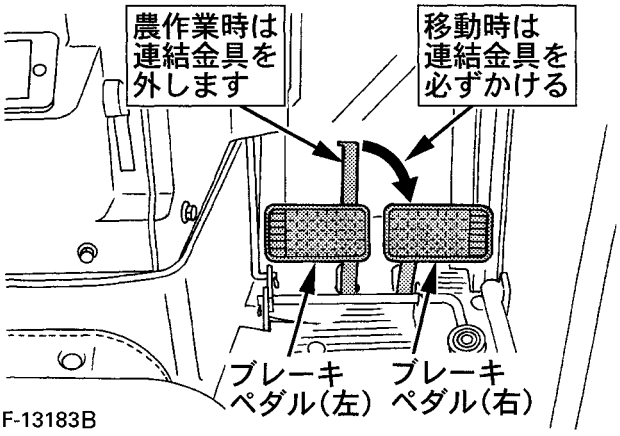
1. ブレーキペダルの確認

■ブレーキペダル

警　告

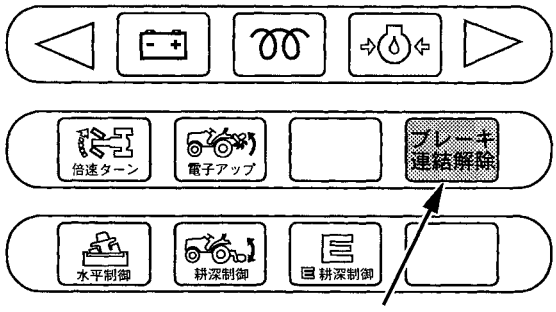
＊ 移動中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。移動中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や事故のおそれがあります。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。
また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。



F-13183B

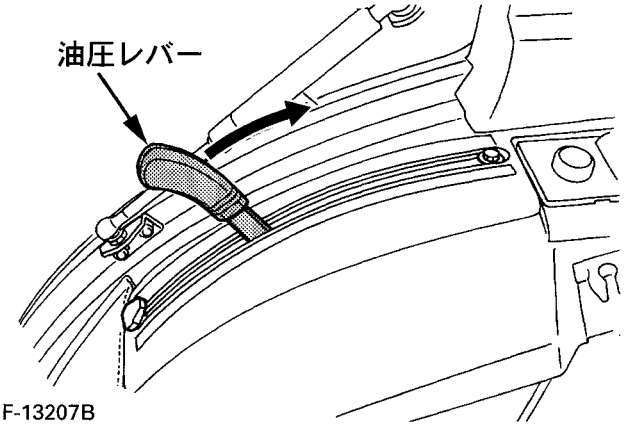
◆ブレーキペダル連結解除ランプ
ブレーキペダル連結金具を外すとブレーキ連結解除ランプが点灯します。
移動時などでは連結金具をかけ，ブレーキ連結解除ランプの消灯を確認してから，走行してください。



F-9372D改　　ブレーキペダル連結解除ランプ

2. 油圧レバーを［後方に引き］作業機を上げます。

（詳細は［**油圧**］の項を参照）



F-13207B

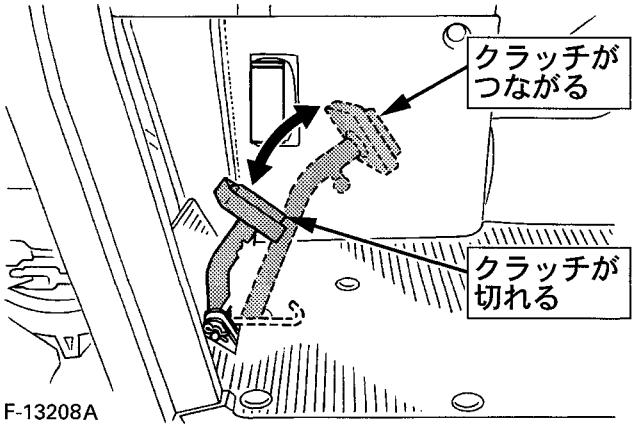
3. クラッチペダルを踏込みます。

注　意

＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。ゆっくり行なってください。

■クラッチペダル

クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。



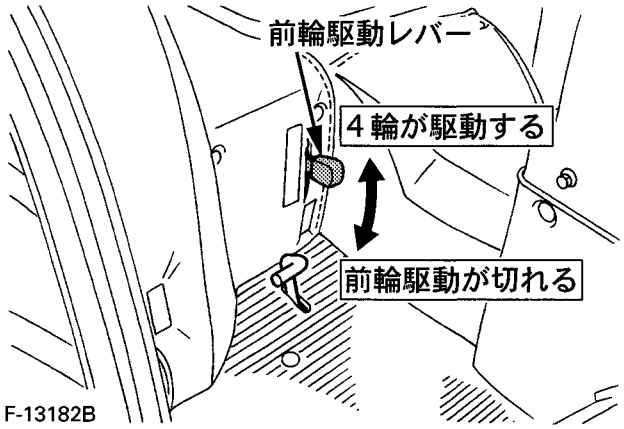
補　足

＊ 下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。
　＊主変速レバー
　＊副変速レバー
　＊前輪駆動レバー
　＊ＰＴＯ変速レバー

4. 作業に応じ必要なレバー類を操作します。

■前輪駆動レバー

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み操作します。



重　要

＊ 前輪駆動レバーは，［入］か［切］の位置にしてください。中間の位置で運転すると故障の原因になります。

◆前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に使用してください。

1. 傾斜地，湿田，トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. 固い農場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

発進・走行

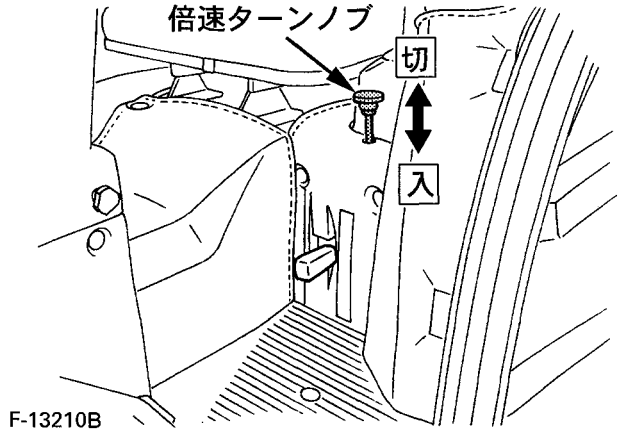
■倍速ターンノブ

警 告

* 倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に必ず倍速ターンを［切］にしてください。
* 倍速ターンは，畑，水田などのロータリ耕作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

◆操作手順

1. トラクタを停止させ，前輪タイヤを直進状態にする。
2. ノブを押し込むと、倍速ターンが入ります。(キースイッチが［入］のときは倍速ターンランプが点灯します)
3. ノブを引き上げると、倍速ターンが切れます。
4. 倍速ターン使用時は，前輪駆動レバーも［入］にしてください。

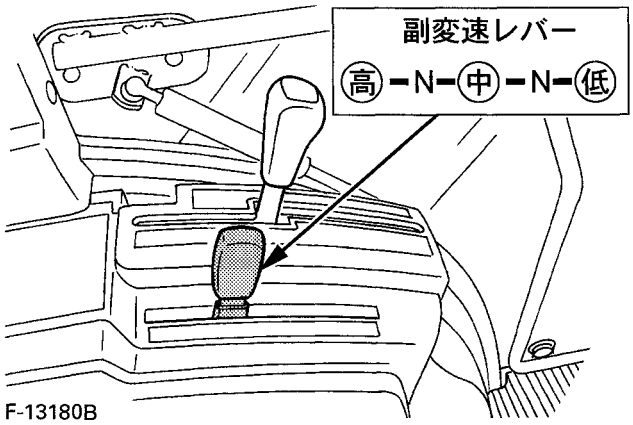


F-13210B

重 要

* ローダ，トレーラなど前輪に重荷重がかかる作業や速度の速い作業には，使用しないでください。
* 倍速ターンノブの［入］・［切］は，前輪タイヤが直進の状態で行なってください。
* 倍速ターンの高速けん制
  - 倍速ターン［入］の状態で副変速レバーを［高］にすると，倍速ターンは自動的に**切れます。**また，キースイッチ［入］のとき、倍速ターンランプは点灯したままです。
  - 副変速レバーを［低］又は［中］に戻すと倍速ターンは［入］に復帰します。この使用法はほ場内だけにし，走行時は倍速ターンノブを［切］にしてください。

5. 副変速レバーを［低・中］又は［高］に入れます。



F-13180B

■副変速レバー

レバー１本で［低速・中速・高速］が選択できます。トラクタに貼付けられている作業速度表などを参考に適切な車速を選択してください。

重 要

* 副変速レバーの切換えは，必ず主変速（グライドシフト）レバーを［中立］(N) の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。
* 副変速レバーは，走行中に変速することはできません。クラッチペダルを踏込んでトラクタを停止させてから行なってください。
* 副変速レバーの操作時，レバーが入りにくくなるときがあります。そのときは，副変速レバーを［中立］(N) に戻しクラッチをつないでください。そのままグライドシフトレバーを少し動かしてから［中立］(N) に戻し，再度クラッチペダルを踏込み副変速レバーを操作してください。

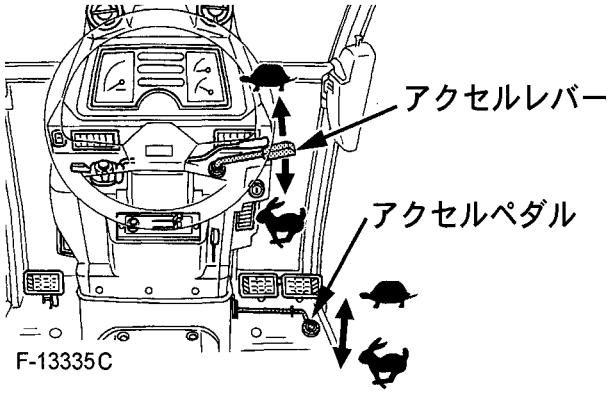
6. エンジンを加速します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆アクセルレバー

主に農作業時に使用する。

	レバーを手前に引くと、エンジン回転が上がる。
	レバーを前側に押すと、エンジン回転が下がる。



◆アクセルペダル

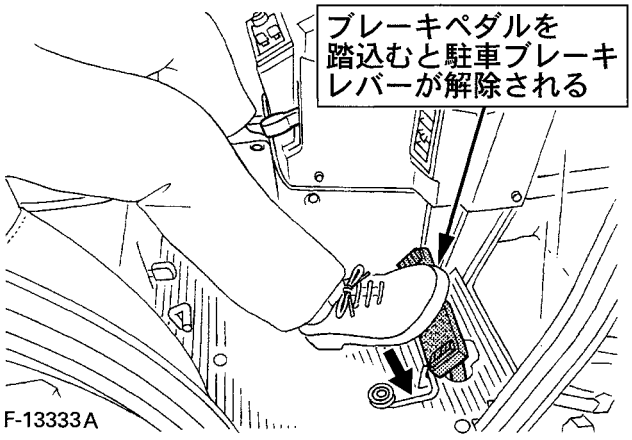
主に走行時に使用する。

ペダルを踏込むとエンジン回転が上がる。

ペダルから足を離すとアクセルレバーで設定しているエンジン回転まで戻る。

7. 駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ



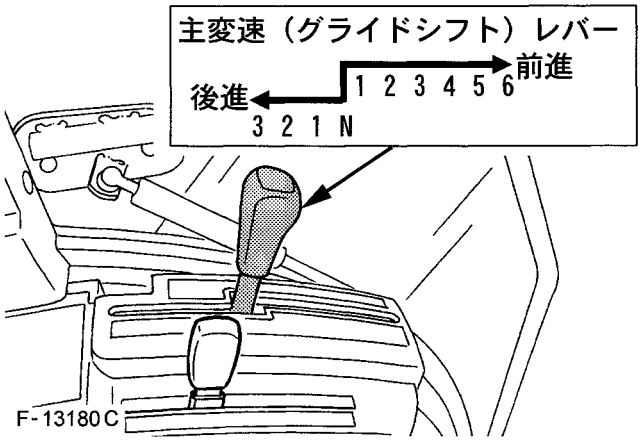
8. クラッチペダルをゆっくり離します。

重 要

＊ クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。

1. 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
2. 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
3. クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

9. 主変速（グライドシフト）レバーをゆっくり操作し発進します。



重 要

＊ グライドシフトレバーを前進または後進にしたままクラッチを使用して発進させないでください。

■主変速（グライドシフト）レバー

注　意

＊ 安全のため，主変速（グライドシフト）レバーの急激な変速は避けてください。また，前後進の切換えはレバーを［中立］(N) の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

レバーを前に押して**［前進］**，手前（後）に引いて**［後進］**です。発進及び走行中にクラッチペダルを踏まずに（ノークラッチ），変速することができます。トラクタを効率よく性能を維持して使っていただくために、作業はできるだけエンジン 1500 回転 / 分以上で行ないましょう。

補　足

＊ 前進速度は、主変速レバーが中立位置からラベルの［２］までの間は無段階に、それ以降は４段階車速が選択できます。
＊ 後進速度は、主変速レバーが中立位置からラベルの［１］までの間は無段階に、それ以降は 2 段階車速が選択できます。

停車・駐車

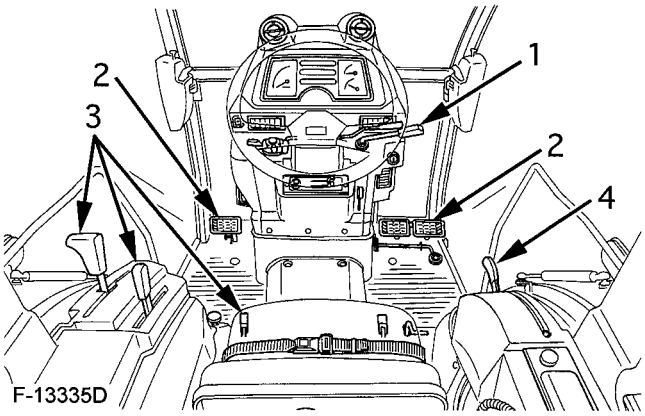
警　告

＊ 本機は油圧ミッションのため，変速ギヤを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さない様，必ず駐車ブレーキをかけてください。

注　意

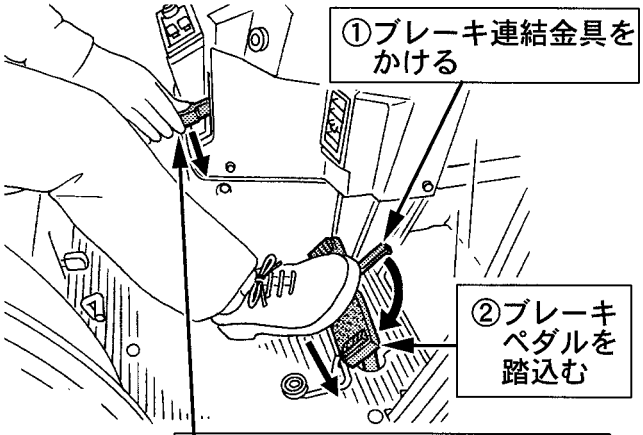
＊ 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，各変速レバー（主変速・副変速・PTO）を［中立］(N)，作業機を［下げ］，駐車ブレーキを［掛け］，エンジンを［停止］してキーを抜いてください。やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊ 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
＊ 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。
＊ トラクタから降りるときは，ロータリなどのＰＴＯ作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. **アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。**
2. **クラッチ及びブレーキペダルを［踏込み］ます。**
3. **完全に停止してから，主変速，副変速及び PTO 変速レバーを［中立］(N) にします。**
4. **作業機を取付けている場合は，油圧レバー（ポジションコントロール）をゆっくり［前方に倒し］作業機を下げます。**



F-13335D

5. 駐車ブレーキを確実に［掛け］てください。



F-13341A

6. キースイッチを［切］にして，エンジンを停止します。

運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

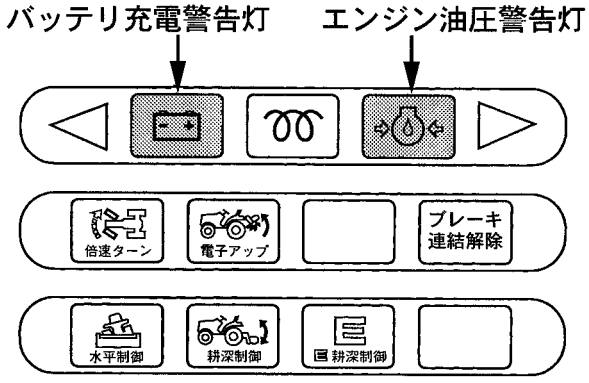
1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。

	（バッテリ充電警告灯） エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。キースイッチを［入］にすると点灯し，始動すると消灯します。
	（エンジン油圧警告灯） エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。キースイッチを［入］にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

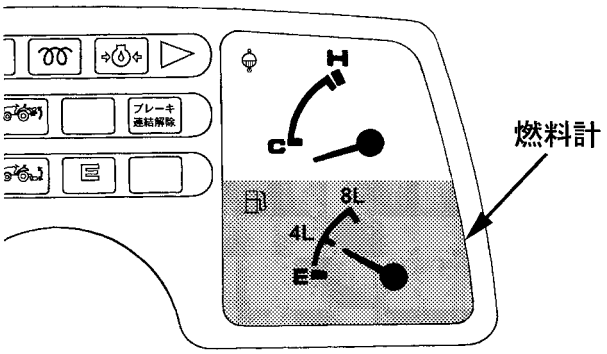


F-9372E改

運転中の作動確認

■燃料計

指針が［E］に近づいたら早めに燃料を補給してください。



F-9371B改

補　足

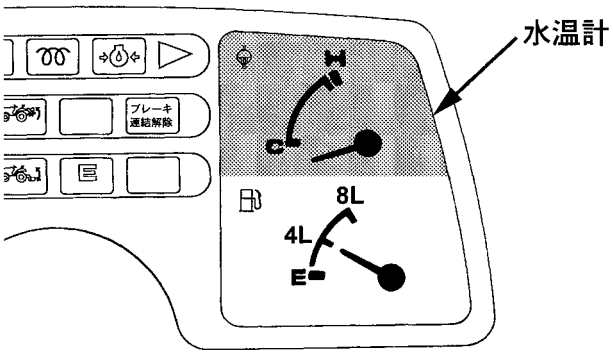
＊ 燃料計の４ L/ ８ L は残量を表示しています。(L: リットル)
＊ タンクに８ L 以上の燃料が入っていても燃料計は８ L を表示します。

■水温計

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が **[H]** （レッドゾーン）を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。



F-9371C改

◆オーバヒートしたときの処置

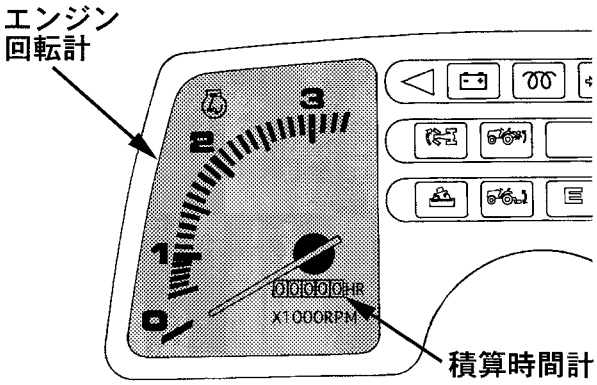
オーバヒート（水温計の針が **[H]** にあるとき）したときは，

1. 作業を中止し，
2. エンジンを約５分間アイドリング回転してから，
3. エンジンを停止し，停止後 30 分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。
   1. リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量（不足），及び水もれがないか。
   2. 防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
   3. ファンベルトのゆるみがないか。

重　要

＊ リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，上記［**オーバヒートしたときの処置**］を行なってください。

■トラクタメータ



F-9371D改

◆積算時間計

積算時間計は５桁になっており，初めの４桁は時間，最後の１桁は１ /10 時間（６倍すると［分］単位）を示します。

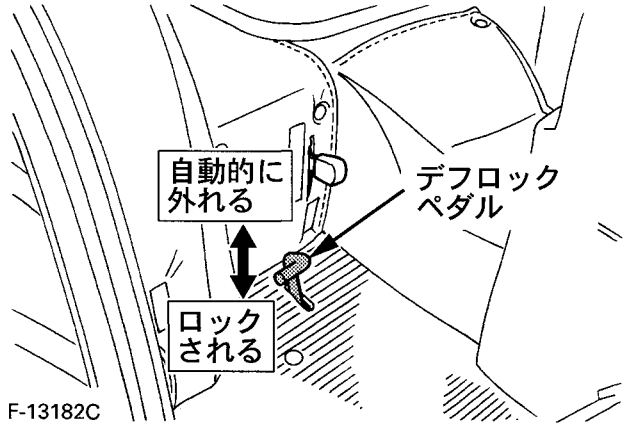
◆エンジン回転計

１分間のエンジン回転速度を示します。

デフロックの使い方

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。



F-13182C

◆デフロックの使い方

注　意

＊ デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊ 移動時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。

1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊ 抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊ 使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

旋回のしかた

注　意

＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

坂道での運転

警　告

＊ ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊ 坂道では変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
惰性運転をすると，スピードが出すぎて制動不能や，転倒事故を引起こすおそれがあります。
＊ 急な坂では途中で副変速を変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。
＊ 本機は油圧ミッションのため，マニュアルミッション機よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速（グライドシフト）レバーで減速してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

ほ場への出入り時の注意

警 告

* 左右のブレーキペダルは，必ず［連結］しておいてください。
* ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
* ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
* ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。
* 本機は油圧ミッションのため，マニュアルミッション機よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速（グライドシフト）レバーで減速してください

注 意

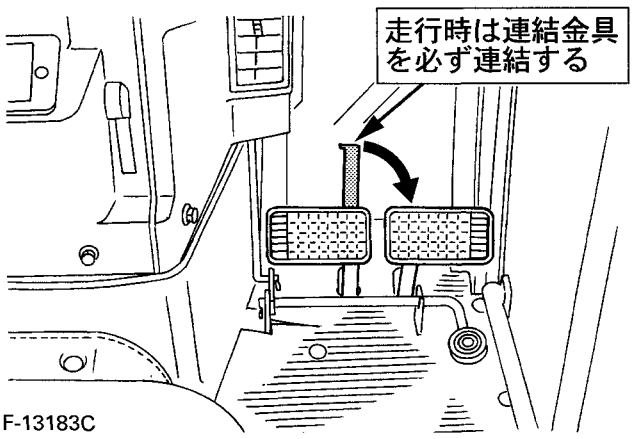
* 倍速ターンノブは［切］にしてください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

走行時の注意

警 告

* 本機は道路運送車両法の小型特殊自動車に該当しません。本機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときはトラックに積んで運搬してください。
* 移動中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。移動中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や事故のおそれがあります。



F-13183C

注 意

* 走行するときは，周囲をよく確認して安全運転をしてください。
* 運転者のほかは乗せないようにしてください。転落事故の原因になります。
* 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
* 走行時には水平切換スイッチを必ず［手動］にして走行してください。

トラックへの積み・降ろし

注　意

＊ アユミ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラック荷台高さの 4 倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを［**連結**］しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

パワーステアリングの取扱い

注　意

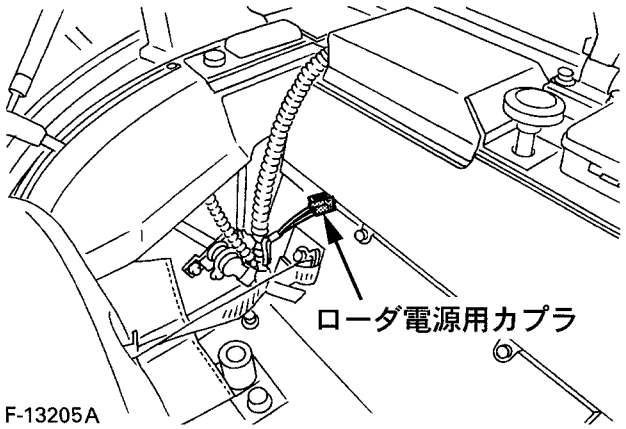
＊ パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作は軽くなりますので，走行は慎重に行なってください。

重　要

＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません。）また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊ 不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊ 冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

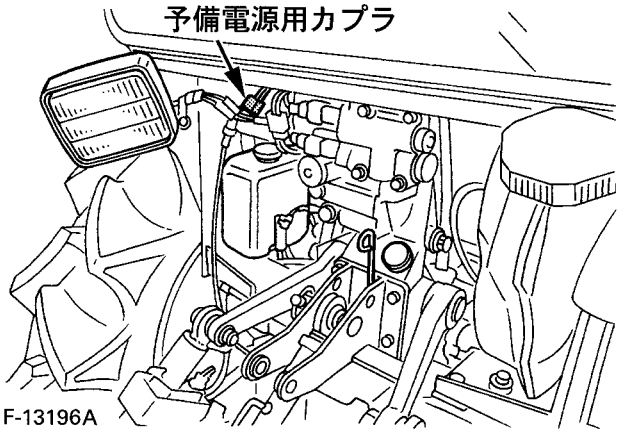
外部電源取出端子

■ローダ電源用カプラ



F-13205A

■予備電源用カプラ



F-13196A

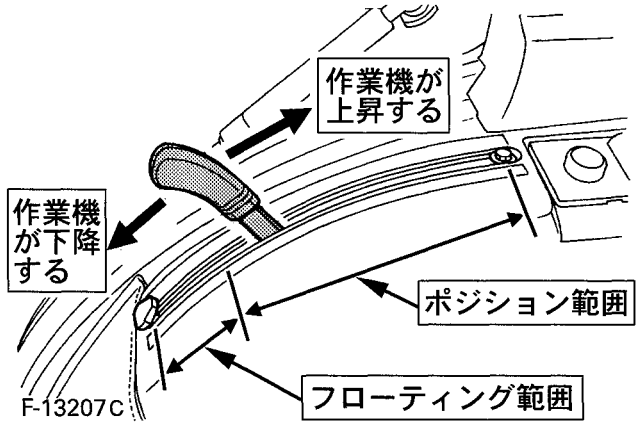
油圧・三点リンク・PTO

油圧

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■油圧（ポジションコントロール）レバー

油圧レバーは，油圧によって作業機を上下させる装置です。



	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。

■レバーストッパ（下降側）の使い方

1. 油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
2. その位置にレバーストッパを固定します。
3. その後は，油圧レバーをレバーストッパに当たるまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

■レバーストッパ（上昇側）の使い方

レバーストッパ（上昇側）は作業機の最上昇位置を規制したい場合のみ調整します。（標準位置は最後方位置）

1. 油圧レバーで，希望する最上昇位置を決めます。
2. その位置にレバーストッパ（上昇側）を固定します。

重　要

＊ レバーストッパ（上昇側）は，外さないでください。外すと油圧システムに故障が生じるおそれがあります。

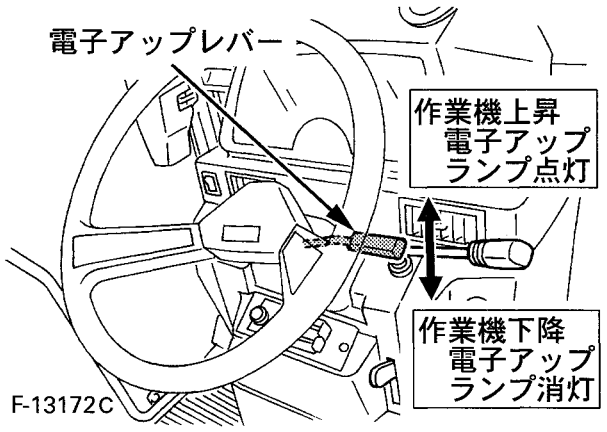
油圧

■電子アップレバー

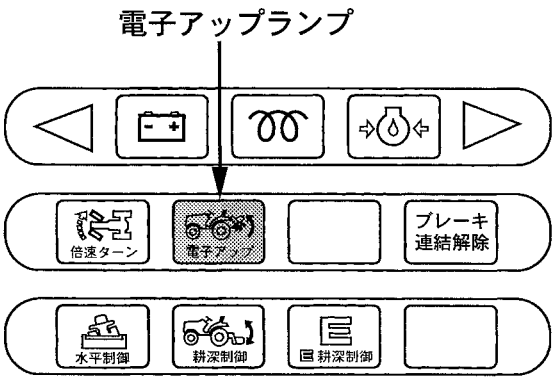
注　意

* ほ場内作業以外では，電子アップを使用しないでください。
* 電子アップ状態で走行しないでください。ほ場外（移動など）では油圧レバーを使用してください。

レバーのワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。



F-13172C



F-9372F改

電子アップレバーで作業機上昇後，油圧レバーを最上位置にすると，電子アップ制御が解除され（電子アップランプ消灯），ポジション制御になります。

補　足

* 電子アップレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。
* 新しい作業機を装着したときは，電子アップレバーではなく，油圧レバーを使って作業機を上げて，作業機がトラクタに当らないことを確認してください。
* 電子アップレバー操作時，ブザー音が１回鳴ります。

◆電子アップの上手な使い方

電子アップレバーを解除したときの下降位置は油圧レバーで設定した位置になります。
例えば代かきハローなど，作業機の位置を固定して昇降させる場合，油圧レバー位置をセットしたまま，電子アップレバーにより昇降させることができます。

◆電子アップランプの点滅解除

作業機の高さと油圧レバー位置（エンジン停止時の位置）が異なっている状態でエンジンを始動すると，安全ロックが作動（電子アップランプ点滅）し作業機は昇降しなくなります。
下記操作で、ランプの［**点滅を解除**］してから使用してください。（解除時ブザー音が２回鳴る）
油圧レバーを上げ又は下げ方向に操作する。
電子アップレバーを上昇側に操作する。

油圧

■３点リンクの安全ロック機能

◆安全ロック

作業機の高さと油圧レバー位置（エンジン停止時の位置）が異なっている場合、エンジンを始動すると安全ロックが作動し作業機は昇降しなくなります。

安全ロックが作動すると電子アップランプが点滅状態になります。

この場合、作業機を昇降させるためには下記のどちらかの操作を行なってください。

1. 油圧レバーを上げ又は下げ方向に操作する。
2. 電子アップレバーを上昇側に操作する。

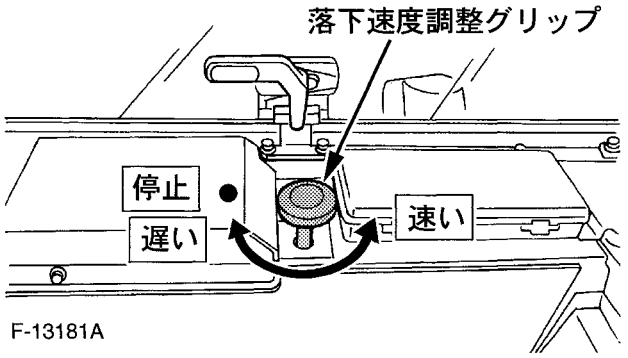
■作業機落下速度の調整

注　意

＊ ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下速度調整グリップで，作業機が落下しないようにロック（停止）してください。

＊ ロック（停止）するとともに適切なジャッキ又はブロックで落下防止の歯止めをしてください。

落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。



[速い] 方向に回す：
油圧回路が開き，作業機の落下速度が早くなります。

[遅い] 方向に回す：
油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。（**[停止]** 方向に軽く締込むと，油圧がロック（停止）します。）

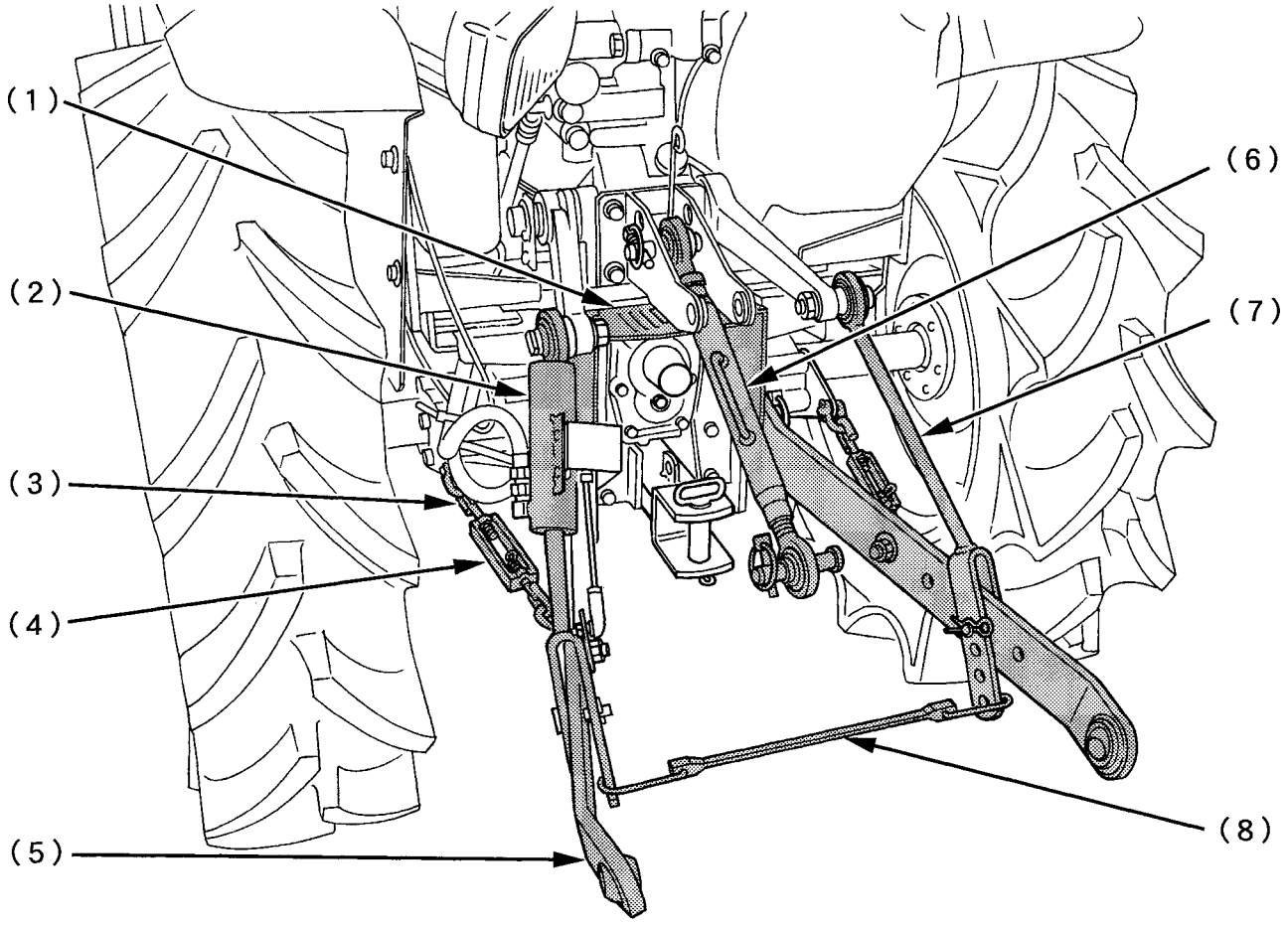
ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。

特に耕うん開始時の落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重　要

＊ グリップは軽く回すだけで油圧がロック（停止）されますから無理に回さないでください。

三点リンク



F-13338B

(1) PTO 軸カバー
(2) リフトシリンダ (リフトロッド左)
(3) チェックチェーン
(4) ターンバックル
(5) ロアーリンク
(6) トップリンク (P 仕様：標準三点リンク仕様)
(7) リフトロッド右
(8) 振止めゴム

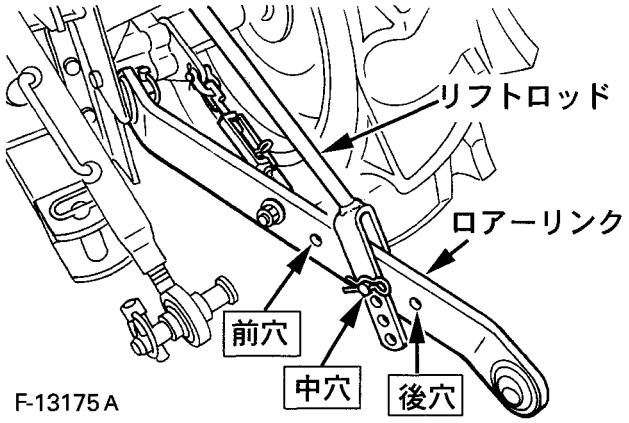
1. 三点リンクは，JIS 1 形です。
2. ロータリ用特殊三点リンク仕様から，標準三点リンク仕様に変更される場合は，トップリンクアッシ (品番 67950-7171-0) が必要です。

三点リンク

1. インプルメント取付け前の準備

■ロアーリンク取付け穴の選択

1. 特殊三点リンクロータリを使うときは，ロアーリンクの中穴とリフトロッドの上穴を使ってください。
2. 一般作業機を使うときは，作業機の説明書に従ってください。



F-13175A

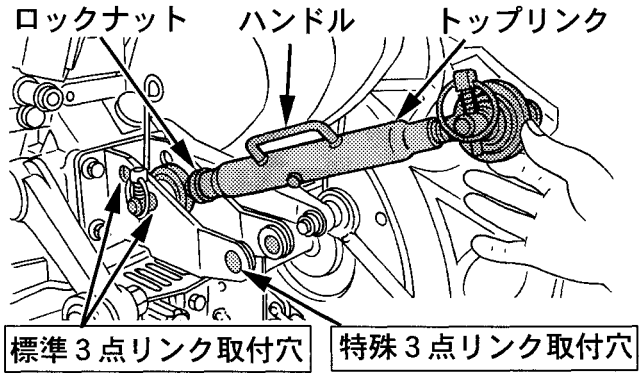
2. 作業機の着脱

警　告

* 作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどのＰＴＯ作業機は完全に止まるまで待ってください。
* 駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。
* 作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。
* 作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

■トップリンク

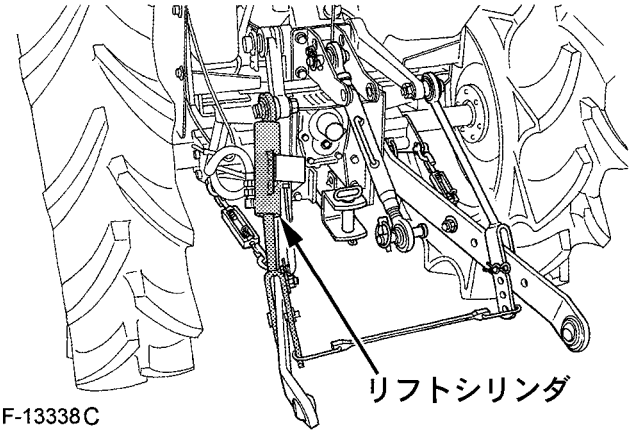
1. 使用する作業機によって取付け穴を選択してください。
2. ハンドルを回し、作業機の傾きを調整してください。調整後は、ロックナットでロックしてください



F-13176A

■リフトシリンダの調整

リフトシリンダを操作して，作業機の傾きを調整してください。〔調整方法は［**モンローマチックオート**］の項を参照〕



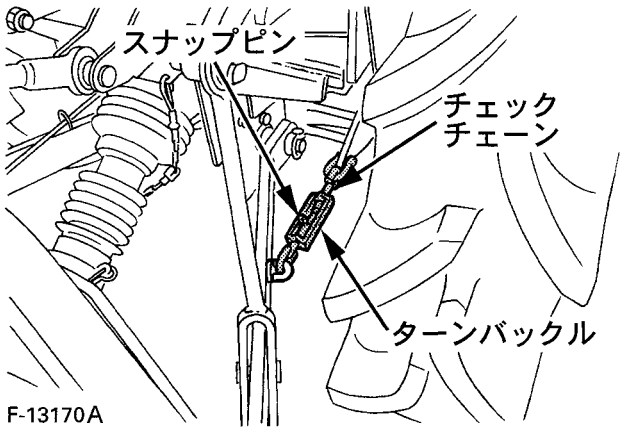
F-13338C

三点リンク

■チェックチェーン

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はスナップピンでターンバックルを固定してください。

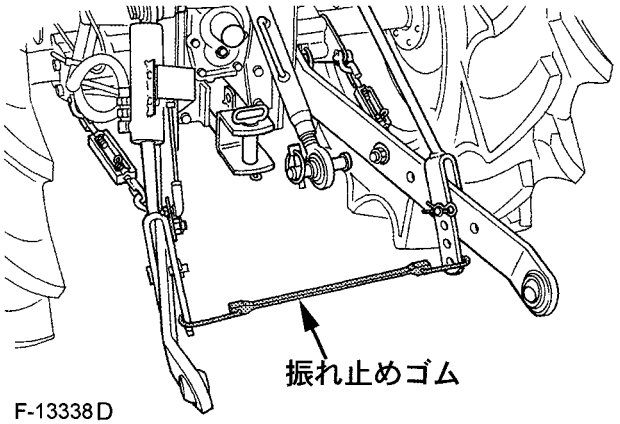
作業機	チェーンの張り具合
ロータリ	ロータリが横方向に１～２ cm 動く程度
プラウ， ハロー， サブソイラ， ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に 5 ～ 6cm 動く程度 （ロアーリンク，リフトロッドがタイヤと接触しないことを確認してください。）
モアー，ヘイレーキ，テッダ，リッジャ，カルチベータ	軽く締める



F-13170A

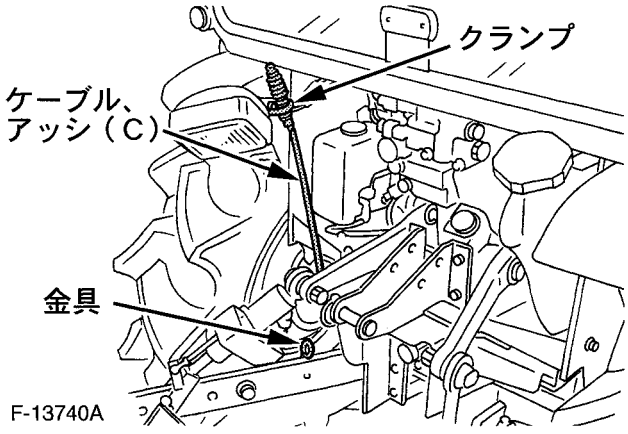
■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。



F-13338D

また、ケーブル、アッシ（C）が落下しないように、先端をロアーリンクの金具から抜き、作業灯部のクランプで固定してください。



F-13740A

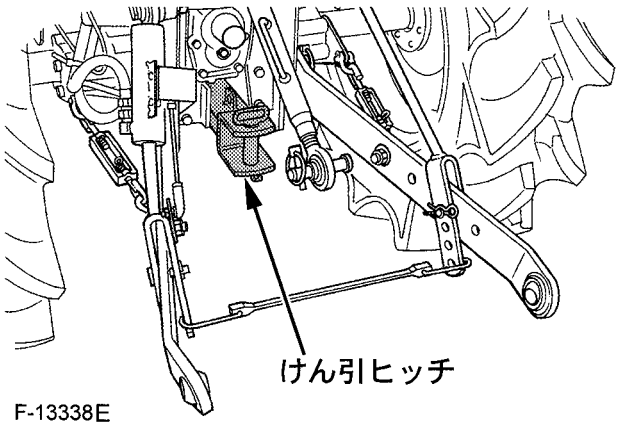
けん引ヒッチ

(標準三点リンク（P）仕様以外は別売)

警 告

* けん引作業をするときは，必ずけん引ヒッチ（別売）を使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。転倒事故を引起すおそれがあります。
* 三点リンクに取付け，PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し，事故を起すおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。



F-13338E

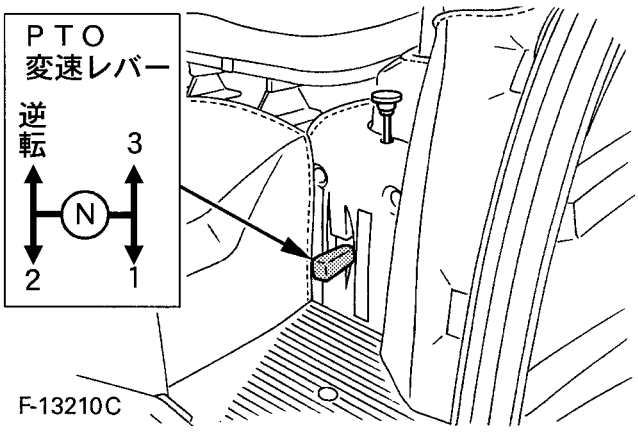
PTO

■PTO 変速レバー

注 意

* 作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTO 軸（動力取出し軸）の回転速度を，正転３段階，逆転１段階に変速できます。
変速操作時は，必ず主クラッチを切ってから行なってください。



F-13210C

◆PTO［逆転］の使い方

1. 使用できる作業機
* メーカ指定のロータリに限ります。

重 要

* メーカ指定以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。

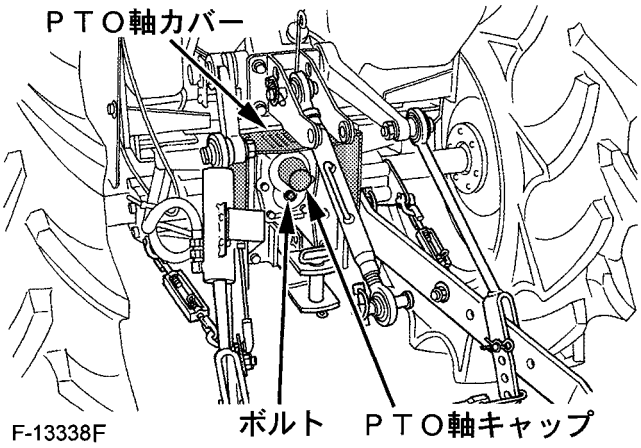
2. 使用できる作業
   * 土寄せ作業
   * 草やワラなどの巻きつきをほぐすとき
3. 使用できない作業
   * 逆転耕うん作業
   * 未耕地や石の多いほ場での土寄せ作業
   * ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

PTO

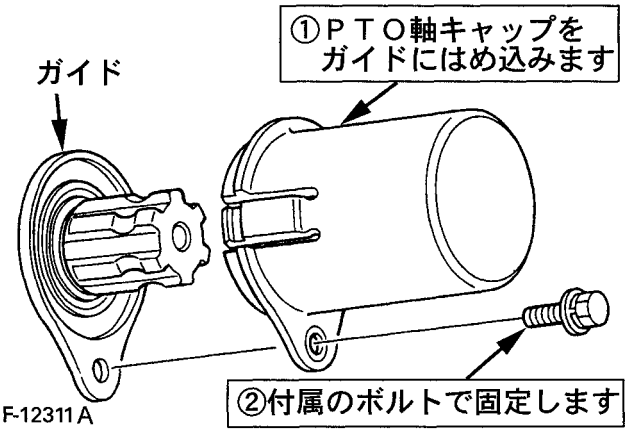
■PTO 軸キャップ，PTO 軸カバー

注　意

* PTO 軸を使わないときは，PTO 軸にグリースを塗布した後，PTO 軸キャップを取付けておいてください。そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起すおそれがあります。
* PTO 軸キャップを使用しないときは，PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。
* PTO 軸カバーは常に取付けておいてください。
* PTO 軸カバーの上に乗らないでください。



◆PTO 軸キャップの取付け方



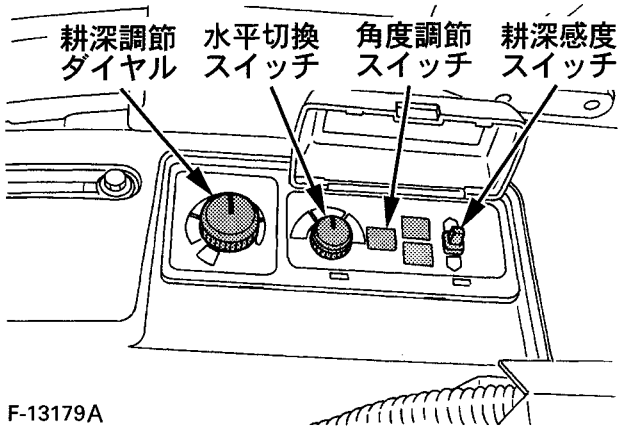
モンローマチックオートの取扱い

モンローマチック及びモンローマチックオートは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。
スイッチの選択状態はメータパネル内のモニタランプで表示されます。

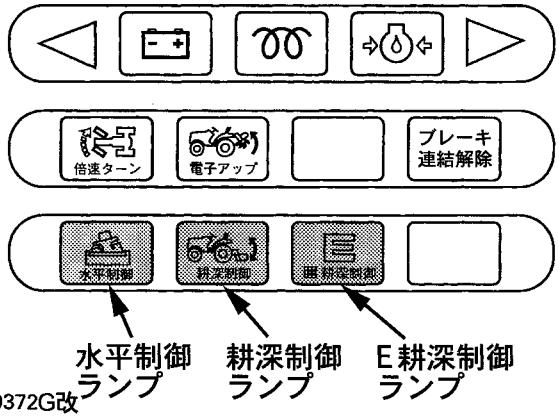
スイッチの名称

重 要

＊ スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。



F-13179A



F-9372G改

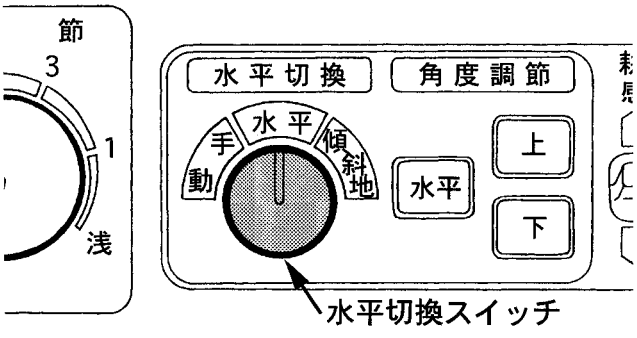
モンローマチックの使い方

■水平切換スイッチ

注　意

＊ 走行時は必ず［手動］にして走行してください。また，落下速度調整レバーを回して油圧をロックし作業機の落下を防止してください。

水平・傾斜地・手動は作業に応じて選択してください。



F-9373A

1. 水平
トラクタの角度にかかわらず作業機を常に水平または一定の角度に保ちたいとき使用します。
適応作業：水田の耕うん・代かき作業，水平な畑の耕うん作業等

2. 傾斜地
傾斜のあるほ場で，作業機を常にほ場面と平行に保ちたいとき使用します。
適応作業：傾斜のある畑の耕うん・仕上げ作業（マルチ・リッジャ等）
＊［**傾斜地**］選択時、凸凹の激しいほ場で十分な精度が得られない場合は［**切**］**(手動)**で使用してください。
＊［**傾斜地**］選択時、斜面と作業機の傾きの差が著しく大きいときは、モンロ手動スイッチにより、傾きの差が小さくなるように補正できます。
・トラクタが水平状態にあるときは調整できません。
・調整幅いっぱいまで動かしても傾きの差が大きいときは、［**切**］又は［**水平**］で使用してください。
・エンジンを再始動すると、補正量は標準値に戻ります。

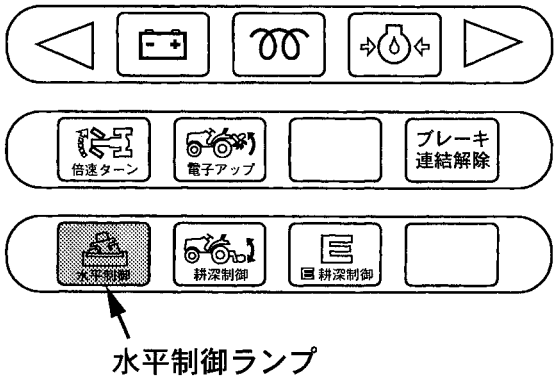
3. 手動
作業機を常にトラクタと平行又は傾けた状態を保ちたいとき使用します。
適応作業：プラウ作業・走行時等

補　足

＊作業機を高い位置に持ち上げると，作業機がトラクタと平行になります。
＊モンローマチックが不要の場合（フロントローダ作業等）には，［**手動**］で作業してください。
＊［**手動**］で作業機を傾斜させて使う場合，作業機を上端まで上げると，ジョイント音が高くなる場合がありますので注意してください。
＊モンローマチック使用時にチェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチックの作動不良やチェックチェーンの破損の原因になりますので，手で軽く締める程度にしてください。

◆水平制御ランプ

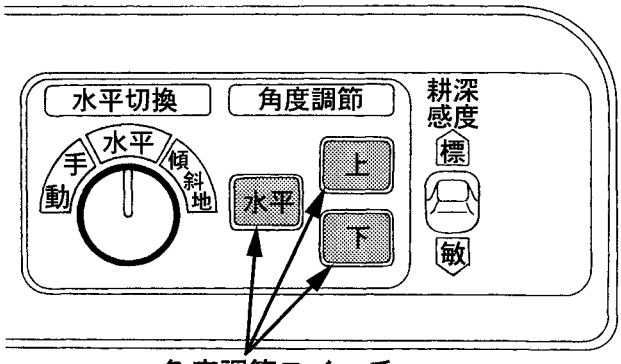
水平切換が［**水平**］または［**傾斜地**］の位置で点灯します。



F-9372H改

■角度調節スイッチ

作業機の姿勢を調節するときに使用します。水平切換の位置により各スイッチの働きが変わります。



F-9373B改

1. 水平切換が［**水平**］のとき
   ［**水平**］　：作業機を水平にします。
   ［**上**］［**下**］：作業機を水平に対して傾けて使用したいときに使用します。

2. 水平切換が［**傾斜地**］のとき　“
   ［**水平**］　：標準的なほ場で作業機をほ場表面と平行にします。
   ［**上**］［**下**］：条件により作業機がほ場と平行にならないときに使用します。

補　足

＊［**傾斜地**］モードでは［**上**］［**下**］を押してもわずかな量しか動きません。

3. 水平切換が［**手動**］のとき
   ［**水平**］　：作業機をトラクタと平行にします。
   ［**上**］［**下**］：作業機をトラクタに対して傾けて使用したいときに使用します。

補　足

＊キースイッチ［**入**］時は，［**水平**］，［**傾斜地**］モードでは［**水平**］ボタンを押した状態になっています。

耕深制御の使い方

注　意

＊ ロータリカバーの固定位置を変更するときは，必ずエンジンを停止し，ロータリを下げた状態で行なってください。

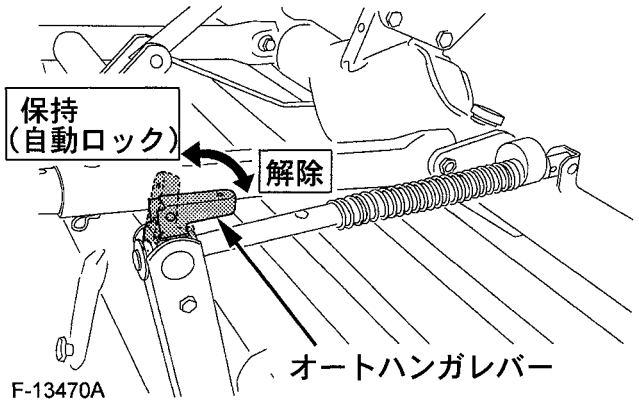
作業に応じて２種類の使い方が出来ます。

1. 耕深制御（MC オート）
   ロータリカバーで耕深を感知しながら，耕深調節で決めた耕深を保持します。また，負荷によりエンジン回転が低下したとき耕深を浅くします。
   適応作業：通常の耕うん作業，代かき作業等
2. E 耕深制御（E オート）
   ロータリカバーを持ち上げた状態で，耕深調節で決めた高さを保持します。また，負荷によりエンジン回転が低下したとき作業機を持ち上げます。
   適応作業：荒耕こし等，土の表面を押さえず土塊を荒くしたいとき等に使用

◆耕深制御（MC オート）・E 耕深制御（E オート）の切り換え方

上記の２種類のモードは，ロータリを持ち上げたときのロータリカバーの位置により自動的に変わります。カバーの固定位置変更後は，必ず電子アップレバー（ポンパレバー）または油圧レバーでロータリを持ち上げてください。（モード切り換わり時には，ブザーが１回鳴ります）

1. 耕深制御（MC オート）使用時
ロータリカバーは固定せずにフリーで使用してください。



F-13470A

耕深制御の使い方

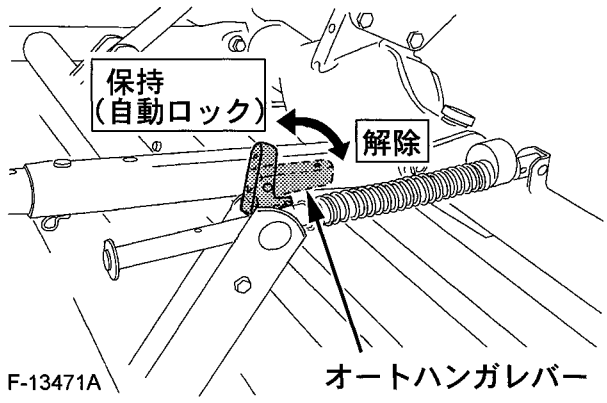
2. E 耕深制御（E オート）使用時

[スライドロータリ以外]

ロータリカバーを上げ，前穴に固定して使用してください。

[スライドロータリ]

ロータリカバーを上げ、前穴か後穴のどちらかに固定してください。



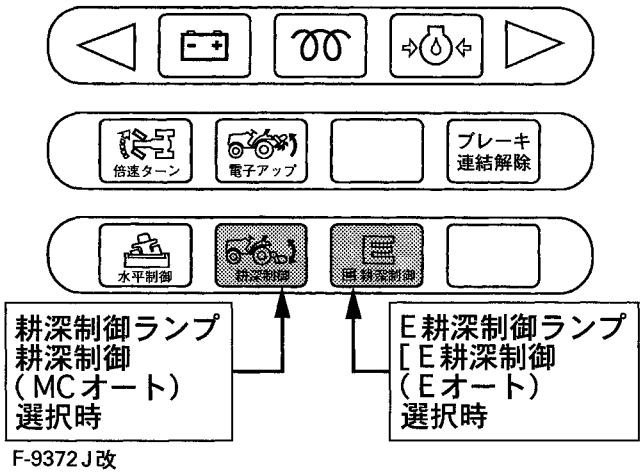
補　足

＊ロータリカバーを途中で固定すると十分な性能が得られないことがあります。

＊オート耕うん時は落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。ロータリの落下速度は、上昇位置から接地するまで２、３秒が適当です。落下速度調整グリップを回して調整してください。

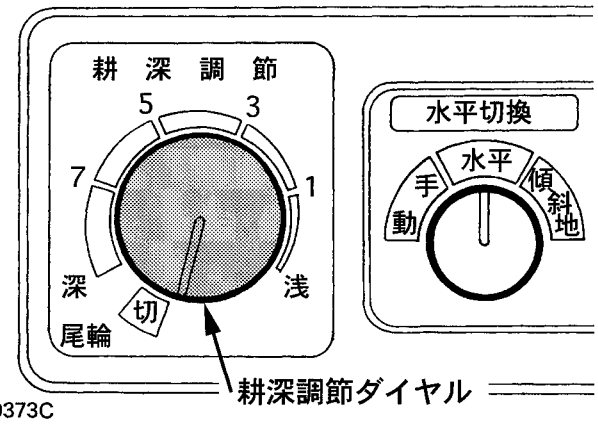
◆耕深制御ランプ･E 耕深制御(E オート)ランプ

耕深調節ダイヤルが［切］以外のとき，制御モードに応じて点灯します。



■耕深調節ダイヤル

ダイヤルが［**浅**］から［**深**］の間で耕深制御またはE 耕深制御が［**入**］となります。このとき希望の耕深になるよう，このダイヤルで調節してください。また，耕深制御を使わないとき（培土作業等）は，ダイヤルを［**切**］の位置にしてください。［**入**］［**切**］の切り替わり時には，ブザーが１回鳴ります。



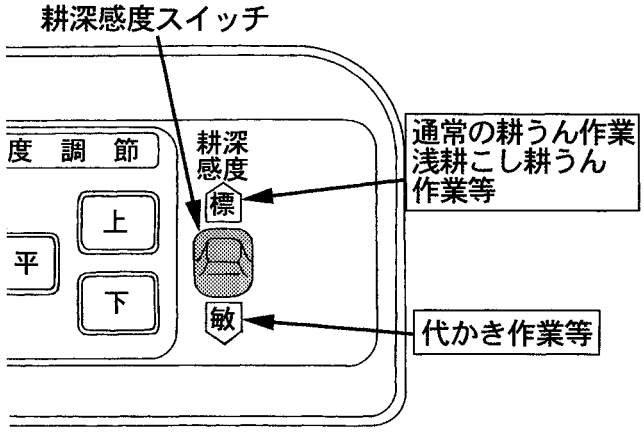
補　足

＊耕深制御を使用する場合には、油圧レバーを最下降位置（フローティング位置）にしておかないと必要耕深がとれない場合があります。

耕深制御の使い方

■耕深感度の設定

耕深感度スイッチを作業に応じて選択してください。



F-9373D改

■故障・異常の表示

水平制御・耕深制御の部品に異常が発生した場合は，水平制御ランプ・耕深制御ランプ・E 耕深制御ランプのいずれかまたは，いくつかが点滅します。この場合，安全のため機能の一部または全部が働らかなくなります。

補 足

＊キースイッチ［**入**］時の，電子アップランプの点滅は異常ではありません。

■緊急時の対応方法

注 意

＊ 安全のため，作業終了後は必ずこの作業機昇降機能を解除してください。

1. 作業機の傾け方
   水平切換を［**手動**］にし［**上・下**］スイッチで作業機を傾けます。
2. 作業機の上げ下げ
   一旦エンジンを停止し，角度調節の［**水平**］を押しながら再びエンジンを始動します。ブザーが断続的に鳴り始めたらスイッチから手を離します。ブザーが鳴っている間，［**上・下**］スイッチで作業機を昇降させることが出来ます。この作業機昇降機能は，再度［**水平**］スイッチを押すか，エンジンを停止すると終了します。

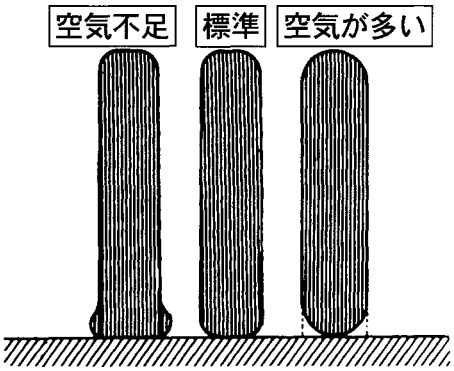
タイヤ・ウエイト

警　告

* タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
* タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
* タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。）

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



F-1010A

◆標準空気圧

	タイヤ	空気圧 kPa (kgf/cm^2)
前輪	6-12	200 (2.0)
	6-14	120 (1.2)
後輪	8-18	160 (1.6)
	9.5-20	140 (1.4)

輪距

■前輪・後輪

前・後輪共輪距は変更できません。

重　要

* 決められた輪距以外では使用しないでください。

補　足

* タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。

ウエイト

警 告

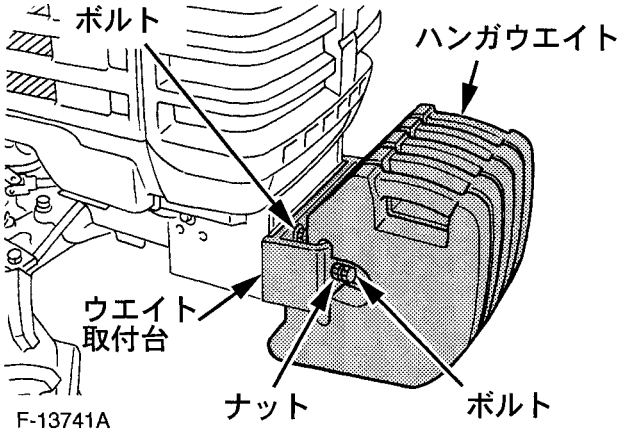
* トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重がトラクタ質量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
* 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重がトラクタ質量の 20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。
  前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
* フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。（詳細は購入先にご相談ください。）

■ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

◆ハンガウエイト（25kg）の取付け方法

1. ウエイト取付け台（オプション）をボルトで取付けます。
2. ハンガウエイトをウエイト取付け台にひっかけ，ボルト，ナットで固定します。ウエイト１枚の重量は 25kg で１～５枚取付けできます。



キャブ装備品の取扱い

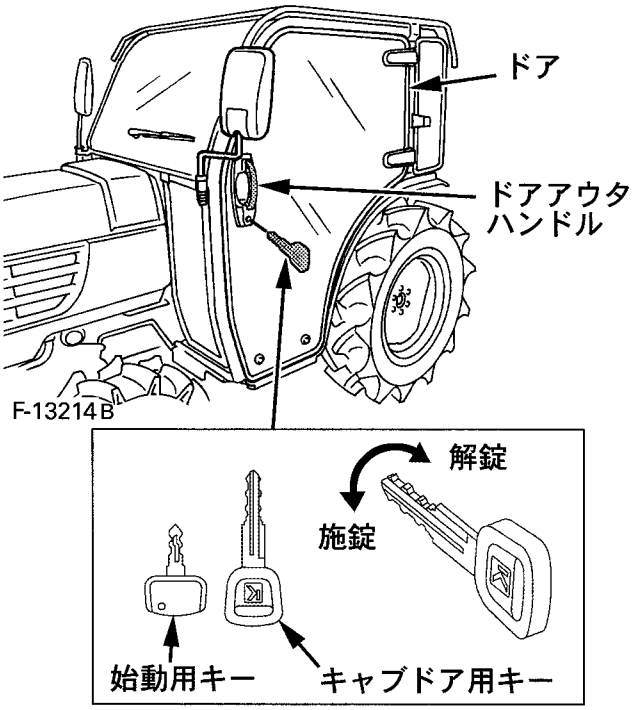
ドア・窓の開閉とロック

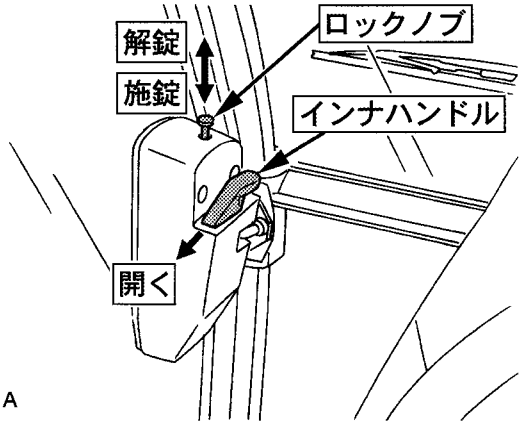
注　意

＊ リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。(開放時頭などを打つおそれがあります。)
＊ ガラスを破損させるおそれがありますのでキャブ内には物を載せないでください。
＊ ガラスの取扱いはていねいに行なってください。

■ドア

◆ドアの開閉とロック



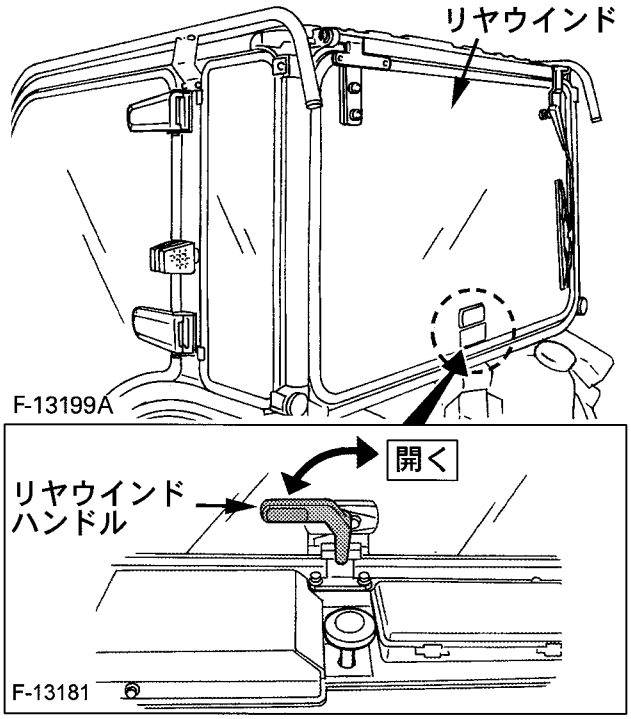


補　足

＊ ドアにぶらさがったり，作動範囲以上に無理に押し開かないでください。

■リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で自動的に開きます。

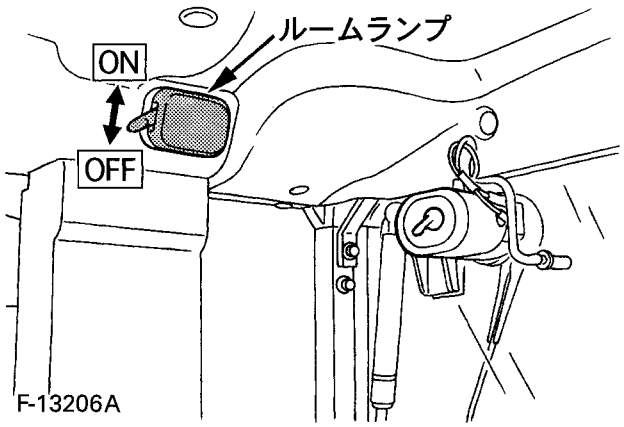


重　要

＊ 作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときには十分確認して行なってください。
＊ リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

■ルームランプ

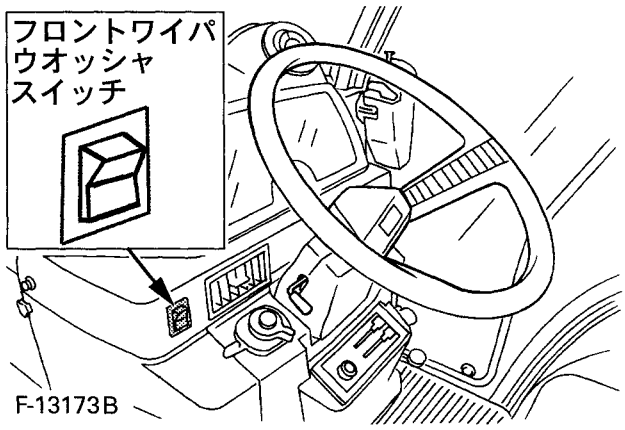
ルームランプは、ドアの開閉に関係なく作動します。



ワイパ

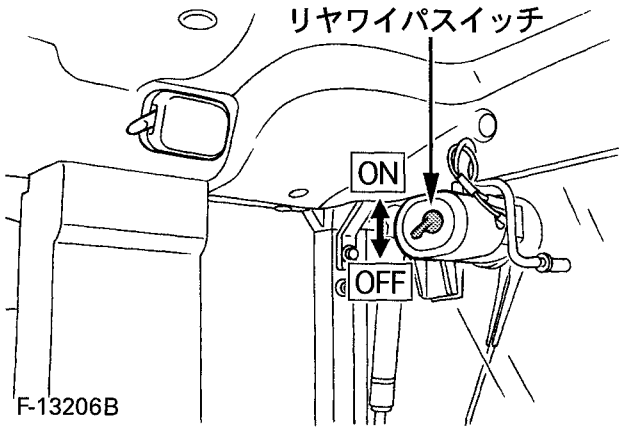
■フロントワイパ・ウォッシャスイッチ

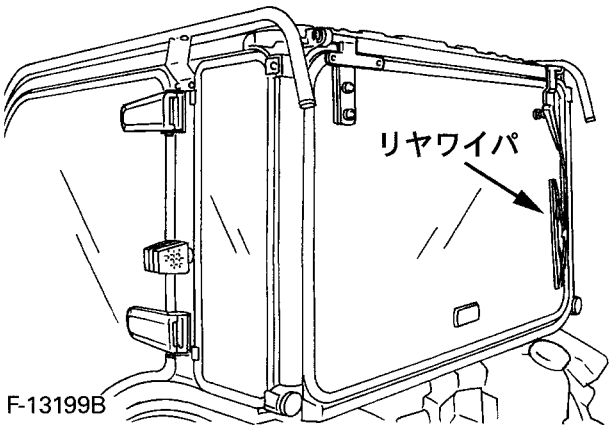
1. スイッチの上側を１段押すとワイパが作動します。
2. さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
3. スイッチの下側を押すと，押している間のみウォッシャ液が噴射します。



■リヤワイパ

1. スイッチをＯＮ（入）にすると、ワイパが作動します。
2. ウォッシャ液は、フロントワイパスイッチに連動して噴射されます。





補　足

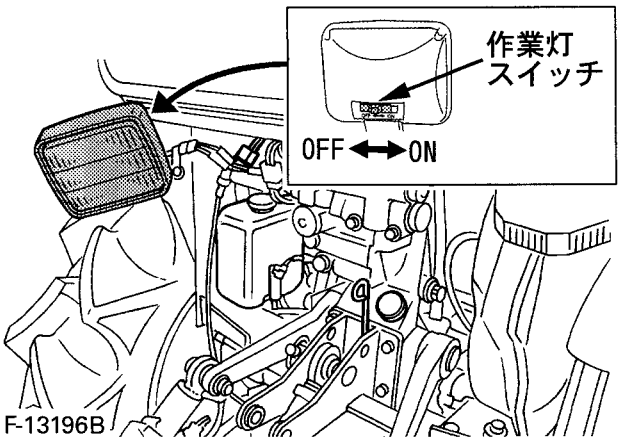
＊ からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。

■寒冷時のワイパの使用

寒冷時には，ワイパブレードがガラスと氷着していることがあります。そのままワイパを作動させるとワイパブレード及びワイパモータの故障につながるおそれがありますので，必ずキースイッチを**[切]**にして氷を取除いてから再度起動させてください。

作業灯

■作業灯



重　要

＊ バッテリがあがりますので，エアコン・作業灯・ヘッドライトなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を 1500 回転以上にしてください。

補　足

＊ 作業灯は農作業時以外では必ず消してください。

エアコン

重　要

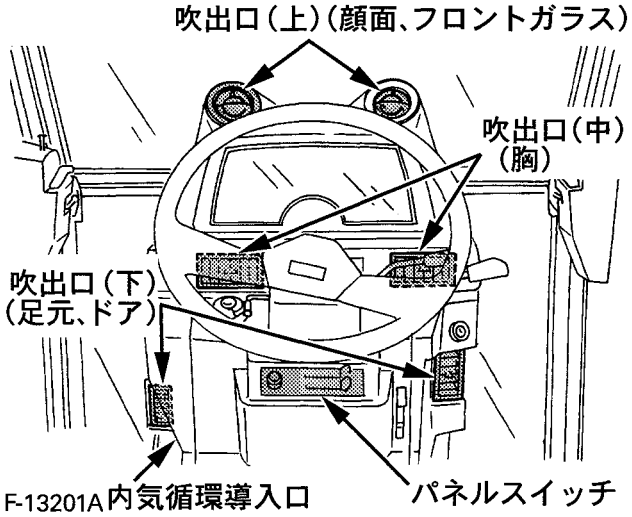
＊ コンプレッサの寿命低下を防ぐため下記の項目をまもってください。
＊ エアコンならし運転
エアコンを作動させるときは次のならし運転を１０分以上実施してください。

	夏期	冬期
エンジン回転	アイドリング	アイドリング
温調	最強冷	最強暖
ブロア	Ｈｉ	Ｈｉ

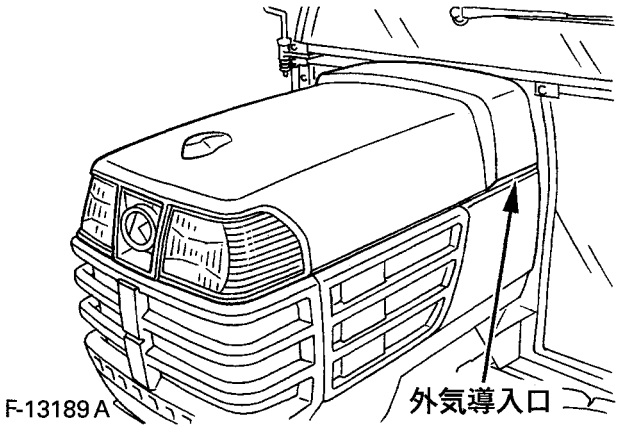
＊ エアコンを１週間以上使用しなかったときは、必ずアイドリングにてエアコンスイッチをいれてください。

■空気の流れ

キャブ内の空気の流れは下図の通りです。6 カ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。



F-13201A

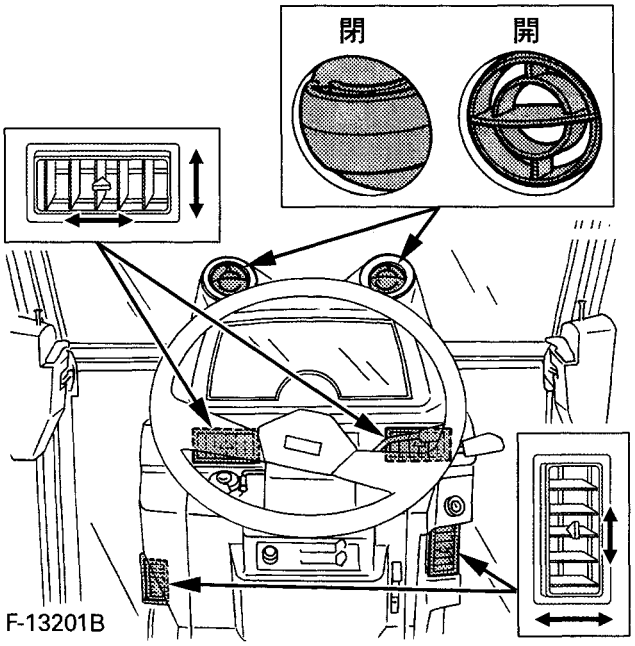


F-13189A

■風向調整

◆吹出口（上）

風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。デフロスタ（フロントガラスのくもり及び凍結除去）として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。吹出口（中・下）からの風量を増したいときは，**[閉]** にしてください。



F-13201B

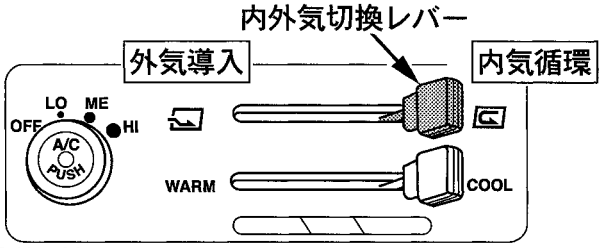
◆吹出口（中・下）

風の方向はルーバーの向きにより自由に調整できます。

エアコン

■コントロールパネル

◆内外気切換えレバー



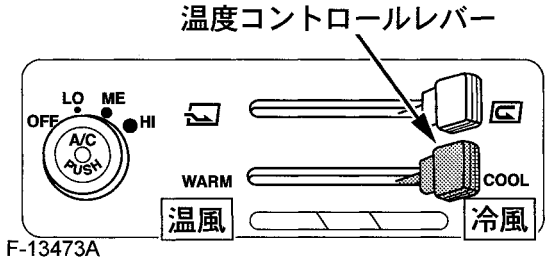
F-13472A

外気導入	内気循環
キャブ室内に外気が入ってきます。ガラスが曇る場合に使用します。	外気は入りません。早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。

補　足

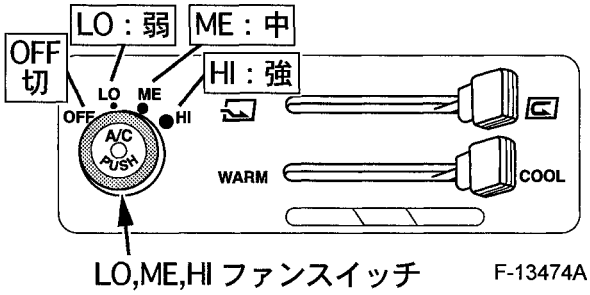
＊ 内気循環での長時間暖房（エアコンスイッチ切）は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。

◆温度コントロールレバー



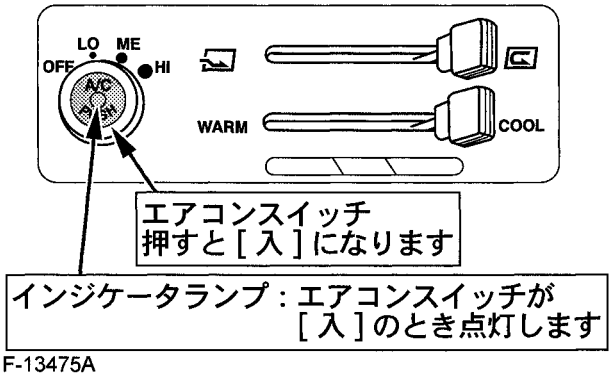
F-13473A

◆LO・ME・HI ファンスイッチ



F-13474A

◆エアコンスイッチ



F-13475A

■取扱い操作方法

◆暖房

1. 内外気切換えレバーを外気導入［ ］にします。早く室温を上げたいときは内気循環［ ］にします。
2. ファンスイッチ（LO・ME・HI）と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

補　足

＊ 夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，温度コントロールレバーを COOL（右端）に寄せてください。

◆冷房・除湿暖房

1. 内外気切換えレバーを外気導入［ ］にします。
2. エアコンスイッチを押し［入］にします。
3. ファンスイッチ（LO・ME・HI）を作動させます。
4. 温度コントロールレバーをCOOL又は中間位置に調整し，快適な温度にします。

◆デフロスタ

フロントガラスの曇り及び凍結除去するときは，

1. 吹出口（上）を開き，フロントガラスの方向に向けます。
2. 内外気切換えレバーを外気導入［ ］にします。
3. ファンスイッチを　HI，温度コントロールレバーを WARM（左端）にします。

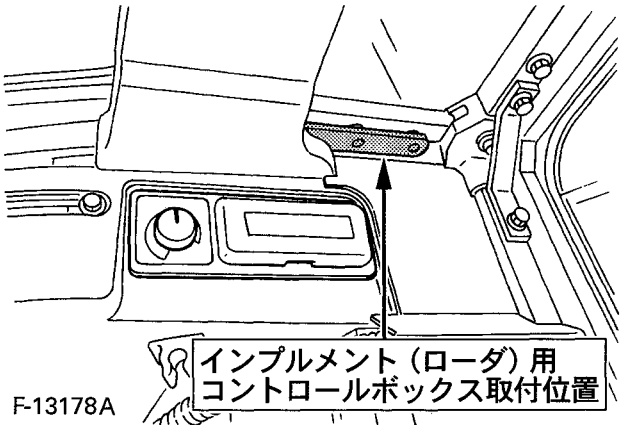
■ヒータ使用上の注意

注　意

＊ ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。
＊ 異常を認めたとき、修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

1. 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
2. 冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。（冷却水の排水のしかたは，**[2 年ごとの点検・整備]** の **[冷却水の交換]** の項を参照してください。）
3. ウォータホースは２年ごとに交換を受けてください。
4. 点検
   次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。(ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。)
   ＊ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ，
   ＊ウォータホースジョイント部の水漏れ
   ＊ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ，破損
   ＊本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損

インプルメント用操作ボックスの取付位置



F-13178A

トラクタの簡単な手入れと処置

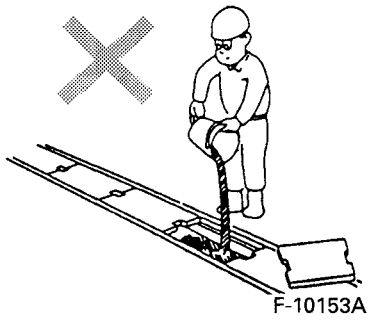
注　意

＊ 給油及び点検整備するときは
1. トラクタを平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキをかけ
4. エンジンを止め
5. キーを抜き,安全を確認してから行なってください。

そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃油処理について

1. 抜取った廃油は廃油処理業者へ依頼し，処理してください。
2. 廃油を溝や空地などに絶対に捨てないでください。



定期点検箇所一覧表

重　要

＊ ◎はならし運転の50時間後に必ず行なってください。
＊ バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕
次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No	項目		時期	アワーメータ表示時間																それ以降	参照ページ
				50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
1	エンジンオイル	年間使用時間が100時間以上の場合	交換	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	63
		年間使用時間が100時間以内の場合	交換	◎																1年ごと	63
2	エンジンオイルフイルタ		交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	68
3	ミッションオイル		交換	◎					○						○					300時間ごと	72
4	油圧オイルフイルタ		交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	68
5	油圧ミッションオイルフイルタ		交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	68
6	前車軸ケースオイル		交換						○						○					300時間ごと	72
7	グリースの注入			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	60
8	エンジン始動システム		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	60
9	倍速ターン高速けん制装置		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	61
10	タイヤ取付けボルト		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	61
11	ワイヤハーネス，バッテリコード		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	61
12	クラッチハウジング		水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	62
13	燃料パイプ		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	62
			交換																	2年ごと	76
14	バッテリ電解液		点検		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	63
15	エアクリーナエレメント		清掃		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	65
			交換																	1年又は6回清掃ごと	74
16	ファンベルト		調節		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	66
17	クラッチペダル		調節	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	66
18	ブレーキペダル		調節		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	67
19	トーイン・タイロッド		点検				○				○				○				○	200時間ごと	96
20	ラジエータホース		点検				○				○				○				○	200時間ごと	70
			交換																	2年ごと	76
21	内気フィルタの詰まり		清掃				○				○				○				○	200時間ごと	70
22	外気フィルタの詰まり		清掃				○				○				○				○	200時間ごと	70
23	コンデンサの詰まり		清掃				○				○				○				○	200時間ごと	71
24	エアコンベルトの張り		調節				○				○				○				○	200時間ごと	71
25	燃料フイルタ		交換								○								○	400時間ごと	73
26	前部デフケース前後遊び		調節												○					600時間ごと	73
27	エンジンバルブクリアランス		調節																○	800時間ごと	74

定期点検箇所一覧表

No	項目＼時期		アワーメータ表示時間															それ以降	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	
28	ヒータ配管，ウォータホース	点検																	1年ごと	74
29	エアコン配管，ホース	点検																	1年ごと	74
30	ラジエータ	洗浄																	2年ごと	75
31	冷却水	交換																	2年ごと	75
32	モンローシリンダホース	交換																	2年ごと	76
33	ヒータ配管，ウォータホース	交換																	2年ごと	76
34	ヒューズ類	交換																	必要に応じて	77
35	ランプ類	交換																	必要に応じて	77
36	ウォッシャ液	補充																	必要に応じて	77
37	各部への注油	-																	必要に応じて	-
38	冷媒（ガス）量	補充																	必要に応じて	78

給油（水）一覧表

■トラクタの給油（水）

給油（水）項目	容量（L）	使用オイル
燃　料	20	ディーゼル軽油
冷却水（ラジエータ）	3.9	清水又はクボタ不凍液（５０％）
冷却水（リザーブタンク）	0.6	
エンジンオイル	4.1	クボタ純オイル （ディーゼルエンジン用） D30 又は D10W30
ミッションオイル	16	クボタ純オイル スーパー UDT　又は バイオスーパー UDT
前車軸ケース	4.6	
グリースの注入 ＊クラッチペダル ＊ブレーキペダル	少量	
グリースの塗布 ＊関接球 ＊チェックチェーン	塗布	
ウォッシャ液	1.8	

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

メ　ー　カ	エンジンオイル	ミッションオイル 前車軸ケースオイル
日石三菱	クボタ純オイル （ディーゼルエンジン用） D30 又は D10W30	クボタ純オイル スーパー ＵＤＴ　又は バイオスーパー ＵＤＴ
コスモ石油		
ジャパンエナジー		
昭和シェル石油		
富士興産		

■グリース

メ　ー　カ	グ　リ　ー　ス	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日石三菱	エピノックグリース APNo. 2	PAN WB グリース
コスモ石油	ダイナマックス EPNo. 2	ロードマスター No. 2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリース EPNo. 2	リゾニックスグリース No. 2
昭和シェル石油	レチナックス CD	サンライトグリース No. 2
モービル石油	プレックス 47	モービルグリース JL
エッソ石油	シャーシグリース L	リスタン WB2
出光興産	シャースグリース	アポロイルオートレックス A
ゼネラル石油	シャーシグリース No. 2	WB グリース No. 2
キグナス石油	シャーシグリース No. 2	MP グリース No. 2

ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方

注　意

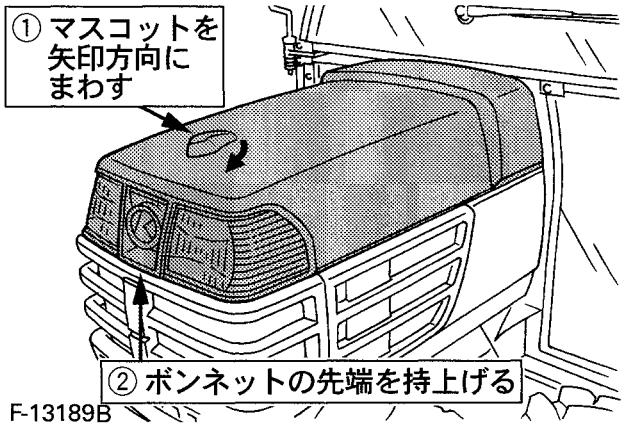
＊ エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
＊ マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■ボンネットの開閉

注　意

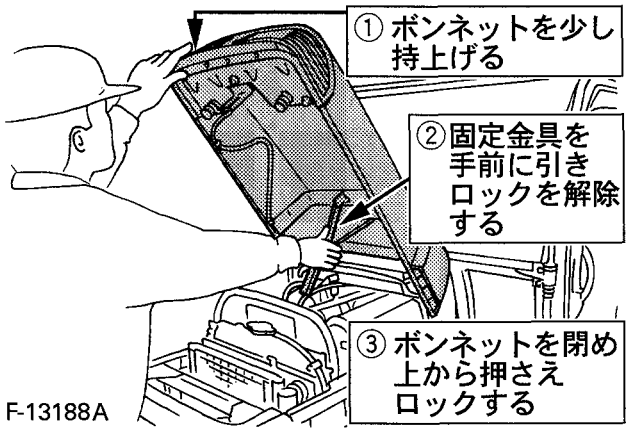
＊ ボンネットを開き点検・調整するときは，必ずボンネット固定金具が［ロック］されたか確認してから作業をしてください。

◆ボンネットの開け方



F-13189B

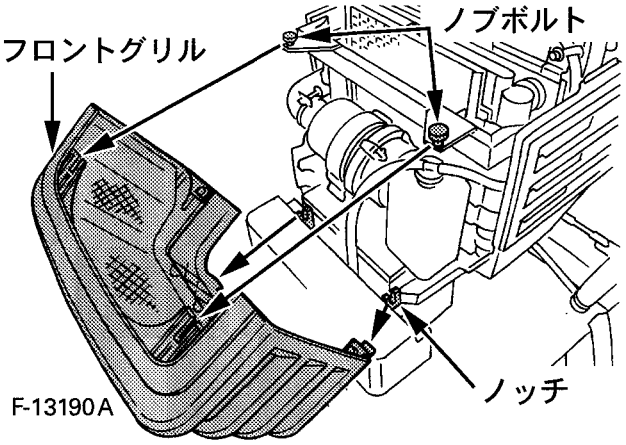
◆ボンネットの閉め方



F-13188A

■フロントグリルの開閉

1. ノブボルトをゆるめ、フロントグリルを外す。
2. 組付け時、カバー下部のノッチ部を合わせ、ノブボルトを締める。

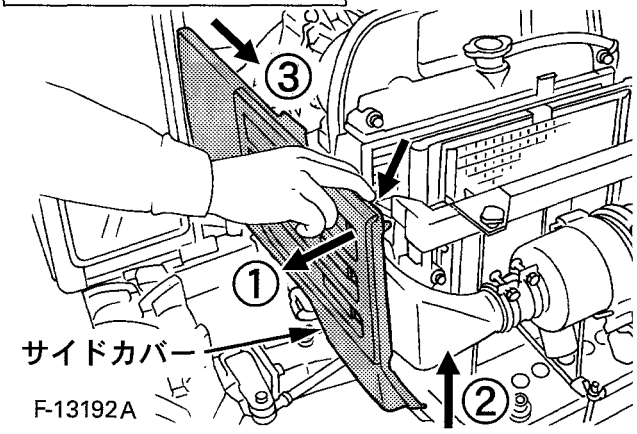


F-13190A

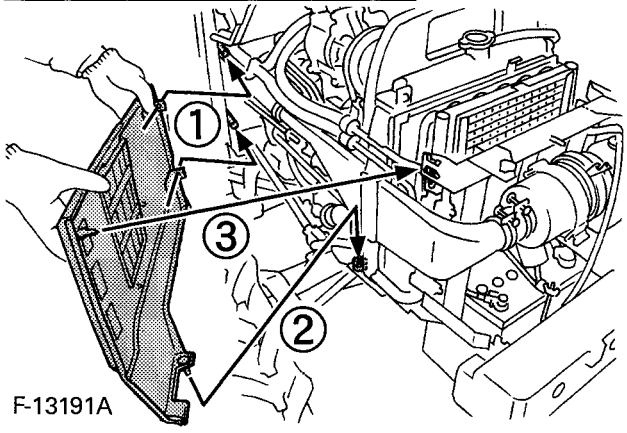
■サイドカバーの開閉

1. カバーの矢印部を外側に引く。
2. 前端を少し持上げてピン部を穴から抜く。
3. 前方に引いてカバーを外す。
4. 組付け時、外した順と逆に最後にノッチ部を合わせ、矢印部を内側に押込む。

サイドカバーを外す順序



サイドカバーを取付ける順序



日常点検

注 意

* 火気厳禁
* 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
* 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
* トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
* 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹き出してヤケドをすることがあります。
* エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

1. 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

2. トラクタの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

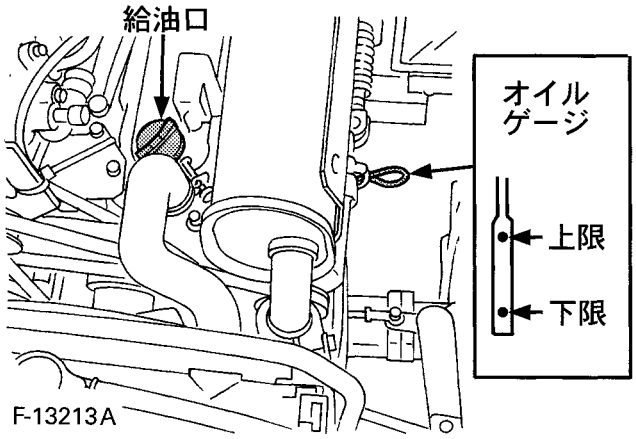
日常点検

■エンジンオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き［**下限と上限の間**］にオイルがあるかを調べます。
2. ［**下限**］以下の場合は補給してください。ただし，［**上限**］以上には入れないでください。



重　要

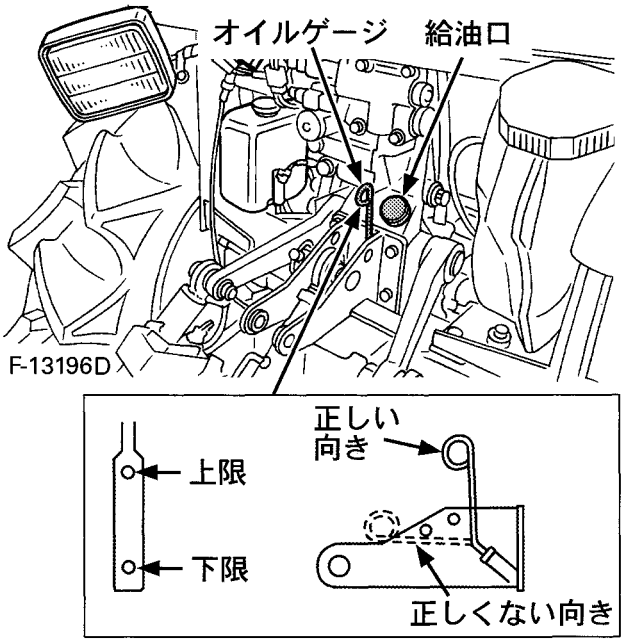
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き［**下限と上限の間**］にオイルがあるかを調べます。ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。
2. ［**下限**］**以**下の場合は補給してください。ただし，［**上限**］以上には入れないでください。



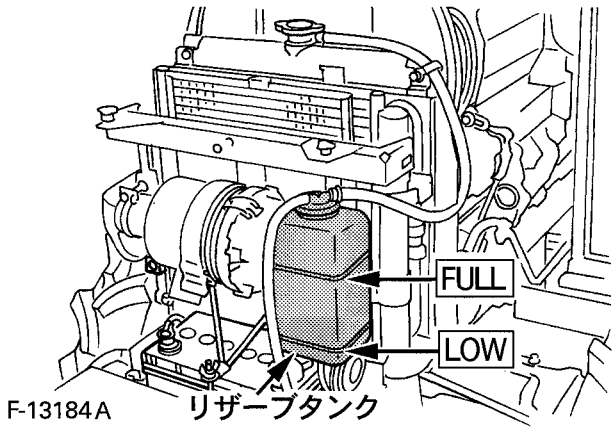
日常点検

■冷却水の量

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**[FULL から LOW の範囲]** であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合は，FULL のレベルまで補給してください。FULL 以上は入れないでください。



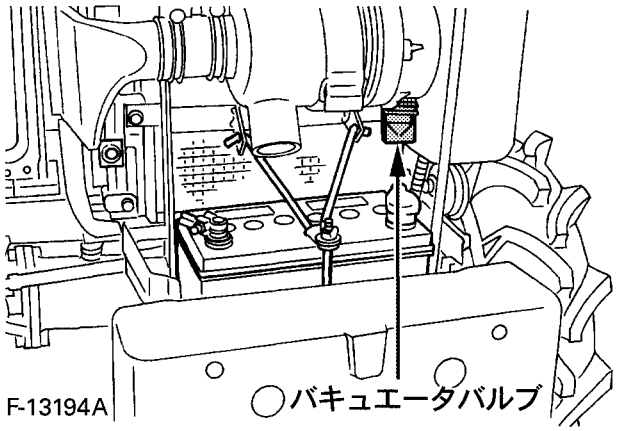
F-13184A

補　足

＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。



F-13194A

■燃料フィルタの水，沈殿物の点検

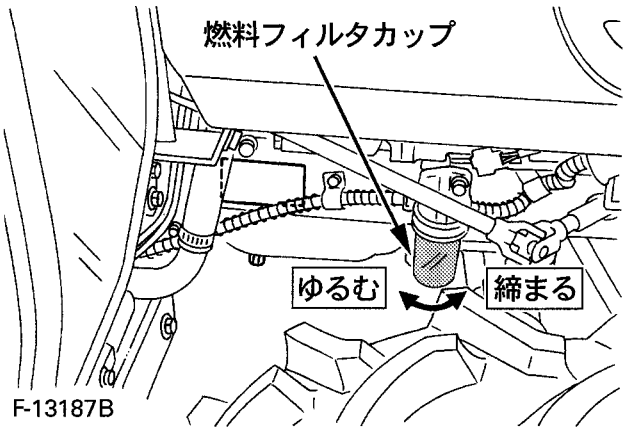
燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったら，カップを **[ゆるむ]** 方向へ回してカップを外し，内部を軽油で洗浄してください。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。

補　足

＊ フィルタカップを外すと，燃料タンクからの流出燃料は自動的に止まります。



F-13187B

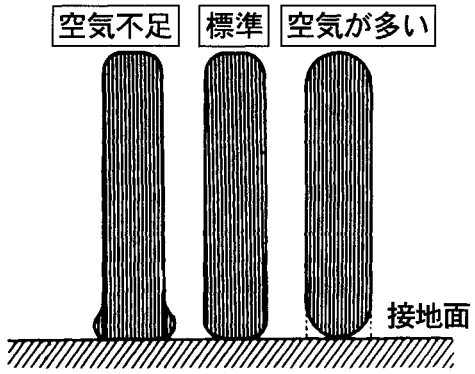
日常点検

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

* タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
* タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
* タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎのとおりです。



F-1010B

◆標準空気圧

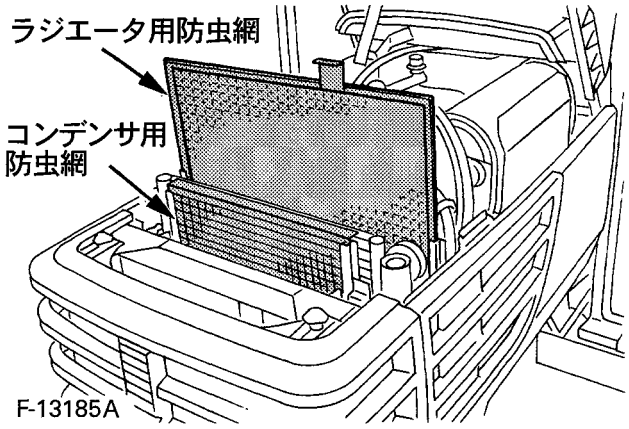
	タイヤ	空気圧 kPa (kgf/cm^2)
前輪	6-12	200(2.0)
	6-14	120(1.2)
後輪	8-18	160(1.6)
	9.5-20	140(1.4)

■防虫網の清掃

注　意

* エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがあります。防虫網を引出し清掃してください。



F-13185A

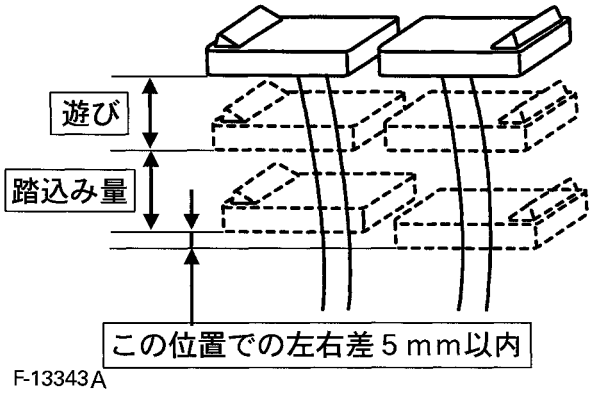
3. 運転席に座って

■ブレーキペダルの遊び・点検

警　告

＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

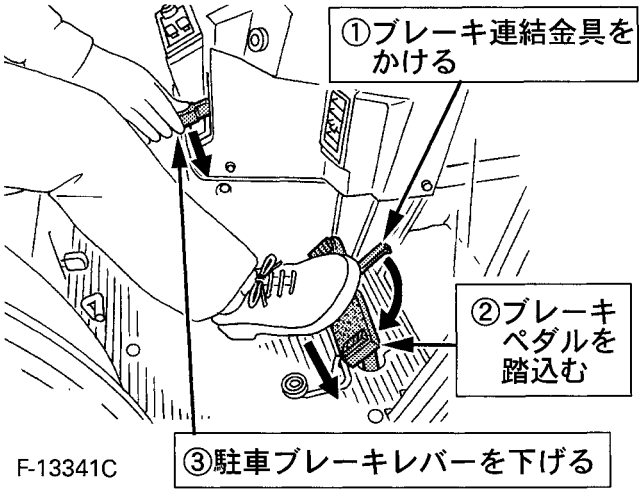
ペダルを踏んで遊び量が **[20 ～ 30mm]** かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が **[5mm 以内]** かどうかを調べます。(調整のしかたは **[100 時間ごとの点検・整備]** の **[ブレーキペダルの点検・調整]** の項を参照)



F-13343A

■駐車ブレーキの作動点検

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを **[下げ]** たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

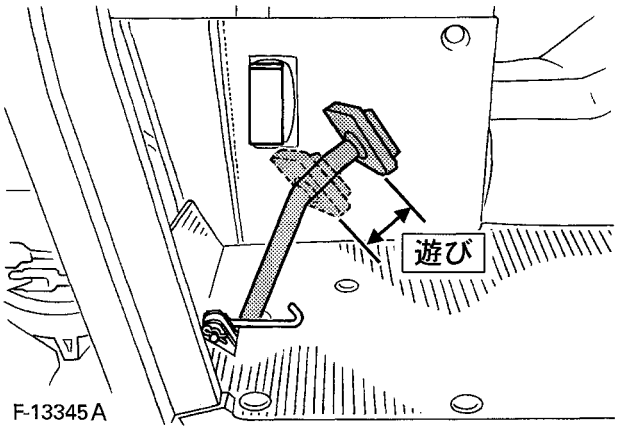


F-13341C

■クラッチペダルの遊び・点検

ペダルの遊び量が **[20 ～ 30mm]** あるか確認してください。

(調整のしかたは **[100 時間ごとの点検・整備]** の **[クラッチペダルの点検・調整]** の項を参照)



F-13345A

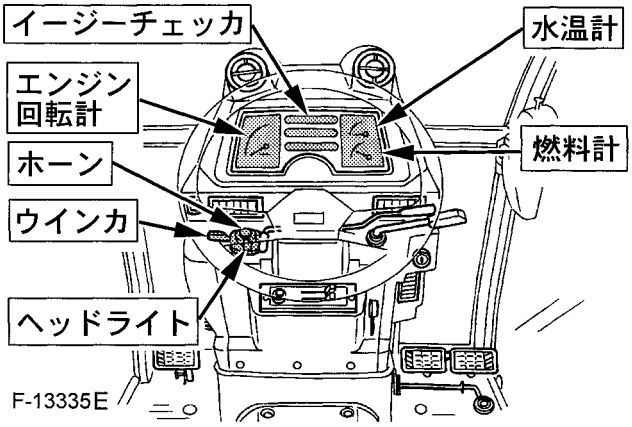
重　要

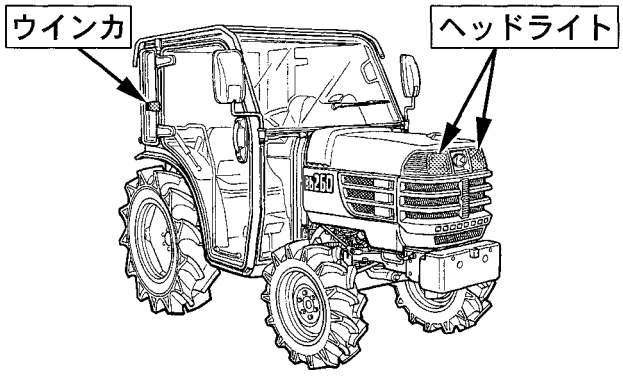
＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

4. エンジンを始動して

■メータ・ランプ類の作動

下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。





F-13340A

5. 燃料の補給

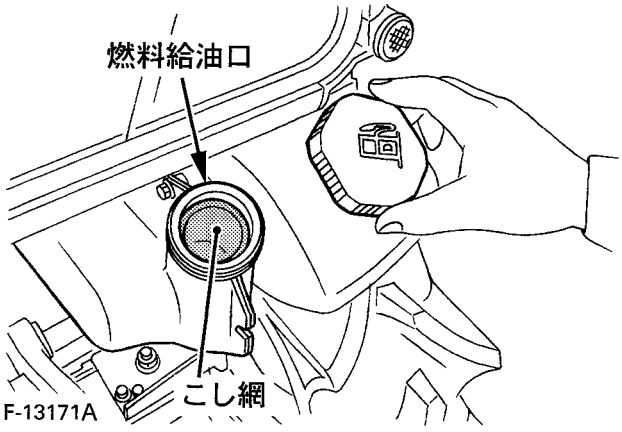
注　意

* 燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
* 火気厳禁。

燃料には，**［ディーゼル軽油］**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以上
１号	０及び－５
２号	－10
３号	－15及び－20
特３号	－25及び－30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



F-13171A

重　要

* 燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，給油時はこし網を外さないでください。
* 燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
* 燃料キャップが締まっているか確認してください。

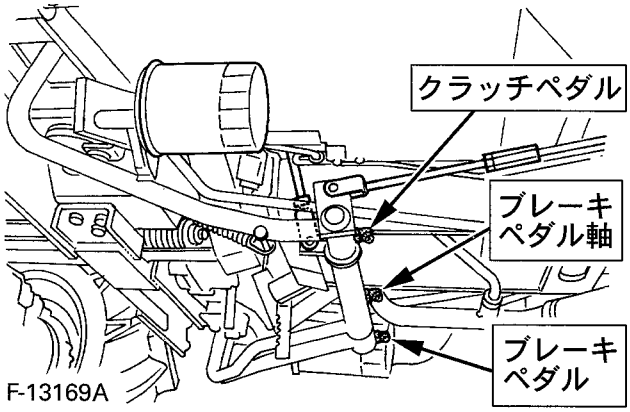
50 時間ごとの点検・整備

注 意

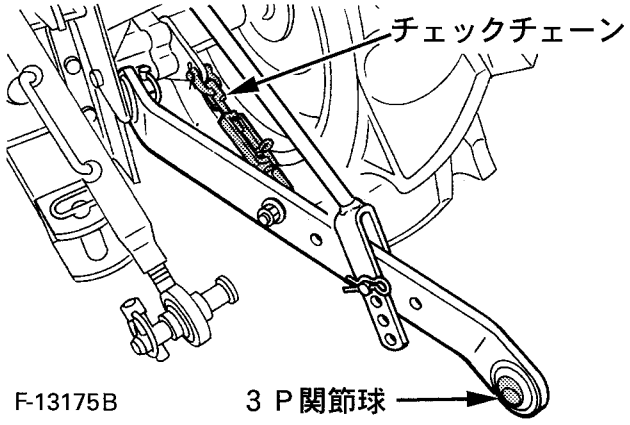
＊ 点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

■グリースの注入

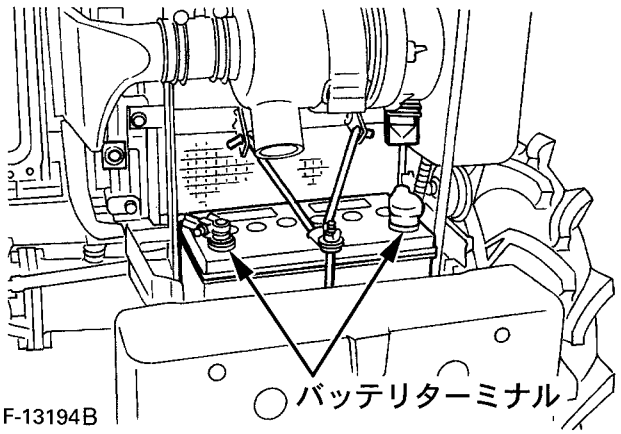
代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**［クボタ推奨グリース］**を使用してください。



F-13169A



F-13175B



F-13194B

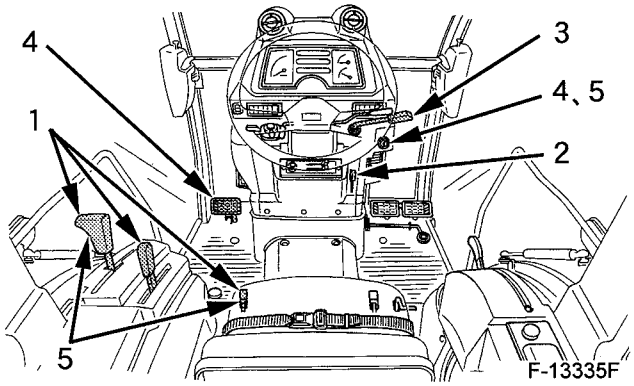
■エンジン始動システムの点検

注 意

＊ 点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊ 装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆点検

1. 運転席に座り，主変速，副変速及びPTO変速レバーを**［中立］(N)**にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを**［最低速］**位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。このとき，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，主変速又はPTO変速レバーをいづれかの位置に変速し，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。



F-13335F

50 時間ごとの点検・整備

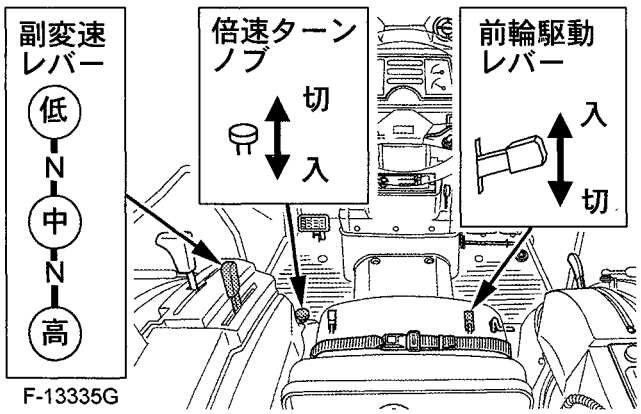
■倍速ターン高速けん制装置の点検

注　意

＊ 装置に異常があれば必ず購入先に相談し，整備をした後，ご使用ください。

◆ 点検手順

1. 運転席に座り，前輪を直進状態にして副変速レバーを［**低**］又は［**中**］，前輪駆動レバーを［**入**］、倍速ターンノブを［**入**］にします。
2. 副変速レバーを［**高**］に入れます。このとき，けん制装置がはたらき，倍速ターンノブは［**入**］（キースイッチ［**入**］のときは，倍速ターンランプも点灯）のまま，倍速ターンは作動しません。
3. この状態で実際に旋回し，倍速ターンが作動しなければ正常です。旋回は，平坦な広い場所で，エンジン回転を低くし安全確認を行なってから実施してください。
4. 前輪を直進状態にし，副変速レバーを［**低**］又は［**中**］に入れると，けん制装置が自動復帰します。この状態で旋回し，倍速ターンが作動すれば正常です。

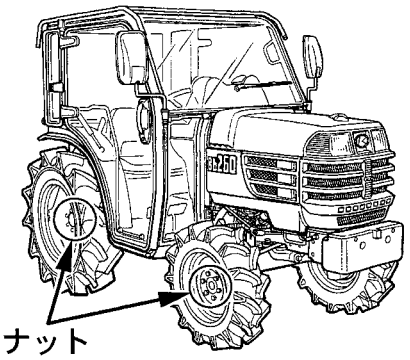


F-13335G

■タイヤ取付けボルトの点検

注　意

＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起すおそれがあります。



F-13340B

■ワイヤハーネス，バッテリ（＋）コードの点検・交換

注　意

＊ ワイヤハーネス及びバッテリ（+）コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
＊ バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

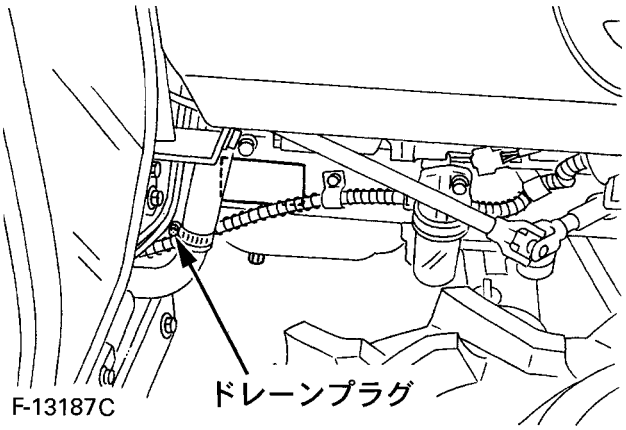
ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

1. ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
2. ターミナル，ブロック（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。
3. 各スイッチが確実に作動すること。

50 時間ごとの点検・整備

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は 50 時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の侵入がないことを確認してください。もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。



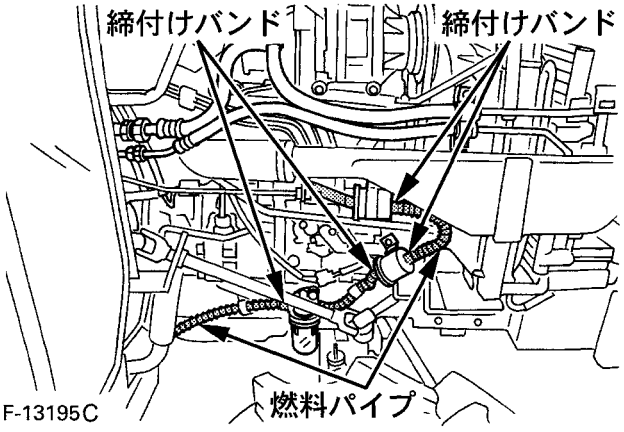
■燃料パイプの点検

注　意

＊ パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料パイプなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に 2 年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。



重　要

＊ 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

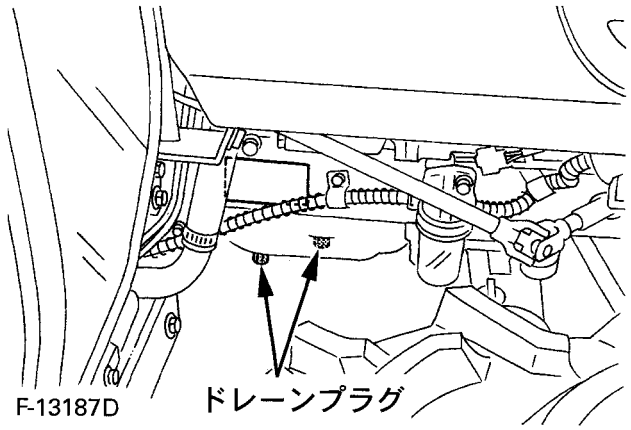
100時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

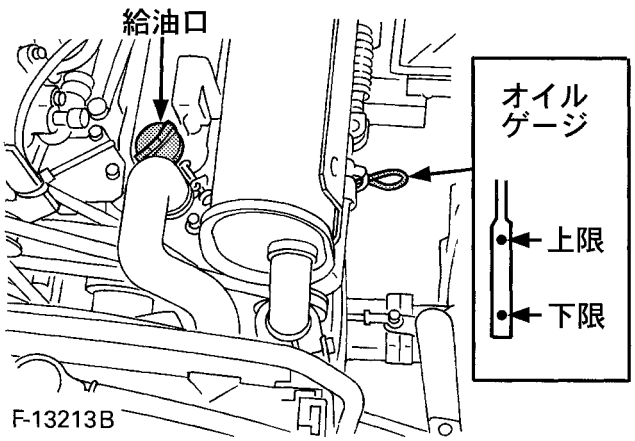
注　意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。



2. ドレーンプラグを締めます。
3. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。



重　要

＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 No. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊ 気温により次のように使いわけてください。

15℃以下	D10W30（オールシーズン用）
15℃以上	D30，又はD10W30

＊ 冬期は必ずD10W30を使用してください。

■バッテリ電解液の点検

危　険

＊ バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

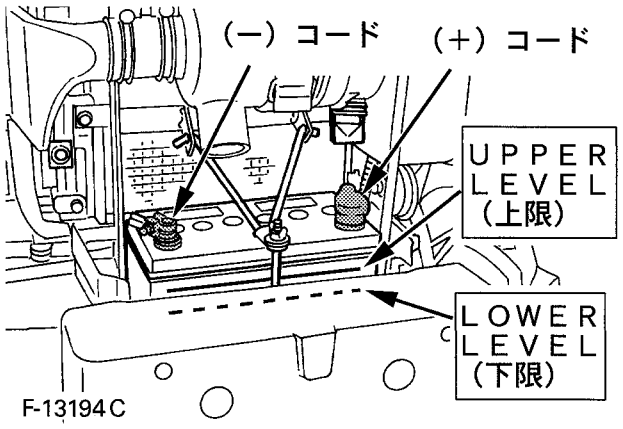
100時間ごとの点検・整備

警　告

* バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。
* バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを［切］位置にしておいてください。
* バッテリを取外すときは，短絡（ショート）事故を防ぐため，最初にバッテリ（－）コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ（－）コードを接続してください。
* バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆バッテリ液の点検

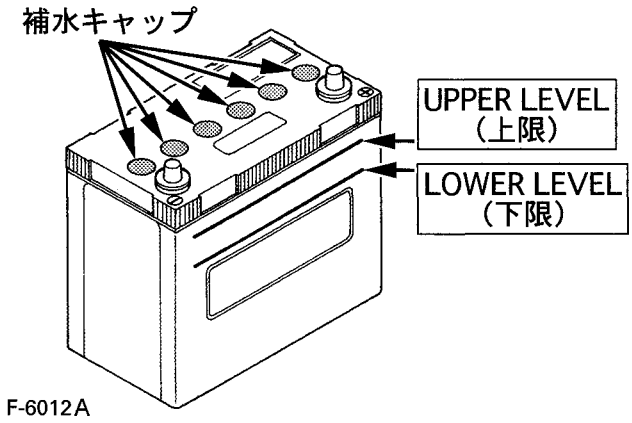
バッテリは MF（メンテナンスフリー）バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっていますが側面に２本の線（レベル）があり，その間に液面があればよく，少ないときは上側の線（レベル）まで蒸留水を補給してください。



F-13194C

◆補水のしかた

1. バッテリ上フタの補水キャップを外します。
2. ６個の補水穴から蒸留水を均一に上側の線（レベル）まで補水します。
3. キャップを元の穴にねじ込みます。



F-6012A

◆バッテリの取付け，取外し

注　意

* バッテリを取外すときは，バッテリ（－）コードを最初に外し，次に（＋）コードを外してください。
* 取付けるときは，必ず（＋）側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

* バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
* 新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式（55B24L）のバッテリを使用してください。
* バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの（＋），（－）のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

100時間ごとの点検・整備

◆補充電のしかた

警　告

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。バッテリは充電中可燃ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
2. バッテリコードを接続するときは，（＋）と（－）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）に，バッテリの（－）を充電器の（－）にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがわないように注意してください。

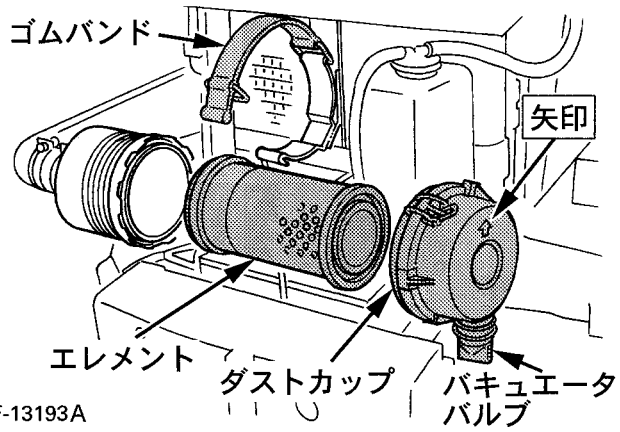
■エアクリーナエレメントの清掃

◆エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。（エアーの圧力は0.49MPa（5kgf/cm^2）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）

◆エレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。



重　要

＊ エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊ 乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ 清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊ ダストカップの（↑　マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

◆バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

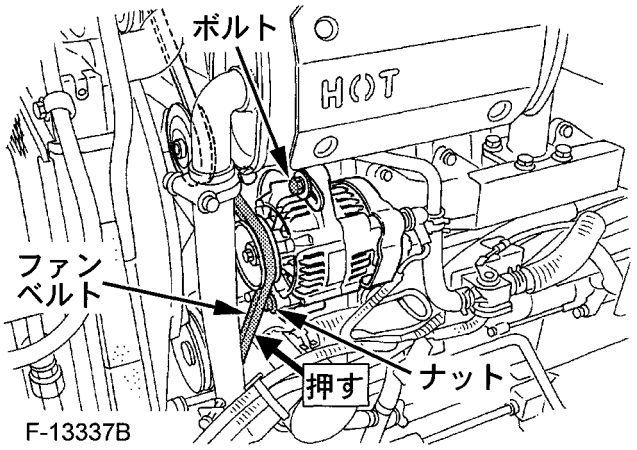
100 時間ごとの点検・整備

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 10kgf の力で抑えて，約 7 mm たわむ程度

◆調整方法

1. オルタネータを取付けているボルト・ナットをゆるめ，オルタネータを動かして調整します。
2. 調整後はボルト・ナットを確実に締付けてください。



重 要

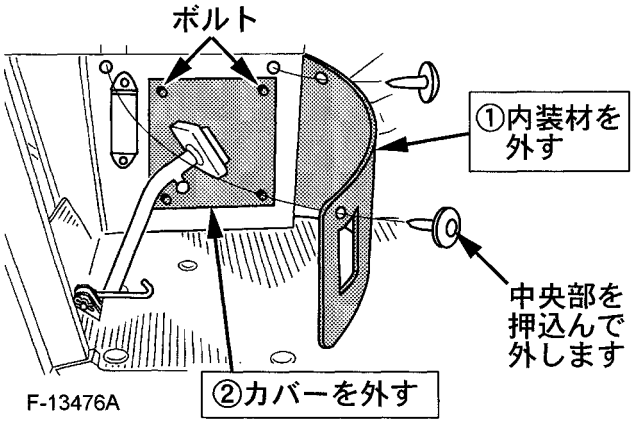
＊ ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊ き裂やはがれがあれば交換してください。

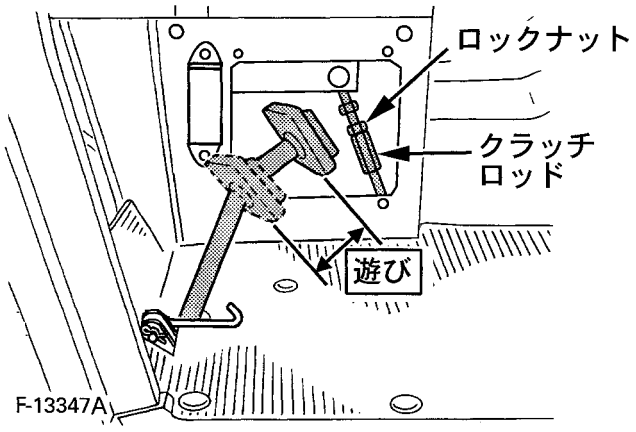
■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで 20 ～ 30 mm

◆調整方法

1. ロックナットをゆるめクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。
2. 調整後はロックナットを確実に締付けてください。





重 要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

100 時間ごとの点検・整備

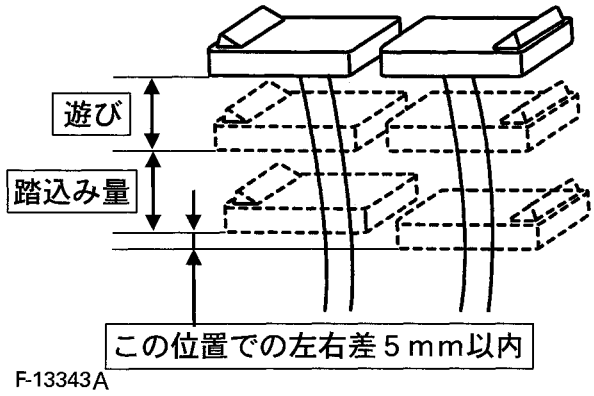
■ブレーキペダルの点検・調整

警 告

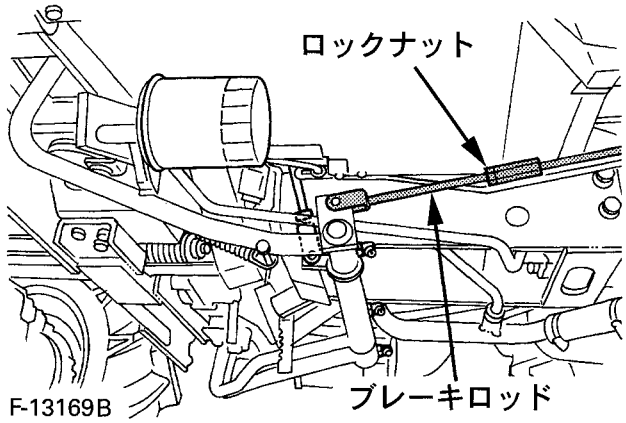
* 点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
* ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。
* 調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず［ 5 mm 以内 ］にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起すおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで 20 ～ 30 mm

◆調整方法



F-13343A



F-13169B

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめブレーキロッドで，ペダルの遊びを調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。
4. 駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。

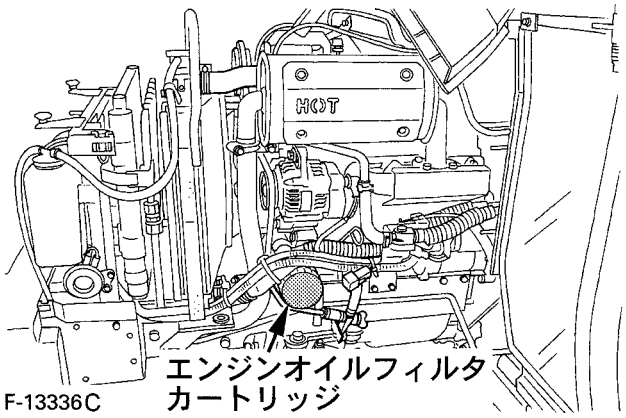
200 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注 意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. フィルタレンチでフィルタを取外します。
2. 新しいカートリッジの０リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。



F-13336C

補 足

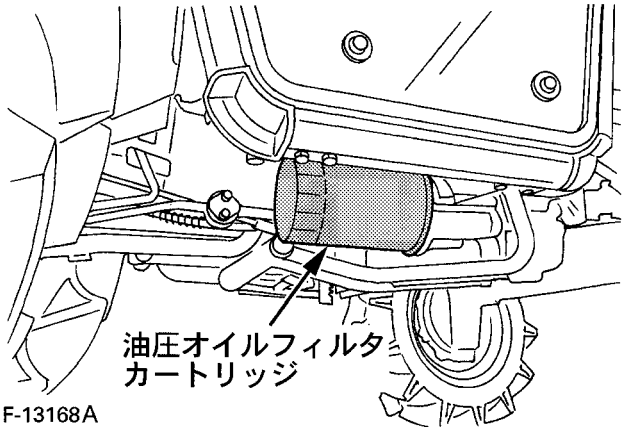
＊ オイルフィルタは，カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換
■油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換

注 意

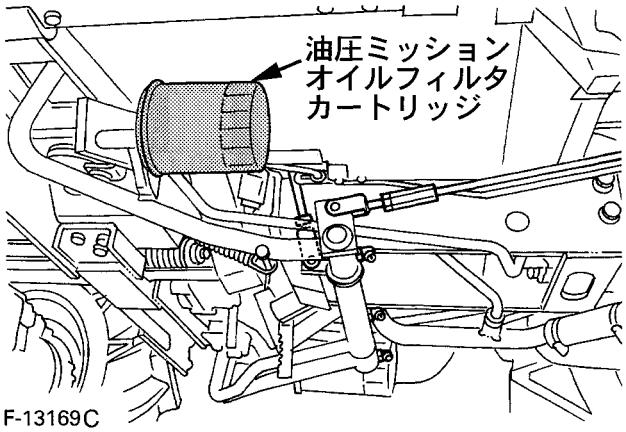
＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ミッションオイルを抜きます。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. 新しいカートリッジの０リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
4. ミッションオイルを規定量まで補給します。
5. 約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
6. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。(ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは **[300 時間ごとの点検・整備]** の **[ミッションオイルの交換]** の項を参照)



F-13168A

200 時間ごとの点検・整備



F-13169C

補　足

＊ 純正部品のカートリッジと交換してください。指定の純正部品を使用しないと，油圧システムに問題を起こすおそれがあります。

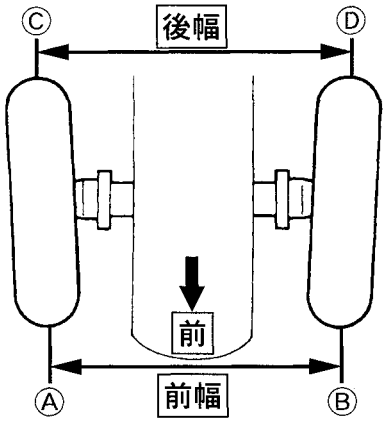
■トーイン調整・タイロッドの点検

注　意

＊ トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆点検

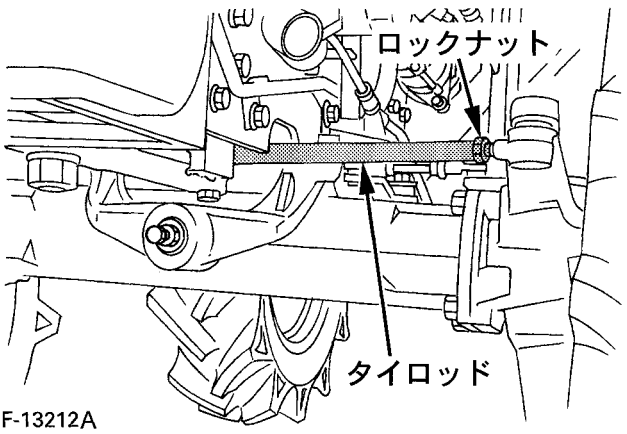
前輪の前幅 (A) (B) と後幅 (C) (D) を測り，(C) (D) － (A) (B) = 2 ～ 10mm になっているかを調べます。



F-3197A

◆調整

1. ナットをゆるめ，タイロッドを回して (C) (D) － (A) (B) ＝2 ～ 10mm になるように調整します。
2. 調整後はナットを確実に締付けておいてください。



F-13212A

補　足

＊ トーインの点検・調整時，タイロッドエンド (関接球) やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。

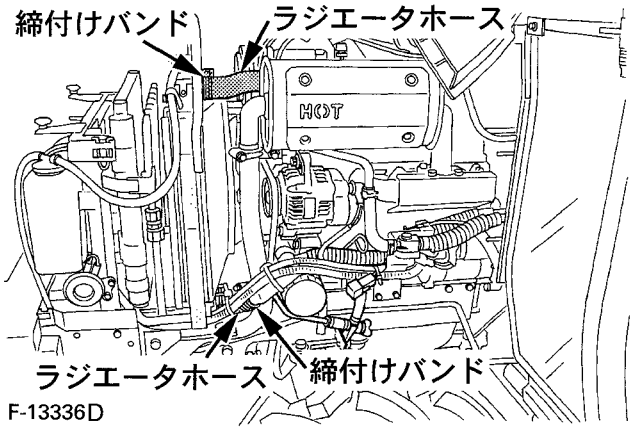
200 時間ごとの点検・整備

■ラジエータホースの点検

注　意

＊ ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。



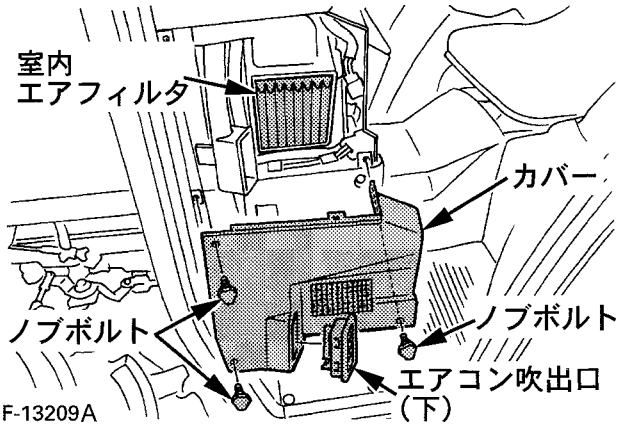
F-13336D

■室内エアフィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタを損傷させないように清掃をしてください。

◆フィルタの外し方

1. エアコン吹出口（下）を外します。
2. ノブボルトを外しカバーを外します。
3. フィルタを損傷させないように外します。



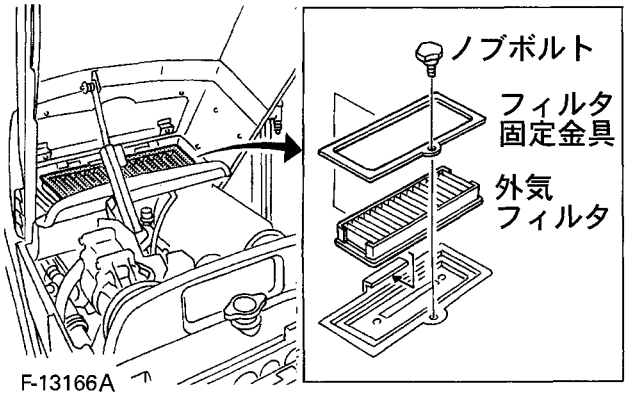
F-13209A

◆清掃法

エレメントは、風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。
カバー部の網目も損傷させないように清掃してください。

■外気フィルタ

1. ノブボルトを外し，フィルタとフィルタ固定金具をいっしょに外します。
2. 組付け時は、フィルタの方向とフィルタ固定金具位置を、間違えないようにしてください。



F-13166A

200時間ごとの点検・整備

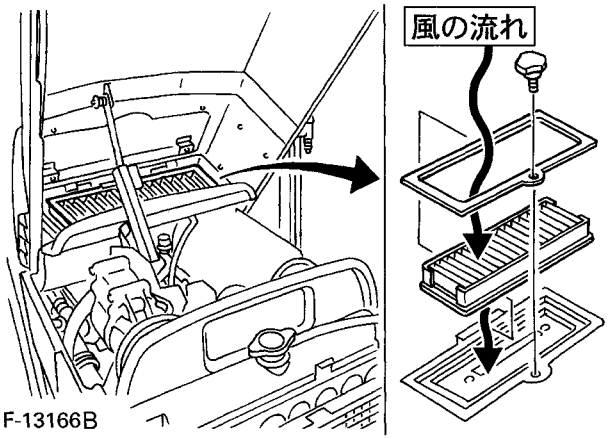
◆清掃法

「通常」

風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

重　要

＊ エレメントをたたかないでください。エレメントが変形すると，エアコンユニットにほこりが侵入し，エアコンを損傷する場合があります。



F-13166B

「汚れが著しいとき」

家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

重　要

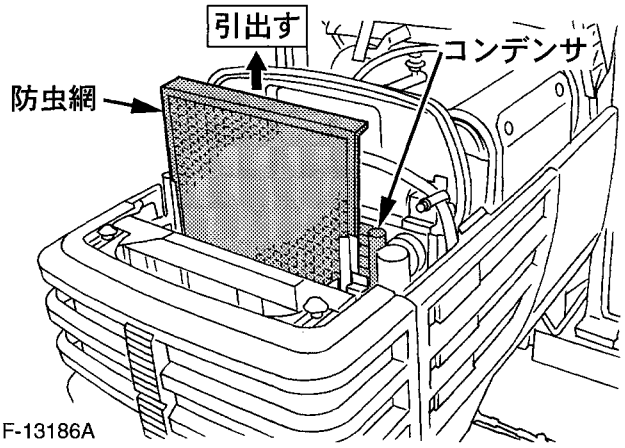
＊ 洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

■エアコンコンデンサの詰まり

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

コンデンサフィンにゴミが詰まっていれば防虫網を引出してエアブロー又は水道水などで取除いてください。



F-13186A

■エアコンベルトの張り

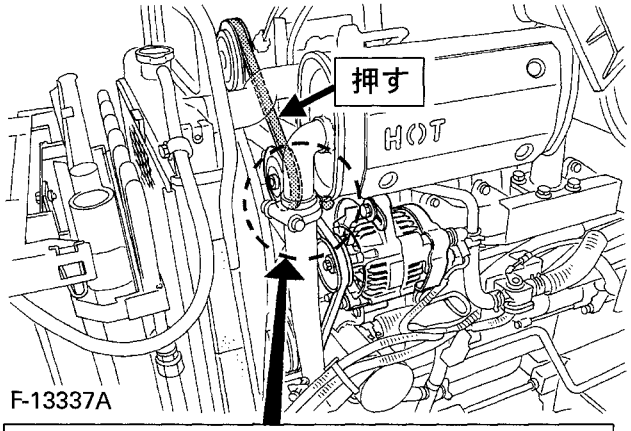
注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

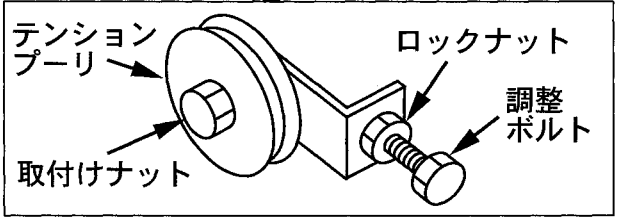
◆調整方法

テンションプーリ取付けナットをゆるめ，調整ボルトで張ります。

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約10kgfの力で押さえて，約10～12㎜たわむ程度



F-13337A



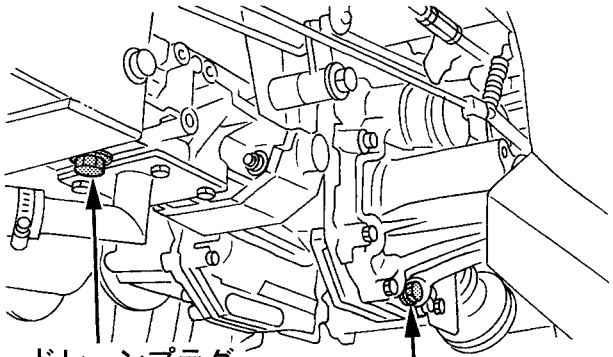
300 時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

注　意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。

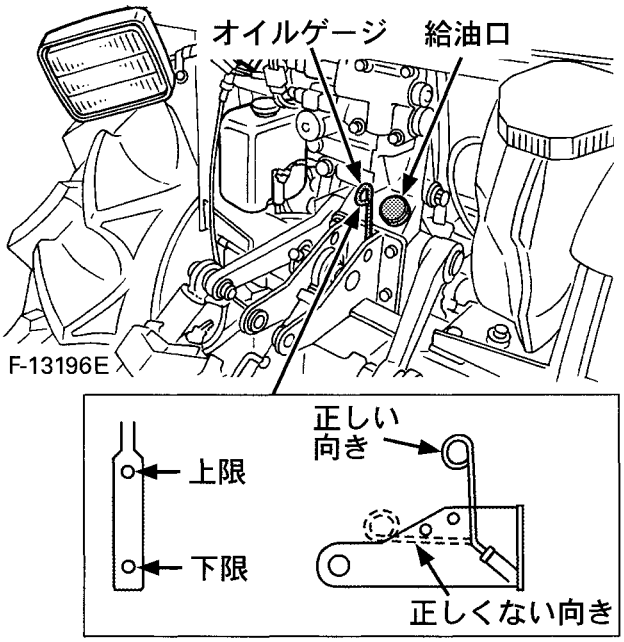


F-13167A

補　足

＊ 給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

2. ドレーンプラグを締めます
3. 給油口からミッションオイルを規定量入れてください。
4. 約５分間運転し，ドレーンプラグ締付け部より油漏れがないか確認し，エンジンを停止します。
5. 一度オイルゲージの油を拭き取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給します。ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。



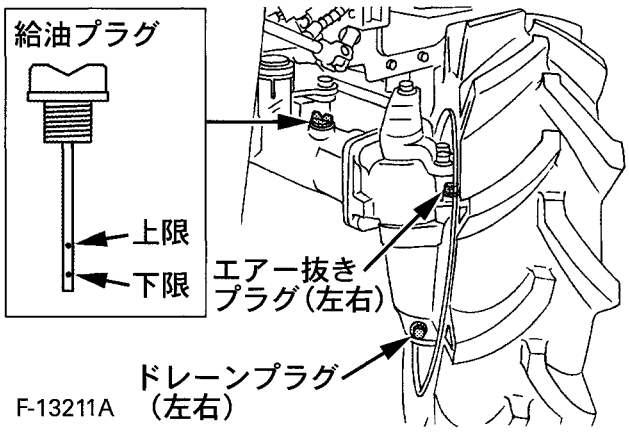
■前車軸ケースオイルの交換

1. ドレーンプラグ，エアー抜きプラグと給油プラグを外してオイルを抜きます。（左右とも）
2. ドレーンプラグを締めます。（左右とも）
3. 給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

重　要

＊ オイルが左右のケースに充満するまで時間がかかります。給油の約 10 分後，給油プラグを差込み油面を点検し，不足していれば補給します。

4. エアー抜きプラグ（左右とも）と給油プラグを確実に締めてください。



F-13211A

400 時間ごとの点検・整備

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

■燃料フィルタエレメントの清掃交換

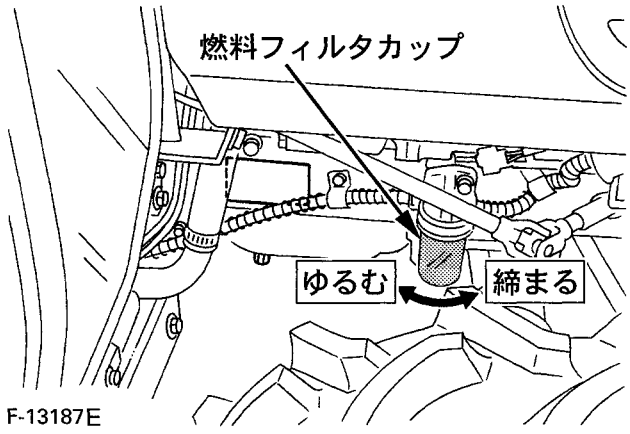
1. カップを［**ゆるむ**］方向へ回してカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
2. 新しいフィルタエレメントと交換します。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。

補　足

＊ フィルタカップを外すと，燃料タンクからの流出燃料は自動的に止まります。



F-13187E

600 時間ごとの点検・整備

■前部デフケース前後遊びの点検と調整

前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。
購入先で点検及び調整をしてもらってください。

800 時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

1 年ごとの点検・整備

注 意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

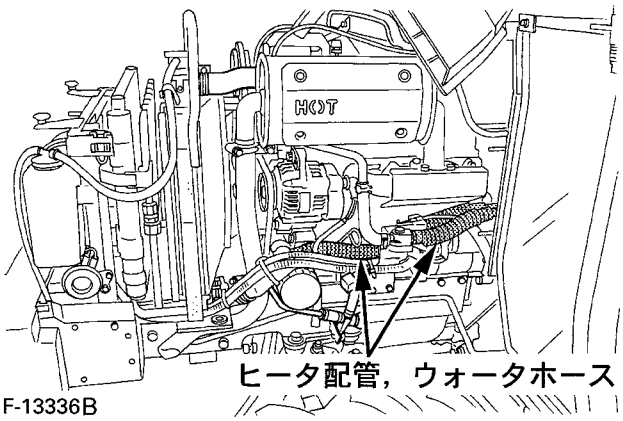
■エアクリーナエレメントの交換

エレメントの交換は 1 年間使用後，又は 6 回掃除ごとに交換が必要です。

（**[100 時間ごとの点検・整備] の [エアクリーナエレメントの清掃]** の項を参照。）

■ヒータ配管，ウォータホースの点検

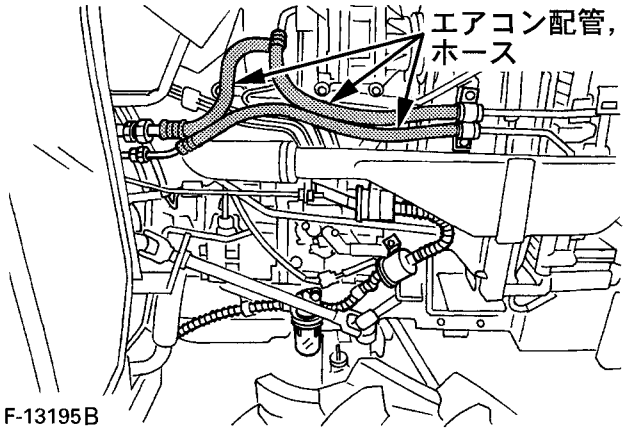
各配管及びウォータホースの損傷を点検してください。



F-13336B

■エアコン配管，ホースの点検

各配管及びホースの損傷を点検してください。



F-13195B

2年ごとの点検・整備

注 意

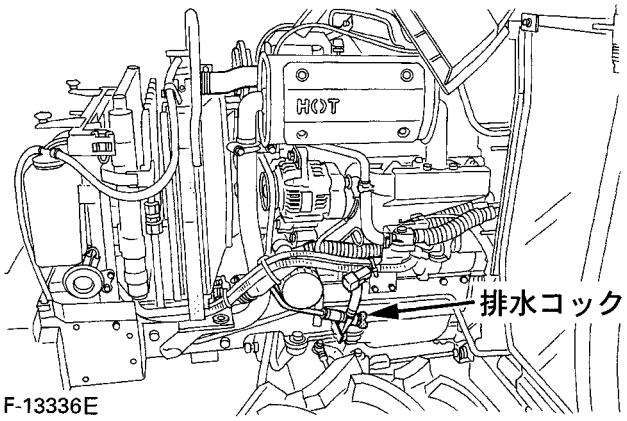
＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

■冷却水の交換

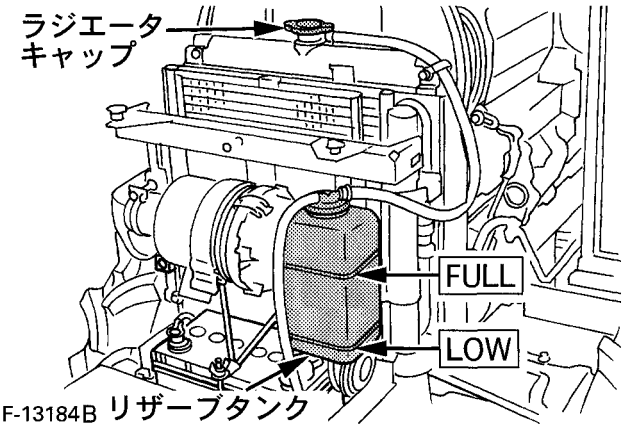
注 意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

1. ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
2. リザーブタンクの排水は，リザーブタンクを上方へ引抜いて取外し排水します。



F-13336E



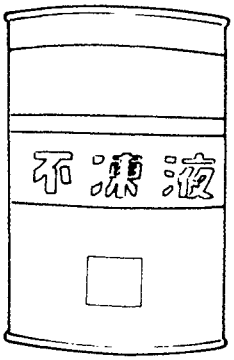
F-13184B リザーブタンク

3. 水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締め、リザーブタンクを取付けます。
4. ラジエータに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。
5. 次に冷却水をリザーブタンクの注入口まで一杯にします。
6. ヒータ **[ON]**（温度コントロールレバーを**WARM**（左端）に寄せる）にして，しばらくエンジンを回し，冷却水を暖め，エンジンを止めてください。
   冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸いこまれます。
7. その後、冷却水がＦＵＬＬからＬＯＷの間にあることを確認してください。
   冷却水がＬＯＷ以下の場合はＦＵＬＬのレベルまで補給してください。

2年ごとの点検・整備

◆不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
〔工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕



Z-1007A

重　要

* 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を 50% 入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
* 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
* 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
* クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。

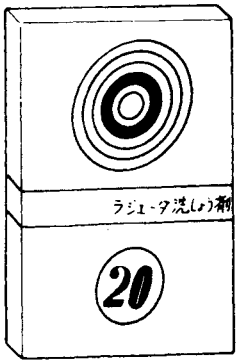
不凍液の保証不凍結温度

原液混合比 %	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度℃	-4	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40

■ラジエータの洗浄

洗浄には，クボタラジエータ洗じょう剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
* ２年使用ごと
* 不凍液を混入するとき
* 不凍液混入から水だけに変えるとき

などに使用してください。



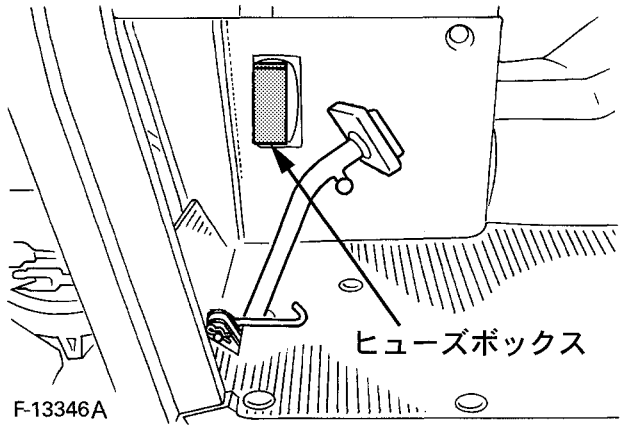
Z-1009A

■ラジエータホースの交換
■燃料パイプの交換
■モンローシリンダホースの交換
■ヒータ配管、ウォータホースの交換

購入先で点検及び交換してもらってください。

必要に応じた点検・整備

■ヒューズの交換



1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

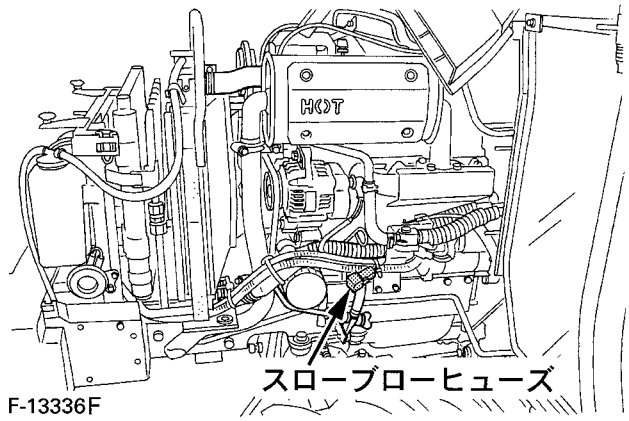
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

＊ トラクタに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換

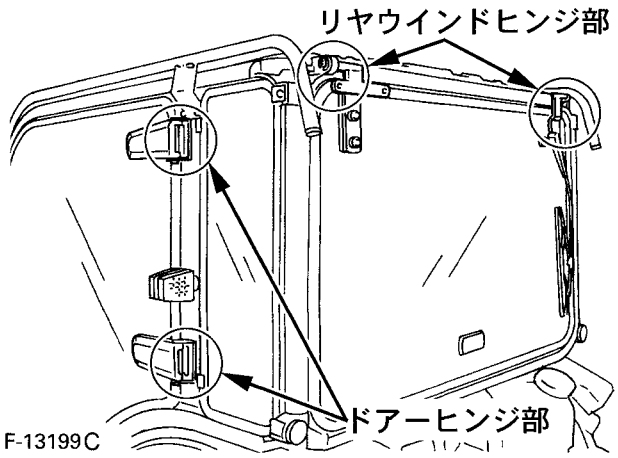
スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。



■ランプ類の交換

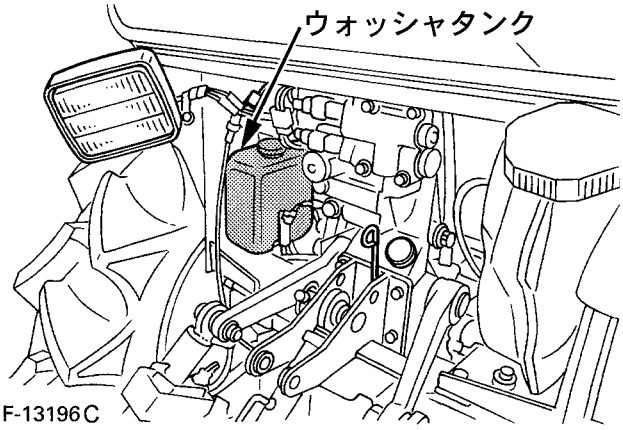
1. ヘッドランプは，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
2. その他のランプレンズを外し，バルブを交換します。

■オイルの注油



■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。



重　要

＊ 凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。
＊ 空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。
＊ ウオッシャノズルの詰まりを防ぐために，ゴミが入らないようにしてください。

必要に応じた点検・整備

■冷媒（ガス）の補充

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。
エアコンの冷えが悪くなった場合は購入先で点検及び充てんをしてもらってください。

注　意

* 長期格納時は，クラッチ固着防止のため，クラッチ［切り］に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。
* シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。

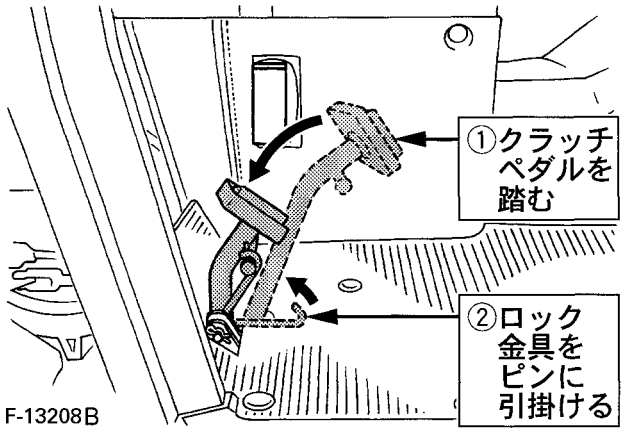
長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000 回転／分以上で 10 ～ 15 分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
6. クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

◆クラッチ［切］保持の方法

(1) クラッチペダルをいっぱい踏込み，ロック金具をピンに引掛けてロックします。
(2) 使用するときは，クラッチベダルをいっぱい踏込み，ロック金具を外します。



7. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が侵入していないことを確認してください。
8. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。

長期格納時の手入れ

9. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側（-側）を外してください。
10. オプションのウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
11. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
12. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
13. 格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
14. 格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

重　要

＊ 長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。
＊ 格納時は，必ず［**切**］の位置でキーを抜いておいてください。

不調と処置

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　　置
始動困難な場合	(1) 燃料が流れない。	●燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2) 燃料送油系統に，空気や水が混入している。	●パイプ・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修する。
	(3) 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	●ラジエータに熱湯をそそぐ。 ●気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用)
	(4) バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	●バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1) 燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。
	(2) 燃料の流れ不足	●燃料フィルタの清掃をする。
	(3) エアクリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1) 燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。
	(2) 燃料が流れない。	●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	(1) 燃料が悪い。	●良質の燃料に交換する。
	(2) エンジンオイルの入り過ぎ。	●正規のオイル量にする。
	(3) エアクリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
水温計の指針がレッドゾーン付近を示すとき	(1) 冷却水が125℃付近になったため。	●冷却水の量（不足）及び水漏れの点検 ●ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ●フロントグリル，ラジエータ、コンデンサの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない	(1) 前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰り返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	●負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰り返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	(2) ノズル不良	●ノズルを点検する。
	(3) 燃料不良	●良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

付　表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

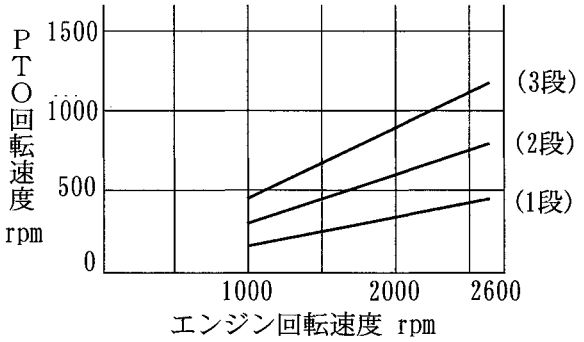
型式名			Bb260	
区分			Bb260	Bb260N
駆動方式			四輪駆動	
機体寸法	全長（mm）（注）		2500	2450
	全幅（mm）		1190	1225
	全高（mm）		1725	1665
	軸距（mm）		1420	
	輪距	前輪（mm）	860	
		後輪（mm）	950	985
	最低地上高（mm）		335	300
質量（kg）			965	945
エンジン	機関型式		V1505	
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル（E-TVCS）	
	総排気量cm^3(cc)		1498	
	出力／回転速度 kW/rpm(PS/rpm)		19.1/2600 (26/2600)	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（L）		20	
	始動方式		セルモータ式	
	バッテリ		55B24L-MF	
タイヤ	前輪		6-14	6-12
	後輪		9.5-20	8-18
車体	クラッチ方式		乾式単板（シングル）	
	制御装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）	
	かじ取り方式		インテグラル型パワーステアリング	
	差動方式		２ピニオンかさ歯車式（デフロック付）	
	変速方式		選択かみ合式，常時かみ合式、油圧無段変速併用	
変速段数			前後進無段	
走行速度（km/h）		前進	0～14.6	0～13.6
		後進	0～9.1	0～8.5
最小旋回半径（m）			1.9	
PTO	回転速度／エンジン回転速度	rpm	442,754,1192,553（逆転）/2600	
	軸寸法（mm）		JIS35	
昇降作業機装置	制御方式		ポジションコントロール	
	装着方式		３点リンク JIS １型	

注）全長はバンパ先端から後輪タイヤ後端までの寸法です。

■走行速度表

副変速レバー	Bb260		Bb260N	
	前進	後進	前進	後進
低	0～2.04	0～1.39	0～1.91	0～1.30
中	0～5.57	0～3.80	0～5.21	0～3.55
高	0～14.6	0～9.09	0～13.6	0～8.51

■PTO 回転速度表



F-13477A

標準付属品

品　名	数量 / 台	備　　考
10-12 スパナ	1	
14-17 スパナ	1	
19-22 スパナ	1	
21-26 スパナ	1	
プライヤ	1	
ヒューズ	各 1	5 アンペア , 10 アンペア、15 アンペア, 20 アンペア（以上はヒューズボックスの中にある） 30 アンペア
メインスイッチキーアッシ	1	短い方のキー
キャブキーアッシ	1	長い方のキー
取扱説明書	1	
保証書（本体）	1	
保証書（ロータリ）	1	ロータリ装着時のみ
PTO 軸キャップ	1	
ボルト	1	PTO 軸キャップ取付け用
クッションゴム	2	シート［高］位置用
キャップ	2	シート［高］位置用

付　表

アタッチメント一覧表（純正アタッチメントを使いましょう）

◆トラクタ関係

分類	品番	品名	用途・仕様		併用アタッチメント	適用タイヤサイズ
						9.5-20
補助車軸関係	99036 -2500-0	P200 反転ストレーク	外径 91,96cm 幅 20cm	5 セット／台	96023-0940-0 9.5-20 ストレーク取付け台	○
	96023 -0940-0	9.5-20 ストレーク取付け台	反転ストレーク 取付け用		P200 反転ストレーク	○

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適用トラクタ
					Bb260
前部ウエイト関係	96315 -1250-0	ブラケットアッシ（フロントウエイト）	右記 25kg ウエイトを最大 5 個まで取付可能（全重量 125kg）	99801-1100-0 HT フロントウエイトアッシ	○
	99801 -1100-0	HT フロントウエイトアッシ	25kg ウエイト	ブラケットアッシ（フロントウエイト）	○
その他	96316 -2740-0	GB16 ヒッチアッシ	P 仕様トラクタには標準装備されている		○

インプルメント一覧表

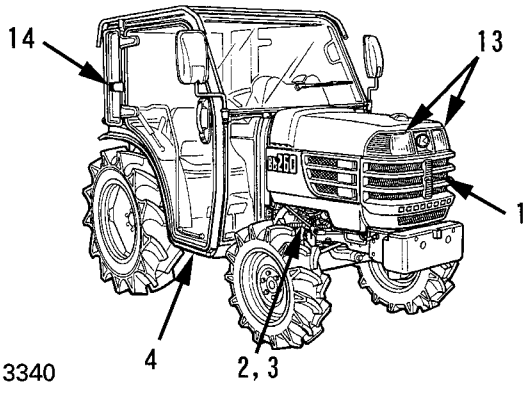
注　意

＊ トラクタ後部用作業機を装着したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重がトラクタ質量の２０％以上になるようにバランスウエイトを装着してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重がトラクタ質量の２０％以上を確保できない作業機は装着しないでください。
＊ フロントローダを使用するときは、安全性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装備してください。（詳細は購入先にご相談ください。）

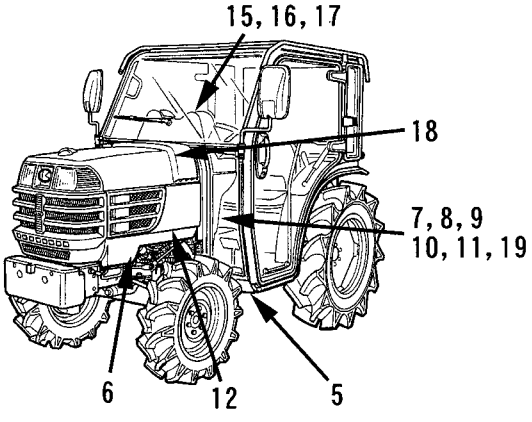
品　番	品　名
7F626-0201-1	RSP160T-ST（サイドロータリ）
7F626-0202-1	RSP160T-STV（サイドロータリ）
7F626-0208-1	RSP160T-SC（サイドロータリ）
L1147-00000	BLH300-SL グレイタスローダ
L2300-00000	RT-112(M1) 小うねマルチロータリ
L2000-00000	RT-112(GL) 取付けキット

付　表

主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）

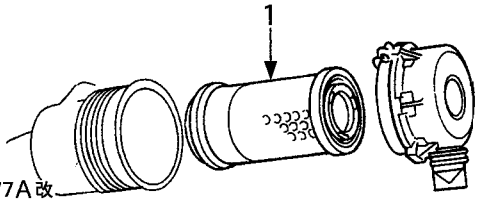


F-13340



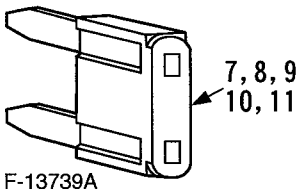
F-13340 改

エアクリーナエレメント



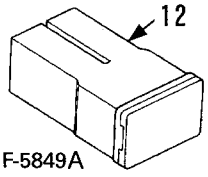
F-10177A改

ヒューズ



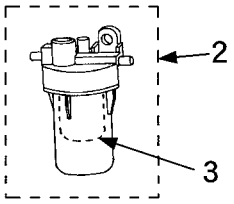
F-13739A

スローブローヒューズ



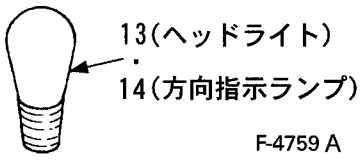
F-5849A

燃料フィルタ



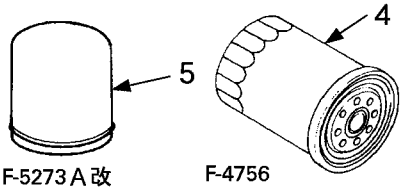
F-10169A

電球



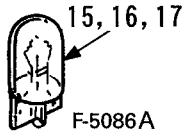
F-4759 A

油圧（ミッション）オイルフィルタカートリッジ



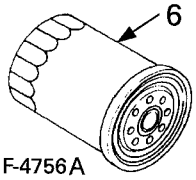
F-5273 A 改　F-4756

イージーチェッカ用ランプ
バッテリーチャージ，
グロー，
エンジンオイル，
倍速ターン，E 耕深，
耕深制御，水平制御，
電子アップ，
ブレーキ連結解除 . . 15
照明 16
方向指示器 17



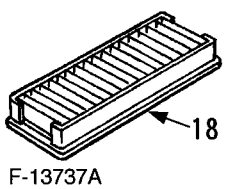
F-5086A

エンジンオイルフィルタカートリッジ



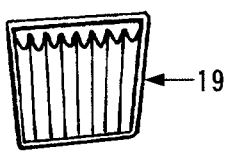
F-4756A

フィルタ（ガイキ）



F-13737A

フィルタ（ナイキ）

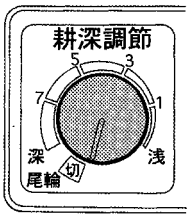
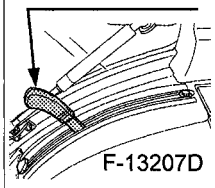
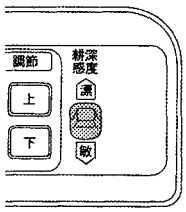
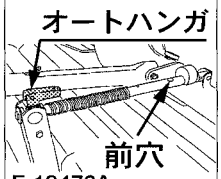


F-13738A

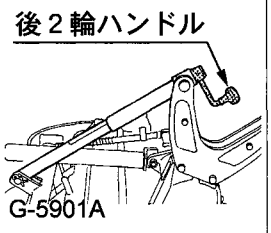
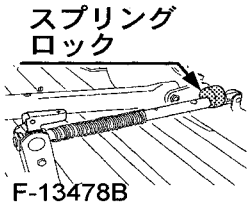
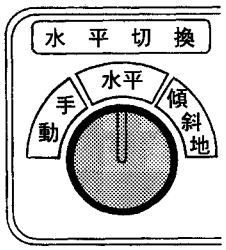
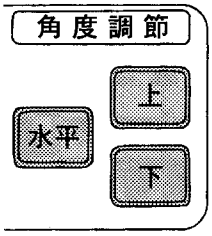
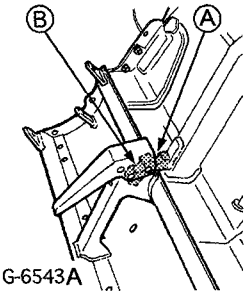
主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）

図番	品　　名	品　番
1	エレメントアッシ（130）	6A671-8263-0
2	フィルタ，アッシ (フューエル)	6A320-5886-0
3	フィルタ	6A320-5993-0
4	油圧オイルフィルタカートリッジ	T0070-3771-2
5	油圧ミッションオイルフィルタカートリッジ	66021-3606-0
6	フィルタ，アッシ (オイル，カートリッジ)	16271-3209-2
7	ヒューズ（ミニ 5A）	T1060-3043-1
8	ヒューズ（ミニ 10A）	T1060-3044-1
9	ヒューズ（ミニ 15A）	T1060-3045-1
10	ヒューズ（ミニ 20A）	T1060-3046-1
11	ヒューズ（ミニ 30A）	T1060-3047-1
12	スローブローヒューズ	T1150-3050-1
13	デンキュウ	31391-3436-0
14	デンキュウ	37410-5272-0
15	ランプ（14V,2W）	6A100-8202-0
16	ランプ（14V,3.4W）	66101-5577-0
17	ランプ（14V,2W）	6A100-8223-0
18	フィルタ（ガイキ）	6A671-7525-0
19	フィルタ（ナイキ）	6A671-7509-0

作業ごとの一般的な調整要領

作業内容			耕深調節	コントロールレバー	オート感度	オートハンガ
			 F-9373E	 F-13207D	 F-9373G 改	 F-13478A
MC オート	浅耕こし（5 ～ 8cm）		希望耕深になるよう調整	最下げ位置	標	フリー
	一般耕うん（8 ～ 15cm）					
	深耕こし（15cm 以上）					
	代かき	一般ほ場			敏	
		湿田ほ場				
E オート	荒耕こし				―	ロック位置 前穴
ポジションコントロール	畦立て		切	最下げ位置	―	カバーを上げ固定 V カバー仕様はフリー
モンローマチック	水田の耕うん		―	―	―	―
	畑の耕うん					
	プラウ作業　等					

※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。
土質など作業条件に合せて適宜調整してください。

	後２輪ハンドル	スプリングロック	水平切換	角度調節	フラップカバー
	 G-5901A	 F-13478B	 F-9373H	 F-9373F	 G-6543A
	—	最前位置 〈スプリングロックのセット位置を後方に下げ、押付け力を強くすると、カバーの動きが悪くなり、オートが作動しにくくなります。〉	—	—	B A B —
	希望耕深になるように調整	最前位置	—	—	外す
	—	—	水平 傾斜地 切	希望の角度になるよう調整	—

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタ Q－Bb260

合格番号：２０１０１４

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

１．型式名

クボタ　Bb260

２．主要諸元（最大トラクター）

■型式名		：	クボタ　Bb260
■種類		：	４輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	：	973
■軸距	mm	：	1420
■機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	：	19.1{26}/2600

Ⅱ　構造の概要

１．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管、鋼板及びアルミを主材としたボルト締めによる組立構造であり，防振ゴム・取付金具を介して，クラッチハウジング部及びディファレンシャルギヤケース部にボルトで装着。

ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

２．主な装備

シートベルト（２点式），暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

３．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		cm：	87.0(90.5)
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		cm：	124.0
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		cm：	81.0
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		cm：	86.0
■戸口の幅	(上部)	cm：	61.5
	(中部)	cm：	91.5
	(下部)	cm：	34.0
■戸口の高さ	(フートプレートから)	cm：	115.0
■最低位ステップの高さ		cm：	47.0
■キャブ装着時のトラクターの全高	(キャブ上端まで)	cm：	173.0
■キャブの全幅		cm：	107.5
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		cm：	33.0

※１．クボタ　Bb260（タイヤサイズ：前輪 6-14 2PR　後輪 9.5-20 4PR）に装着時。
２．トラクターシートの銘柄型式：テイ・エス・テック，6A100-45701、（ ）付きの数値は座席が標準出荷位置の場合
３．ステアリングホイールのチルトは上から２段目に調節。

４．主要材料

■主フレーム：A 6063 S, SS 400, SPHC, SPCE, AC4A, SGD 400-D, STK 400
■装着ブラケット：SS 400, SPHC
■組立・装着ボルト：S 40～45 C, SAE 10B23H

Ⅲ　検査成績

１．強度試験

１）水平負荷試験は，キャブの後部右側，側部左側に対して実施。

■基準質量	：	975 kg
■所要吸収エネルギー	：	後部負荷　1.57 kJ {160 kgf･m}
	：	側部負荷　2.47 kJ {252 kgf･m}
■圧壊力	：	14.33 kN {1461 kgf}

２）試験後のキャブの永久変位

■後部（前方へ）	：	右側	4.0 cm	左側	1.0 cm
■前部（後方へ）	：	右側	-4.0 cm	左側	-1.0 cm
■側部（右側方へ）	：	前側	7.5 cm	後側	10.0 cm
■上部（下方へ）	：	前部　右側	2.5 cm	左側	-0.5 cm
	：	後部　右側	1.5 cm	左側	-0.5 cm

３）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差　：　11.5 cm

２．騒音　※

■89.5 dB(A)　[クボタ　Bb260]

※7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付記

本キャブは任意鑑定受験機（平13任鑑4号）であり，強度試験，分解調査については，任意鑑定の試験成績を転用した。

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，お買い上げの販売店へ ご相談ください。

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（ ） ー
ご購入日	型式	車台番号
エンジン型式 機番	その他装着型式 機番	

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121 〒063-0061 札幌市西区西町北16丁目1番1号
機械東日本事務所：電(048)862-1121 〒338-0832 さいたま市西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：電(072)241-8506 〒590-0806 堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
機械福岡事務所：電(092)606-3161 〒811-0213 福岡市東区和白丘1丁目7番3号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(072)241-8092 〒590-0823 堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部：電(011)662-2121 〒063-0061 札幌市西区西町北16丁目1番1号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1601 〒011-0901 秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162 〒981-1221 名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部：電(048)862-1588 〒338-0832 さいたま市西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263 〒950-0992 新潟市上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121 〒924-0038 松任市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111 〒491-0031 一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部：電(072)241-8551 〒590-0806 堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011 〒683-0804 米子市米原7丁目1番1号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511 〒703-8216 岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部：電(087)874-5091 〒769-0102 香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725 〒811-0213 福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181 〒861-4147 熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(018)845-1601 〒011-0901 秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124 〒338-0832 さいたま市西堀5丁目2番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(072)241-8550 〒590-0806 堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
中四国系統推進部：電(087)874-5091 〒769-0102 香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3166 〒811-0213 福岡市東区和白丘1丁目7番3号

Bb260
AG．◎．2－2．3．AK

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

品番　6A671-6251-2